

琵琶湖博物館業績目録

第 21 号

2016 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2017 年 7 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 21

From April 2016 to March 2017

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: KOYAMA, Masaru)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, July 2017

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
副館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	8
上席総括学芸員		
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	12
環境史研究係		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	16
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	19
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	23
北井 剛	KITAI, Takeshi	27
楊 平	YANG, Ping	29
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	32
大久保 実香	OKUBO, Mika	36
妹尾 裕介	SENOO, Yusuke	40
生態系研究係		
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O.	43
松田 征也	MATSUDA, Masanari	48
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	52
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	54
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	57
安福 俊幸	YASUFUKU, Toshiyuki	60
浦山 重雄	URAYAMA, Shigeo	61
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	64
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	67
下松 孝秀	KUDAMATSU, Takahide	69
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	72
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	75
澤邊 久美子	SAWABE, Kumiko	78
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	82
博物館学研究係		
戸田 孝	TODA, Takashi	85
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	88
岡部 陽造	OKABE, Youzou	93

金尾 滋史	KANAOKA, Shigefumi	96
小林 偉真	KOBAYASHI, Hidemasa	101
渡部 圭一	WATANABE, Keiichi	104
大島 由子	OSHIMA, Yuko	108
嘱託員		
岸 妙子	KISHI, Taeko	110
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	112
中西 康介	NAKANISHI, Kosuke	114
三桝 友梨香	MIMASU, Yurika	117
名誉学芸員		
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	119
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	122
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	125
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	126
用田 政晴	YODA, Masaharu	127
特別研究員		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	128
池田 勝	IKEDA, Masaru	129
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	132
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo	133
北村 美香	KITAMURA, Mika	134
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	137
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	139
篠原 耕平	SHINOHARA, Kohei	141
朱 伟	ZHU, Wei	142
瀬口 眞司	SEGUCHI, Shinji	144
高梨 純次	TAKANASHI, Junji	146
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	147
寺本 憲之	TETAMOTO, Noriyuki	148
中野 聡志	NAKANO, Satoshi	150
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	151
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	152
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	153
ブレキモ, ロバート J.	Blakemore, Robert John	155
矢田 直樹	YADA, Naoki	156
総合研究・共同研究による印刷物		157
2016年度の研究活動をふりかえって		158

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2016年4月から2017年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

【学術論文】

【専門分野の著作】

【一般向けの著作】

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

【インターネットページでの公表】

【研究プロジェクト等への参加】

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

【大学の講義・実習、学生の指導など】

【受賞など】

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

他の博物館・機関等主催行事

視察対応

メディアへの協力

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【広報営業活動】

【新琵琶湖博物館創造室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 篠原 徹 (2016) *自然を歩く*. 公益社団法人俳人協会, 東京都.
- 篠原 徹 (2016) 教養としてのフィールドワーク. *京大広報*, 722, 京都大学企画・情報部広報課: 4629.
- 篠原 徹 (2016) ごあいさつ. 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」展示解説書, 琵琶湖博物館: 2.
- 篠原 徹 (2016) 地域発見 59 米原市醒井宿資料館・近世の宿場の建物今に. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5月17日.
- 篠原 徹 (2016) 山村生活と樹木民俗誌. *グリーン・エージ*, 7, 一般財団法人日本緑化センター: 4-7.
- 篠原 徹 (2016) 琵琶湖博物館20周年 館長あいさつ 交流、発見、そして進化する琵琶湖博物館. *びわ博だより*, 27, 琵琶湖博物館: 1.
- 篠原 徹 (2016) 湖岸より 275 節目の20周年. *中日新聞*, 中日新聞社, 10月1日.
- 篠原 徹 (2017) 命の水源—琵琶湖. *大阪保険医雑誌*, 1 (604), 大阪保険医協会: 30-33.
- 篠原 徹 (2017) 日本人の忘れもの. *京都新聞*, 京都新聞社, 1月1日.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

佛教大学, 博士論文審査委員, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2016年7月23日, 神戸大学大学院, 講義.
- 2017年1月24日, 北九州市立大学, 特別講義「フィールドワークの絶望と愉悦」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 3件.
- 2016年7月12日, 第1期リニューアル内覧会, 琵琶湖博物館, ご挨拶.
- 2016年7月14日, 第1期リニューアルオープニングセレモニー, 琵琶湖博物館, お礼の言葉.
- 2016年9月17日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.
- 2016年10月21日, 開館20周年記念 特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, 閉会挨拶.
- 2016年10月22日, 開館20周年記念式典, 琵琶湖博物館, お礼の言葉.
- 2016年10月22日, 開館20周年記念 国際シンポジウム「古代湖の魅力」, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.
- 2016年12月8日, 琵琶湖博物館・洛東江生物資源館合同セミナー, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.
- 2016年12月11日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式, 琵琶湖博物館, オブザーバー・選考委員.
- 2016年12月18日, 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.

2017年1月28日, 新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏ー新しい展示の試みー」, 琵琶湖博物館, 開講挨拶.

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月18日, 亜熱帯域のムラの民俗自然誌, 博物館文化講座469回, 沖縄県立博物館・美術館(那覇市), 講演.

2016年6月23日, リニューアルについて, 「びわ湖の日」滋賀県、草津市、(株)セブンイレブンジャパンとの共同取組に関する記者発表会, 滋賀県, 琵琶湖博物館, 説明.

2016年7月8日, 文化的景観としての琵琶湖, 近畿公立学校事務長会・近畿地区特別支援学校事務長会, 近畿公立学校事務長会研究協議会並びに総会及び近畿地区特別支援学校事務長・事務職員研究協議会, ピアザ淡海(滋賀県大津市), 講演.

2016年10月29日, エコトーク, 大津市地球温暖化防止活動推進センター, CO2削減啓発市民向けシンポジウム, コラボしが(滋賀県大津市), 対談.

2016年11月5日, 自然と技術の文明論, 日本技術士会中部本部岐阜県支部平成28年11月講演会, 日本技術士会中部本部岐阜支部, アクアウォーク大垣(岐阜県大垣市), 講演.

2016年11月16日, 俳諧・俳句と民俗学, 俳人協会創立55周年記念式典, 俳人協会関西支部, シェラトン都ホテル大阪(大阪市), 講演.

2016年11月27日, 滋賀県試験研究8機関発表会, 試験研究機関連絡会議, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.

2017年1月7日, 文化としての湖魚, 滋賀県連携講座「琵琶湖が育む食文化～湖の恵みを楽しむ滋賀の暮らし～」早稲田大学オープンカレッジ, 早稲田大学エクステンションセンター(東京都), 講演.

2017年3月5日, 傷病野生鳥獣救護事業セミナー, 三重県獣医師会, 三重県教育文化会館(津市), コメンテーター.

視察対応

2016年10月8日, 挨拶, タイ王室財産管理局, 琵琶湖博物館.

2016年11月15日, 挨拶, 前滋賀県議会議員団, 琵琶湖博物館.

2017年3月28日, 挨拶, 湖南省湖水地域環境整備・保全視察団, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2016年7月1日, 読売新聞, 幸せランチ, インタビュー, (2016年6月16日取材).

2016年7月1日, 滋賀県広報誌 滋賀プラスワン, 琵琶湖博物館リニューアルオープン, 談話.

2016年7月8日, 京都新聞, 湖とともに生きる, インタビュー, (2016年6月21日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「き」の取り札・パネル, 制作協力. モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

マケドニア共和国オフリド水生生物研究所と相互協力の合意書調印式, 調印, 2017年1月17日.

【広報営業活動】

感謝状贈呈式, 5件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会，理事.

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，会長.

【館外の活動】

国立歴史民俗博物館，名誉教授.

総合研究大学院大学，名誉教授.

琵琶湖環境研究推進機構，顧問.

環境省環境研究企画委員会，委員.

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会，委員.

公益財団法人尾瀬保護財団尾瀬賞運営委員会，委員.

財団法人長尾自然環境財団，評議員.

公益財団法人国際湖沼環境委員会，理事.

公益財団法人日本博物館協会，参与.

滋賀県立大学教育研究評議会，委員.

京都の文化的景観研究会，検討委員

滋賀県文化振興事業団，個人会員.

家畜資源研究会，個人会員.

生態人類学会，会員.

副館長

事業面においては、本年度も企業訪問を重ね、これまで博物館とつながりが薄かった層に対して、琵琶湖博物館の魅力やリニューアルの告知をするとともに、リニューアルの支援を呼びかけた。県立の研究機関に対する包括外部監査の一環として半年以上にわたり琵琶湖博物館においても監査が実施され、その対応に時間が割かれた。年度末には、その結果が公表されたが、来年度はそれらの指摘事項の改善に向けての取り組みが必要である。また、当館のWEB 図鑑における不適切な引用についても外部有識者による調査会など実施し、関係者への対応や記者発表を行った。これを機に博物館全体の倫理規範が見直された。

担当する“はしかけ”は例年どおり「ほねほねくらぶ」および「古琵琶湖発掘調査隊」の活動も行った。特に、古琵琶湖発掘隊は、これまでの成果をまとめる時期であったことから、分析や研究を重ね年度末に報告書を作成した。

研究面では、申請専門研究「展示リニューアルのための琵琶湖誕生期の動植物相の解明」を行い、2004 年度以降に古琵琶湖層群の下部と同じ時代である大分県安心院で発掘された動植物相の解析と報告書づくりを館内外の各専門分野の人達と共に行った。来年度に琵琶湖博物館の研究報告として出版する予定である。

外部資金を使った研究としては、科学研究費基盤 (C) 「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究 (2014~2016 年度)」 (研究代表者: 高橋啓一) の最終年として、多賀町四手の古琵琶湖層群から発掘された資料について、調査に参加した琵琶湖博物館の学芸員などと共に報告書づくりを行った。そのほか、科学研究費基盤 (B) 「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生 (研究代表者: 高原 光) (2014~2017 年度) の研究分担者および科学研究費補助金 (新学術領域研究) 「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」 (研究代表者: 西秋良宏) (2016~2020 年度) の研究協力者として、国内の 5 万年以降の動物相の変遷と動植物相、人類活動との関係性について調査を行い、研究会において発表を行った。

印刷物

【学術論文】

- Iijima, M., Takahashi, K. and Kobayashi, Y. (2016) The oldest record of *Alligator sinensis* from the Late Pliocene of Western Japan, and its biogeographic implication. *Journal of Asian Earth Sciences*, 124: 94-101.
- 高橋啓一・島口 天・馬場理香・北川博道 (2016) 青森県陸奥湾から産出した長鼻類化石の再検討. *化石研究会会誌*, 49 : 87-91.
- 島口 天・高橋啓一 (2016) 青森県内で採集されたウマ標本の AMS¹⁴C 年代. *化石研究会会誌*, 49 : 82-86.

【専門分野の著作】

- 高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ「古琵琶湖発掘隊」(2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手より発見されたシカ化石. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会 : 91-100.
- 高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ「古琵琶湖発掘隊」(2017) 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2012-2016) 成果のまとめ. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会 : 101-105.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一 (2016) *琵琶湖博物館ブックレット① ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori*. サンライズ出版, 滋賀県 : 109p.
- 高橋啓一 (2016) 地域でのフィールド調査・研究の情報 生まれ変わった展示. *びわ博だより*, 25, 琵琶湖博物館 : 1-2.

- 高橋啓一 (2016) 湖岸より 271 自然と人の関係性をよむ展示. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月13日.
- 高橋啓一 (2017) 化石が教えてくれる太古の琵琶湖. *ヨシで琵琶湖を守るネットワーク通信*, 27, ヨシで琵琶湖を守るネットワーク事務局: 2-3.
- 高橋啓一 (2017) 湖岸より 384 オフリド湖の旅 親交結ぶ. *中日新聞*, 中日新聞社, 3月25日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 飯島正也・高橋啓一・小林快次 (2016) 大分県宇佐市の津房川層より産出したワニ化石の再検討: 世界最古のヨウスコウワニとその生物地理的意義. 日本古生物学会2016年年会, 福井県立恐竜博物館(勝山市), [口頭発表].
- 高橋啓一・出穂雅実 (2016) 北海道における動植物相の変遷と後期旧石器時代石器群の関係. 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究」第1回研究大会, 東京大学(東京都), [ポスター発表].
- 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・Tsogtbaatar, B.・Gunchinsuren, B.・Odsuren, D. (2017) モンゴル東部オンドルハンより産出した更新世サイ科化石(予報). 日本古生物学会第166回例会, 早稲田大学(東京都), [ポスター発表].
- 高橋啓一・馬場理香・米山明男 (2017) X線CT装置によるゾウ臼歯化石の観察. 放射光イメージング研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「展示リニューアルのための琵琶湖誕生期の動植物相の解明」, (2016年度).
- 科学研究費助成事業(基盤C)「博物館, 市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者(2014~2016年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研究代表者: 高原 光), 研究分担者(2014~2017年度).
- 科学研究費助成事業(新学術領域)「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」(研究代表者: 西秋良宏), 研究協力者(2016~2020年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 化石研究会, 運営委員, 2013年6月~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8回.
- はしかけ運営「ほねほねくらぶ」・「古琵琶湖発掘隊」, 担当.
- 2016年10月2日, 化石観察会, 観察会, 三重県伊賀市, 運営.
- 2016年10月22日, 20年の歩みと第1期リニューアルを終えて, 開館式典, 琵琶湖博物館, 講演.
- 2016年10月22日, 開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力—琵琶湖と世界の古代湖—」, 琵琶湖博物館, 閉会あいさつ.

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年2月26日, もっと自慢しよう多賀町のゾウ化石・シカ化石, 多賀町歴史文化基本構想策定事業「化石発掘とまちづくり」講演会と座談会, あげぼのパーク多賀(滋賀県多賀町), 講師.

視察対応

- 2016年4月10日, 展示案内, 中国長江水利委員会, 琵琶湖博物館.
- 2016年4月26日, 展示案内, 華東理工大学, 琵琶湖博物館.
- 2016年4月27日, 展示案内, 伊藤園フォトコンテスト受賞者, 琵琶湖博物館.
- 2016年5月11日, 展示案内, 江蘇省常州市武進区人民政府副区長, 琵琶湖博物館.
- 2016年5月27日, 展示案内, 環境部新人研修, 琵琶湖博物館.
- 2016年7月14日, 展示案内, 滋賀県議会副議長, 琵琶湖博物館.
- 2016年7月15日, 博物館の概要説明および展示案内, 茨城県議会防災環境商工委員会, 琵琶湖博物館.
- 2016年8月17日, 展示案内, (株)ダイフク CSR 本部長, 琵琶湖博物館.
- 2016年8月20日, 博物館の概要説明および展示案内, 草津市観光ボランティアガイド第8期生養成講座, 琵琶湖博物館.
- 2016年8月22日, 展示案内, 包括外部監査委員, 琵琶湖博物館.
- 2016年8月26日, 博物館の設立の経緯、概要説明, 全国建設技術センター等協議会理事会, 琵琶湖博物館.
- 2016年11月15日, 館内案内, 前滋賀県議会議員視察団, 琵琶湖博物館.
- 2016年11月17日, 館内案内, 和歌山県議会議員視察団, 琵琶湖博物館.
- 2016年12月15日, 館内案内, タイ チェンライ市長、クラビ市視察団, 琵琶湖博物館.
- 2017年2月8日, 館内案内, 商工中金支店長, 琵琶湖博物館.
- 2017年3月18日, 博物館の概要説明, 藤原岳自然科学館, 琵琶湖博物館.
- 2017年3月23日, 自然史展示の説明, 熊本市博物館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2016年6月4日, NHK Eテレ, 地球ドラマチック・マンモス研究最前線!, 番組監修.
- 2017年1月25日, 朝日新聞青森総局, 陸奥湾で発見されたムカシマンモス化石について, 電話取材.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 化石標本データベース公開, 担当.
- 哺乳類標本データベース公開, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 化石資料, 受入・貸出.
- 脊椎動物資料, 受入・貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2016年6月7日～6月19日, 映画『マザーレイク』上映関連トピック展示「ビワッシーができるまで」, 解説パネル製作.
- 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「む」の取り札・パネル, 制作協力.

【企画調整活動】

- 新任職員等研修「A展示室紹介」, 講師, 2016年4月13日, 琵琶湖博物館.
- JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース, ごあいさつ, 2016年9月30日, 琵琶湖博物館.

【広報・営業活動】

- セブンイレブンジャパン「滋賀プロジェクト『琵琶湖の日』勉強会」, 講師, 2016年6月17日.
- 企業訪問, 21件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年～，図書選定委員.

2014年～，研究審査委員.

【海外渡航】

2017年1月13日～1月20日，マケドニア共和国オフリド市（オフリド水生生物研究所）およびオフリド市役所，
研究協力協定締結.

【館外の活動】

2014年4月～，琵琶湖環境研究推進機構，幹事.

2012年9月1日～，西日本自然史系博物館ネットワーク，標本救済ネットワーカー.

Together with the museum's "Hashikake" group that surveys rice paddy organisms, I monitored the occurrence of Asian tadpole shrimp, *Triops granarius*, in Otsu, where its range west of the Seta River appears to be expanding, and I also reported on several years of survey results at the annual meeting of the Zoological Society of Japan. I was co-author of a paper on the first Japanese record of a certain species of freshwater nemertean (ribbon worm). Work continued on manuscripts concerning monstilloid copepod bibliography and nomenclature. As a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on several nomenclatural cases that were brought before the Commission, and on a provisional amendment to the International Code of Zoological Nomenclature.

今年度も琵琶湖博物館の「田んぼの生き物調査」はしかけグループとともに、大津市の水田におけるアジアカブトエビの分布調査を行った。共著者として、淡水性のヒモムシの仲間の国内初記録に関する論文を印刷した。主著者としてカイアシ類モンストリラ目の文献と命名に関する2本の原稿の執筆を継続した。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の前に提案された審議会の細則の改正に関係したいいくつかの命名法に関する案件について審査意見を提出するとともに投票を行った。また、動物命名法への仮修正案に投票した。

印刷物

【学術論文】

Kajihara, H., Takibata, M. and Grygier, M. J. (2016) Occurrence and molecular barcode of the freshwater heteronemertean *Apatronemertes albimaculosa* (Nemertea: Pilidiophora) from Japan. *Species Diversity*, 21 (2), 日本動物分類学会 : 105-110.

【専門分野の著作】

International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2387 (Case 3645) - *Orthezia characias* [Bosc d'Antic], 1784 (Insecta, Hemiptera, ORTHEZIIDAE): generic and specific names available. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature : 158-160 [特にグライガー委員の意見 : 159].

International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2389 (Case 3656) - *Cerambyx striatus* Goeze, 1777 (currently *Dorcadion glycyrrhizae striatum*) and *Cerambyx striatus* Fabricius, 1787 (currently *Chydarteres striatus*) (Insecta, Coleoptera, CERAMBYCIDAE): specific names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature : 164-166 [特にグライガー委員の意見 : 165].

International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2392 (Case 3665) - *Musca purpurascens* Walker, 1836 (Insecta, Diptera, CALLIPHORIDAE): conservation of prevailing usage of the specific name by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature : 172-174 [特にグライガー委員の意見 : 173].

International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2394 (Case 3668) - *Conus antidiuvianus* Bruguiere, 1792: prevailing usage of the specific name conserved by setting aside the unidentifiable lectotype and replacing it with a neotype (Mollusca, Gastropoda, CONIDAE). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature : 177-178 [特にグライガー委員の意見 : 178].

【一般向けの著作】

- マーク ジョセフ グライガー (2016) 湖岸より 270 琵琶湖水系は固有種の宝庫. *中日新聞*, 中日新聞社, 7 月 30 日.
- マーク ジョセフ グライガー (2016) 琵琶湖で最も魅力的で気持ち悪い生き物～寄生虫たち. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 26, ヨシでびわ湖を守るネットワーク事務局: 2-3.
- マーク ジョセフ グライガー (2017) 湖岸より 286 生物多様性の研究さらに. *中日新聞*, 中日新聞社, 3 月 11 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Grygier, M. J. (2016 年 10 月 21 日) Diversity exploration and degree of endemism of Lake Biwa's invertebrates [琵琶湖の無脊椎動物相の多様性の探求とその固有性]. 開館 20 周年記念特別研究セミナー「古代湖研究最前線」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- マーク J. グライガー (2016 年 10 月 22 日) コメント: 琵琶湖の無脊椎動物相の多様性の探求とその固有性 [Diversity exploration and degree of endemism of Lake Biwa's invertebrates]. 開館 20 周年記念シンポジウム「古代湖の魅力ー琵琶湖と世界の古代湖ー」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Grygier, M. J., Kusuoka, Y., Maeda, M. and Rice Paddy Organism Survey Group (2016 年 11 月 17~18 日) Current status of the tadpole shrimp *Triops granarius* in rice paddies of Shiga Prefecture, Japan (Crustacea: Branchiopoda: Notostraca). 第 22 回国際動物学会議および第 87 回日本動物学会沖縄大会の合同大会, 沖縄コンベンションセンター (宜野湾市), [ポスター発表].
- Ota, Y., Okanishi, M. and Grygier, M. J. (2016 年 11 月 18 日) International Symposium IS-25 「Delving into Overlooked Zoology」. 第 22 回国際動物学会議および第 87 回日本動物学会沖縄大会の合同大会, 沖縄コンベンションセンター (宜野湾市), [運営].
- Grygier, M. J. (2016 年 12 月 21 日) Hunting for 'cute monsters' in freshwater, groundwater, and the sea. (台湾) 東海大学生命科学系セミナー, 東海大学生命科学系 (台湾台中市), [口頭発表].
- Grygier, M. J. (2017 年 2 月 1 日) Hunting for 'cute monsters' in freshwater, groundwater, and the sea with special attention to biodiversity exploration in and around Lake Biwa, Japan. 第 45 回 瀬戸海洋生物学セミナー, 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (和歌山県白浜町), [口頭発表].
- Grygier, M. J. (2017 年 2 月 17 日) 固有種の可能性がある数多くの琵琶湖産微小動物について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「寄生性生物および田んぼにおける甲殻類に関する研究」, (2016 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本動物分類学会, 日本動物分類学会・動物命名法国際審議会支援委員会, 委員, 2016 年 12 月 31 日まで.
- 日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.
- The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 7 件.
- Systematic Parasitology*, Associate Editor.
- Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.
- 国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.
- 動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 査読, 4 件.
- Zootaxa*, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

はしかけ運営「田んぼの生き物調査グループ」，担当。

2016年8月20日，生き物コレクション（甲殻類、寄生生物、その他無脊椎動物、固有種），博物館で楽しもう！，琵琶湖博物館，講師。

2016年8月29日，資料分野実習（微小生物液浸），博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2017年3月25日，琵琶湖の無脊椎動物を探るーその多様性と固有性。新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏ー新しい展示の試みー」，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月16日，琵琶湖の生態系について，京都大学，（タイ）カセサート大学学生受入事業，琵琶湖博物館，講義。

2016年9月1日，琵琶湖博物館における環境教育，ILEC，JICA「統合的流域（河川・湖沼・沿岸域等）管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修，琵琶湖博物館，講義。

2016年11月15日，滋賀県立守山高等学校「SGH探求」に係るフィールドワーク，対応。

2017年1月19日，（生態系に係る）琵琶湖とその周辺について，京都大学農学研究科，（インドネシア）ボゴール農業大学学生受入事業，旧UNEPの施設（滋賀県草津市），講義。

2017年3月1日，Lake Biwa and Lake Biwa Museum，（公益財団法人）国際エメックスセンター，ILEC（滋賀県草津市），講義。

視察対応

2016年5月24日，「環境学」研修，ミシガン州立大学連合日本センター，琵琶湖博物館。

2016年6月30日，Lake Biwa and Lake Biwa Museum，平成28年度滋賀県高校生海外相互派遣事業に係るミシガン州から高校生派遣団，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2017年1月8日，朝日新聞滋賀版，おうみにつどう 琵琶湖博物館学芸員マーク ジョセフ グライガーさん（60）淡水生物研究 夢中に，インタビュー，（2016年12月6日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

図書室特集コーナー「琵琶湖博物館学芸員さんお気に入りの一冊」，協力，2017年1月20日～2017年3月21日。

標本受入，無脊椎動物（昆虫、貝類を除く），1件1755点（大型鰓脚類）。

標本の仮登録，23点。

貸出，1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネルの完全更新，1件，部分的更新，2件。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「ち」の取り札・パネル，制作協力。

社会福祉法人グローの依頼による展示「アール・ブリュート」，担当者（2016年10月31日まで）。

モーニングレクチャー，講義，4回。

他博物館・機関の活動

滋賀県立安土城考古博物館，屋外展示と常設展示の一部，展示説明の英語編集.

【企画調整活動】

JICA 研修 博物館とコミュニティ開発コース (JICA Museums and Community Development Course)，副担当.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C 展示室「生き物コレクション」・「TNB48」・「研究スタジアム」コーナー，メンバー.
水族展示室「マイクロアクアリウム」，メンバー.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員 2 名 (Robert J. Blakemore、中西康介)，受け入れ担当.

館内人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016 年度，国立民族学博物館，国際研修博物館学コース，運営委員会委員.

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員.

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部 (無脊椎動物学研究科)，協力研究員.
動物命名法国際審議会，委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、昨年度に引き続き申請専門研究「琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷」を軸に、植物化石からみた琵琶湖の水生植物相の変遷を捉える調査研究を行った。その成果については、日本植物分類学会でポスター発表を行った。また、科学研究費基盤（C）「博物館，市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」（研究代表者：高橋啓一）では、滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古環境解析を行うため、発掘調査および資料収集を行い、これまでの4年間の成果を報告書にまとめた。その他では、第3期展示リニューアルを見据えて、共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」（研究代表者：林 竜馬）を進め、滋賀県長浜市西浅井町山門地先にある山門湿原のボーリングコア試料を用いた最終氷期の古植生復元の研究として、大型植物化石の洗い出しと選別・同定作業を行っている。

印刷物

【学術論文】

- Yamakawa, C., Momohara, A., Saito, A. and Nunotani, T. (2017) Composition and paleoenvironment of wetland forests dominated by *Glyptostrobus* and *Metasequoia* in the latest Pliocene (2.6Ma) in central Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 467: 191-210.
- Yabe, A. and Yamakawa, C. (2016) Revision of *Cunninghamia protokonishii* Tanai et Onoe (Pinopsida, Cupressaceae) from East Asia. *Paleontological Research*, doi:10.2517/2016PR032. Available online 15 Dec 2016.

【専門分野の著作】

- 山川千代美・神谷悦子・布谷知夫（2017）滋賀県多賀町四手産の大型植物化石に基づく古植生. *多賀町立博物館報告書*: 27-37.

【一般向けの著作】

- 山川千代美（2016）湖岸より 276 20年の研究リニューアルに. *中日新聞*, 中日新聞社, 10月15日.
- 山川千代美（2016）20周年特集記事 2 琵琶湖博物館が目指す研究. *琵琶博だより*, 27, 琵琶湖博物館: 3-4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 山川千代美（2016年7月22日）滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古植生復元. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 山川千代美・神谷悦子・古代ゾウ発掘プロジェクト（2016年8月7日）滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古植生復元に向けて. 多賀町立博物館報告会, 多賀町立博物館（滋賀県）, [口頭発表].
- 柴崎大樹・高原 光・佐々木尚子・河野樹一郎・山川千代美（2016年11月20日）比良山系蓬萊稜線部における植生変遷とササ草原の成立過程—小女郎ヶ池堆積物の古生態的分析に基づく検討—. 第31回日本植生史学会大会, 専修大学生田キャンパス（川崎市）, [口頭発表].

山川千代美（2016年11月20日）植物相から見た古琵琶湖の動物たちが生きた環境。化石研究会第146回例会，化石研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

神谷悦子・山川千代美・古代ゾウ発掘プロジェクト（2017年2月18日）多賀のアケボノゾウはこんなところに住んでいたPart2. 第32回地学研究発表会，滋賀大学サテライト（滋賀県大津市），[口頭発表].

山川千代美・松本みどり（2017年3月10日）上部鮮新-中部更新統古琵琶湖層群産化石ヒシ (*Trapa*) 属の果実形態からみた変遷。日本植物分類学会第16回大会，京都大学（京都市），[ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷」，（2013～2016年度）.

琵琶湖博物館共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」（研究代表者：林 竜馬），副代表（2015～2017年度）.

科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」（研究代表者：高橋啓一），研究協力者（2014～2016年度）.

【学会の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会 地質学雑誌 査読，1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.

2016年5月22日，はしかけ「古琵琶湖発掘調査隊」活動，講師.

2016年8月25日，研究活動について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

2016年10月2日，化石観察会，観察会，服部川河床・三重県伊賀市，実施.

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月23日～5月1日，古代ゾウ発掘プロジェクト第4次発掘，多賀町立博物館.

2016年6月4日，県立米原高等学校地学クラブ，野外調査，講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館ホームページ「古代湖情報発信」ページ，制作.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

古琵琶湖層群産化石標本，受入対応・標本整備推進.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「や」の取り札・パネル，制作協力。モーニングレクチャー，講義，4回.

他の博物館主催の活動

同志社大学社史資料センター企画展示計画，展示準備協力.

【企画調整活動】

マネジメント会議.

琵琶湖博物館協議会.

JICA 研修 博物館とコミュニティ開発コース「琵琶湖博物館での研究活動」, 講師, 2016年11月1日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館名誉学芸員, 新規および更新手続き.

琵琶湖博物館特別研究員 (川那部浩哉・用田政晴), 受入担当.

研究部代表者会議, 運営.

学芸会議, 運営.

文部科学省科学研究費補助金, 対応.

外部監査, 対応.

県試験研究機関連絡会議.

琵琶湖環境研究推進機構.

ICOM 京都大会関連会議.

環境史研究領域会議, 運営.

開館20周年記念国際シンポジウム, 特別研究セミナー, エクスカーション, 総括, 2016年10月19日~22日, 琵琶湖博物館.

研究審査会, 2016年9月24日, 記録, 琵琶湖博物館.

研究報告会, 2017年1月21日・22日, 対応, 琵琶湖博物館.

地学研究発表会, 2017年2月18日, 運営, 滋賀大学サテライト (滋賀県大津市).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

中日新聞掲載記事, 添削.

【館外の活動】

平成28年度 (第4回) しが生物多様性大賞, 審査委員.

地層から過去の地層ができる環境解析を行うことや、地層中の火山灰層から、地層の年代決定や、過去の火山活動の検討を行うことを中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？を知る研究に結びついている。

今年度は、申請専門研究「琵琶湖南湖の湖岸沖合堆積物に関する基礎的研究」として、現在の琵琶湖湖底の堆積物を対象として、沿岸から沖合への湖底への堆積物供給についての基礎的研究を行った。これは、現在の琵琶湖堆積物から、過去の洪水記録を知ることが目的としたものである。しかしながら、今年度の検討結果からは、南湖の沿岸から沖合への基本的な堆積システムの解明が必要であり、その上で本研究の目的である検討がなされる必要があることがわかった。申請専門研究は単年度で行ったものであるが、この結果を踏まえて、南湖の湖底堆積物の堆積学的検討を行っていきたい。また、このような研究は、同様に浅い湖であったと考えられている初期古琵琶湖の大山田湖の堆積システムの検討への役立つ情報を提供すると予想される。また、以前行っていた総合研究の研究結果をうけて、初期古琵琶湖の古環境解明についての検討も行っているが、よい成果は出されていない。研究成果の公表としては、過去に行った調査結果の論文の他、現在進めている途中経過ではあるが学会発表を2件行った。

事業的には、今年度は第1期リニューアルオープンの日であることから、その準備にあたり、また、オープンが夏休み開始時期と重なっていたことから、多くの来館者が予想されたことからその対応にあたった。

また、地域の人びとがフィールドのおもしろさを紹介する「地域の人びとによる展示コーナー」の展示替えを行った。特に、今年度後半には、展示をされた方による展示室での交流を多く実施していただき、その対応にあたった。その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【学術論文】

里口保文 (2016) 宮崎層群とのテフラ対比からみた津房川層最下部の年代. *地質学雑誌*, 122 : 223-229.

【専門分野の著作】

Ito, M., Kameo, K., Satoguchi, Y., Masuda, F., Hiroki, Y., Takano, O., Nakajima, T. and Suzuki, N. (2016) Neogene-Quaternary sedimentary successions. In: Moreno, T., Wallis, S., Kojima, T. and Gibbons, W. (eds) *The Geology of Japan. Geological Society*, London: 306-337.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

里口保文 (2016年9月10日) 近畿地方におけるEb-Fukuda テフラ上位のテフラ層. 日本地質学会第123年大会, 日本地質学会, 日本大学 (東京都世田谷区), [ポスター発表].

里口保文 (2016年9月16日) 琵琶湖堆積盆の堆積速度. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

里口保文 (2016年9月17日) 烏丸地区深層ボーリングコアの火山灰対比と堆積速度の再検討. 日本第四紀学会2016年大会, 日本第四紀学会, 千葉大学 (千葉市), [ポスター発表].

里口保文 (2016年11月20日) 琵琶湖の新たな地史を探るー水系の変化をどう読み解くかー. 化石研究会第146回

例会, 化石研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖南湖の湖岸沖合堆積物に関する基礎的研究」, (2016年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者: 橋本道範), 副代表者 (2014年度~2018年度).

科学研究費助成事業(基盤 C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者: 高橋啓一),
研究分担者 (2014~2016年度).

科学研究費助成事業(基盤 B)「鉍質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」(研究代表者: 大塚泰介), 連携研究者
(2014~2017年度).

科学研究費助成事業(基盤 B)「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究
分担者 (2015~2018年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

INQUA, Quaternary International, 査読, 2件.

群馬県立自然史博物館, 群馬県立自然史博物館研究報告, 査読, 2件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年度前半期, 滋賀県立大学学部学生, 「環境地球科学 II」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「大津の岩石調査隊」, 担当.

2016年10月2日, 化石の観察会, 観察会, 三重県伊賀市, 副担当, (伊賀盆地化石研究会・北田 稔氏と共同).

2016年11月19日, 琵琶湖学習2016, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 相談, 4件.

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月25日, 琵琶湖の誕生, 滋賀県立大学同窓会「湖風会」, 同窓会総会, 滋賀県立大学(彦根市), 講演.

2016年7月24日, 琵琶湖の生い立ち, NPO法人びわこ豊穰の郷, 第19回赤野井湾探検会, 守山漁港(滋賀県守山市), 講師.

2016年8月3日, 琵琶湖の生い立ちと亀山市の地質, 亀山市教育研究会, 琵琶湖博物館訪問, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年8月25日, 湖東流紋岩・鈴鹿西縁断層, 愛荘町役場環境対策課, さわやかまちづくり推進会議委員研修,
琵琶湖博物館, 講師.

2016年10月12日, 古琵琶湖層群の火山灰の観察, 米原高校理数科, 1年理数科フィールドワーク~琵琶湖博物館
実習~, 琵琶湖博物館, 実習・講義担当, 2件.

2016年12月6日, 古琵琶湖研究の新知見, 滋賀県理科教育研究会地学部会, 部会研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年1月24日, 古琵琶湖について, 滋賀大学「学習支援士」会, 研修, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2016年5月11日, NHK大津局, おうみ発630・おうみ845, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月10日取材).

2016年5月12日, 毎日新聞滋賀版, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月10日取材).

2016年5月12日, 中日新聞滋賀版, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月10日取材).

2016年5月13日, 産経新聞滋賀版, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月12日取材).

2016年5月18日, 京都新聞滋賀版, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月12日取材).
2016年5月22日, 朝日新聞滋賀版, 滋賀県の石についての解説, (2016年5月20日取材).
2016年5月28日, 中日新聞滋賀版, トピック展示滋賀県の石の説明, (2016年5月27日取材).
2016年6月1日, 京都新聞滋賀版, トピック展示滋賀県の石の説明, (2016年5月31日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ, 企画・運営, 数件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

はぎ取り資料の貸し出し, 対応.

ボーリングコア資料の貸し出し, 対応.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示運営補助員(展示交流員)との連絡調整, 担当.

2017年度企画展示, 進行管理.

2016年5月27日~7月6日, トピック展示「日本地質学会が選んだ滋賀県の石」, 企画・展示作成.

2016年7月1日, A展示室新着標本展示, 展示標本の入れ替え.

2016年9月17日~2017年1月31日, 企画展示「びわ博カルタ」, 展示協力.

2016年9月30日, A展示室地域の人々による展示コーナー, 受け入れ対応.

A展示室地域の人々による展示コーナーの展示交流, 受け入れ対応, 22件.

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「つ」の取り札・パネル, 制作協力.
繁忙期対応, 担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「地域の人と行う研究の紹介」, 講師, 2016年11月5日, 琵琶湖博物館.

【広報・営業活動】

資料提供「琵琶湖博物館トピック展示『日本地質学会が選んだ滋賀県の石』の実施」, 資料作成, 2016年5月26日.

【研究部関連事業】

試験研究機関連絡会議8機関発表会, 受け入れ・運営, 2016年11月27日, 琵琶湖博物館.

試験研究機関連絡会議, 幹事.

琵琶湖環境研究推進機構, 調査員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度, 琵琶博だより・うみっこ通信, 編集委員.

【館外の活動】

2014年12月~2016年5月, 日本地質学会, 県の石選定委員会, 委員.

2015年8月～2017年7月，日本第四紀学会，評議委員会，評議員.

2015年9月～2017年8月，日本第四紀学会，第四紀研究編集委員会，編集委員.

2016年4月～2018年3月，日本地質学会，代議員，地方区代議員.

2016年5月～2018年3月，日本地質学会近畿支部，近畿支部，幹事長.

I、総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者橋本道範、2014年度～2018年度）及び科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」（研究代表者橋本道範、2015年度～2018年度）については、『日本史研究』649号に「地域環境史の課題」と題する論考を掲載した。その骨子をまとめると下記の通りである。

・環境史の本質を「人間中心主義でも環境決定論でもない新しい試行錯誤」（小塩和人 2003）と理解し、自然と人間との三つの関係、①人間が主体であり、自然が客体であるという関係、②人間も自然も相互に主体となるという関係、③人間が客体であり自然が主体であるという関係（嶋崎隆 1990）を捉えるために、固有の運動法則と時間スケールをもつ自然を地球科学的自然・生態学的自然・人間的自然の三つに整理した。その上で、国家という枠組みの比重が相対的に弱くなる環境史は、基本的には地球規模の自然と人間との関係を扱う「地球環境史」と「地域環境史」より構成されたと考えた。

・人文学において地域は、客観的に存在するものではなく、あくまで主体である人間が選びとるものとされるが、単に、人間だけで選び取るものではなく、地球科学的自然が創り、生態学的自然と人間とがともに選び取った範囲を地域とした。

・「自然に対する主体的な働きかけのなかから、自らの生活を立てる人びとにとっては、「自然のもつ多様な機能から労働・生活に役立つ様々な価値をひき出す」行為、それが生業である」とした春田直紀の定義を継承し（春田直紀 1995）、生業を軸に三つの自然相互の関係を捉えることとした。また、生業の変化に影響を与えるものとして消費動向を重視した。

これらの点について、第七回研究会（2016年9月3日～9月4日）、第八回研究会（2017年1月7日～1月8日）を開催し、「地域環境史モデル」の構築について議論した。現在、様々な方からご助言をいただき、「地域環境史」の枠組みを修正しているところである。

なお、消費論については、「ふなずし」消費の歴史的多様性を明らかにした『再考ふなずしの歴史』を刊行することができた。滋賀県の現在の「ふなずし」は、固有の生態系を有する琵琶湖地域で近世に独自に発達したものと考えている。また、自身の村落論（「非力の村」論）について整理を行い、「湖辺」の定義、ムラの確立と領主支援との関係について論じた。

II、科学研究費補助金基盤研究（B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」（研究代表者青柳周一氏、2012年度～2015年度）において、菅浦文書の再翻刻に向けて、作業を分担した。

III、京都大学人文科学研究所研究班「環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ—」について、「地域環境史モデル試論—フナを主体とした物語は描けるか—」と題して報告した。ここでは、琵琶湖のフナ属の形態・生態・進化、分類・価値付け・消費について紹介し、エリ漁を通してフナを主体した「近代になる」こととは異なる「大きな物語」が描けないか議論を試みた。

IV、日本史研究会編集委員として、会誌『日本史研究』の編集を分担した。特に、『日本史研究』646号「特集 古気候学データとの比較による歴史分析の可能性」の編集を行った。

V、その他事業関係の業務については下記に概要を示すが、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の一環として取り組んだ「地域文化の価値発見発信事業」において、ヨシ卸売業西川嘉右衛門家の調査を行い、「琵琶湖のヨシのお話会」（2017年2月18日）を開催したことを特筆しておく。

印刷物

【学術論文】

橋本道範（2016）地域環境史の課題。『日本史研究』649：40-65。

【専門分野の著作】

- 橋本道範 (2016) 室町時代の「ふなずし」—山科家と蜷川親元の日記から—。橋本道範 編, *再考 ふなずしの歴史*, サンライズ出版, 滋賀県: 102-141.
- 橋本道範 (2016) 「湖辺」のムラの確立と創造—「非力の村」論からみる—。神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報 *LINK【地域・大学・文化】*, 8: 22-33.
- 橋本道範 (2016) わかってきた「ふなずし」の歴史。日本調理科学会誌, 50-1: 35-37.
- 橋本道範 (2017) 『近江水産図譜』を読む—琵琶湖漁撈の構図—。歴史と民俗, 33, 神奈川大学日本常民文化研究所: 45-74.

【一般向けの著作】

- 橋本道範 編 (2016) *再考 ふなずしの歴史*. サンライズ出版, 滋賀県: 333p.
- 橋本道範 (2017) 資料裏話 その24 フナズシを漬けよう!. *びわ博だより*, 28, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 橋本道範 (2016年9月16日) 地域環境史の課題Ⅲ—総合研究『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』の取り組み—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 橋本道範 (2016年11月7日) 地域環境史モデル試論—フナを主体とした物語は描けるか—. 京都大学人文科学研究所研究班「環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ—」, 京都大学人文科学研究所 (京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるか—環境史への挑戦—」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2014~2018年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤B) 「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2015~2018年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤A) 「「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」(研究代表者: 青柳周一), 研究分担者 (2016~2020年度).
- 京都大学人文科学研究所「環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ」(班長: 大浦康介), 班員 (2015~2016年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本史研究会, 編集委員, 2015年10月~2017年10月.
- 日本史研究会, 査読, 5件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2016年度前期, 岡山理科大学, 「歴史学」.
- 2017年2月21日, 滋賀県立大学, 「資料保存環境を維持するための実務—IPMを中心に—」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件。

2016年8月30日，IPMについて―地道にこつこつ―，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2016年8月10日，知っていますか？琵琶湖の話―琵琶湖とフナとフナズシ―，草津市民センター，琵琶湖博物館，講師。

2016年8月28日，琵琶湖が有する様々な価値について，天理大学国際学部外国語学科，琵琶湖博物館，講師。

2016年9月18日，博物館資料とその整理について，京都女子大学文学部国文学科，琵琶湖博物館，講師。

2016年10月29日，近江八景と琵琶湖の歴史文化について，草津市都市計画課景観グループ，琵琶湖博物館・高速船 megumi（草津市），講師。

2016年11月6日，博物館資料とその整理について，愛知学院大学文学部歴史学科，琵琶湖博物館，講師。

2016年11月12日，中近世の湖辺と漁撈，平成28年度秋期企画展記念講演会，野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）（滋賀県野洲市），講師。

2016年11月30日，コメント，ふなずし試食会，渋川小学校（滋賀県草津市），講師。

2016年12月21日，ふなずしの歴史，米原市歴史講座，伊吹山文化資料館（滋賀県米原市），講師。

2017年2月18日，琵琶湖のヨシのお話会，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖博物館，企画・運営。

2017年2月19日，フナズシの歴史，伝統食―鮒寿司茶づけを味わう会，野洲川でんくうの会，野洲川田園空間センター（滋賀県野洲市），講師。

2017年2月19日，研究者の視点 ふなずしの世界的価値，「世界農業遺産」認定をめざして 第2回シンポジウム，滋賀県農政水産部，滋賀県立県民交流センター（大津市），講師。

2017年2月22日，琵琶湖の民俗史，成安造形大学芸術学部芸術学科，成安造形大学（滋賀県大津市），講師。

メディアへの協力

2016年7月31日，滋賀民報，「再考ふなずしの歴史」，取材対応，（2016年7月22日）。

2017年2月20日，京都新聞，麴使用や3年漬けも，取材対応，（2017年2月19日）。

2017年2月26日，中日新聞，風土特有の保存食，取材対応，（2017年2月2日）。

2017年3月31日，京都新聞，米違い ふなずしの味比べ，取材対応，（2017年3月30日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫資料展情報のweb発信，9件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫），7回。

大掃除（B展示室・歴史研究室），1回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年度、収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」，補助，7件。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「ふ」の取り札・パネル，制作協力。

2017年2月7日～3月12日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第69回・「代々続くヨシ問屋 西川嘉右

衛門家の暮らし」関連ミニ展示「琵琶湖地域のヨシ」，補助。
B展示室常設展示陳列替え，3件。
モーニングレクチャー，講義，4回。

他博物館・機関の活動

2017年2月7日～26日，代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，展示補助。

【企画調整活動】

新任職員等研修「B展示室について」，講師，2016年4月13日，琵琶湖博物館。

事業活動としては、新琵琶湖博物館創造室に所属し、第1期および第2期リニューアル事業に関する技術担当として、設計や積算、発注資料の作成、委託業務の進捗管理、関係機関との協議、予算要求資料の作成等に多くの時間と労力を費やした。第1期リニューアル事業においては、C 展示室展示物制作の内容調整（河川関係）を行ったほか、第1期リニューアル展示制作業務委託に係る契約変更明細書（C 展示室分）を作成した。さらに、第2期リニューアルにおいては、旧 UNEP 改修の担当として、改修後の交流・休憩ゾーンの運用方針案について整理したうえで、ユニバーサルデザインに配慮した整備を図るため有識者へのヒアリングを行うなどして、具体的整備内容について検討し、施設改修実施設計業務（建築課）との調整を行った。また、樹冠トレイルの副担当として、整備予定地の地質構成および土質強度を調べるための地質調査業務、施工条件の整理や最適橋種の選定を行うための橋梁予備設計業務、工事発注図面と数量をとりまとめるための橋梁詳細設計業務の計3つの業務委託の発注と監督を行った。また、これらの業務と並行して、工事実施の際に必要な関係法令許認可手続きに係る各行政機関との協議や、土地所有者との協議を行った。さらには、次年度の円滑な工事実施に資するため、工事積算業務委託や現場技術業務委託、資材単価調査業務委託の発注を企画し、関係機関との協議を行った。また、県庁の関係各課と調整し、土木工事前積算システムを琵琶湖博物館に本格導入したほか、土木工事積算基準書や技術指針を収集し、次年度の樹冠トレイル工事発注と監督体制の整備を図った。

事業部展示係においては、常設展示維持管理業務委託を監督し、展示造形物の補修等を随時行った。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定と除草を行ったほか、樹冠トレイル地質調査業務に係る地質ボーリングの支障となる樹木の伐採を行った。

研究活動では、愛知川の土砂動態に関する研究を行った。愛知川では、河口部での砂浜侵食や、河道部での河床低下やアーマーコート化、河床材料の粗粒化などの問題が見られるが、これらの要因として、上流の永源寺ダムによる流出土砂量の減少などが指摘されている。こうした愛知川流砂環境の改善を図るため、河道の営力を利用する対策案を抽出し、過年度に作成された土砂動態モデルを用いて、河口到達土砂量の観点から評価を行った。その結果、どの対策案も砂浜維持に必要な土砂量が河口まで到達しないことが判明する一方で、中上流部の河床低下や粗粒化には一定の効果があることも示唆された。

愛知川に限らず、ダム下流河川の流砂環境の改善は全国で大きな課題となっており、特にダム堆砂が深刻な河川においては、堆砂の河川への還元について多くの先行事例がある。こうした事例についての情報収集を行った。また、今後の具体的な対策案を検討するにあたっては、対策案実施に伴う影響について事前に詳細に予測することが必要であると考えられる。そのために有効な手段となり得る2次元河床変動計算によるシミュレーションについて、実施事例等の文献調査を行い、過年度の航空レーザー測量データや河床材料調査データを用いたシミュレーションモデルを新たに構築した。今後、このモデルによる解析を行うなどして、具体的な対策案の検討を進めていく。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北井 剛 (2016年10月28日) 愛知川の土砂移動に係る課題と今後の対策案について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

水野敏明・東 善広・北井 剛 (2017年3月27日) 愛知川におけるアユの産卵面積と河川水位の統計モデル解析. 平成29年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 東京海洋大学 (東京都港区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「愛知川の土砂動態に関する研究」，(2016年度).

琵琶湖環境研究推進機構「水系のつながりと在来魚介類の分布・移動との関係把握」，河川解析班.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件.

視察対応

2016年10月26日，琵琶湖総合開発について，吹田市人権啓発推進協議会千二地区委員会，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「え」の取り札・パネル，制作協力.

2016年度，常設展示維持管理，主担当.

常設展示維持管理委託，主担当.

屋外展示維持管理委託，主担当.

モーニングレクチャー，講義，4回.

展示交流員と話そう，内容指導.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

調整業務に関すること，施工業者との技術的調整に関すること，主担当.

C展示室のリニューアルに関すること，「川から森へ」に関すること，副担当.

第2期リニューアル 交流空間に関すること，旧UNEP改修に関すること，主担当.

第2期リニューアル 交流空間に関すること，レストラン・ショップに関すること，副担当.

第2期リニューアル 交流空間に関すること，樹冠トレイルに関すること，副担当.

第2期リニューアル 樹冠トレイル地質調査業務委託，主担当.

第2期リニューアル 樹冠トレイル予備設計業務委託，主担当.

第2期リニューアル 樹冠トレイル詳細設計業務委託，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度，滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境係，主査を兼務.

2016年度，びわ博だより・うみっこ通信，編集委員.

平成 28 年度（2016 年度）の事業活動においては、琵琶湖博物館 C 展示室リニューアル事業に関連する展示業務を行ったほか、暮らしと水、富江家の暮らしの展示更新を実施した。リニューアルオープンに伴う来館者への対応にあたったとともに、リニューアルした展示室での展示交流を重点に実施した。また、地域と博物館との連携を促進するため、地域住民や関連分野の研究者などと積極的に連携をとり、新空間にて「水と博物館」および「魚米の郷」をキーワードとした展示実施（9 月と 11 月）や展示交流会を実施した。さらに、研究成果の地域還元につなぐ交流事業活動の一環としては、大学生に向けて「琵琶湖研究」や「琵琶湖博物館研究調査」の紹介を含め、講義内容に盛り込んで実施した。

日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究（B））「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」、また日本学術振興会科学研究費補助金事業（新学術領域研究（研究領域提案型））「民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相」において、東アジアの中での琵琶湖の固有性を明らかにするため、太湖地域のフィールド調査を踏まえて、稲作社会における資源利用と地域づくりに関する共同研究を行った。今年度は、これらの研究成果の一部を新空間展示にて一般公開を実施したとともに、『生活環境主義のコミュニティ分析』（分担執筆）（ミネルヴァ出版）及び『琵琶湖博物館研究調査報告』に論考を掲載して刊行していく。そのほか、国際学会の世界湖沼会議にて研究発表を行い、研究成果の一般公表を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

楊 平（2017）名水の旅から見えてくるもの。まほら，旅の文化研究所。

【一般向けの著作】

楊 平（2016）湖岸より 281 博物館から見える「絶景」。中日新聞，中日新聞社，12 月 24 日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

YANG, Ping and Hosoya, A.（2016 年 11 月 8 日）Changes of the Farming Life and the Lake Environment. 世界湖沼会議（インドネシア・バリ），[ポスター発表]。

楊 平（2017 年 1 月 20 日）資源の共的利用がもつ意味。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

楊 平（2017 年 1 月 21 日）太湖における水田の機能解明と民俗・考古資料整備。琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「棚田をめぐる文化的景観の保存」，（2016 年度）。

琵琶湖博物館共同研究「自然資源を活かした地域再生のありかたに関する研究」（研究代表者：楊 平），研究代表者（2016～2019 年度）。

科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」（研究代表者：用田政晴），研究分担者（2013～2016 年度）。

科学研究費助成事業（新学術領域）「民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相」、連携研究者（2016年度）.
公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団研究助成「古代湖から未来湖を考える」（研究代表者：楊平），研究代表者（2016年度）.

【学会等の役職・運営，論文の査読など】

Biodiversity Science, 査読, 1件.

【大学の講義・地域交流など】

2016年度前期，大阪産業大学人間環境学部、「特別講義A」.

2016年度後期，龍谷大学社会学部，「びわ湖・滋賀学」.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，6件.

2016年8月24日，交流イベント，展示室対応.

2016年11月12日・13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，展示室担当.

他の博物館・機関等主催行事

2016年8月3日，琵琶湖における水と暮らし，奈良人と自然の会，琵琶湖博物館，講師.

視察対応

2016年4月26日，概要説明・展示解説・研究活動の紹介，大阪成蹊大学，琵琶湖博物館.

2016年5月11日，研究活動の紹介・研究交流・展示解説，江蘇省環境視察団，琵琶湖博物館.

2016年7月5日，概要説明・展示解説，中国湖南省研究交流視察団，琵琶湖博物館.

2016年7月25日，研究活動の紹介・研究交流・展示解説，台湾駐大阪経済文化弁事処，琵琶湖博物館.

2016年8月31日，概要説明・展示解説，岳陽市環境研修団，琵琶湖博物館.

2016年9月30日，JICA研修，琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2016年11月18日，京都新聞，川、湖と共生 知恵紹介 新空間展示「『魚米之郷』の考古学」取材対応.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による問い合わせ，回答，3件.

中国関係資料，整理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年7月12日，リニューアルに向けてC展示室解説，琵琶湖博物館.

2016年7月15～18日，リニューアルC展示室案内、展示解説，琵琶湖博物館，3件.

2016年8月7～16日，繁忙期来館者対応，琵琶湖博物館，4件.

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「は」の取り札・パネル，制作協力.

2016年9月2日～9月29日，新空間展示「針江 里山 水 博物館」，展示協力.

2016年9月19日，「水、水田と人びと」，新空間交流イベントの対応.

2016年9月25日、「里山と水、水田」、新空間交流イベントの対応。
2016年11月2日～12月3日、新空間展示「『魚米之郷』の考古学」、展示協力。
2016年11月20日、「『魚米之郷』の考古学」日中講演会、新空間交流イベント対応。
2016年12月24日、展示室点検など、琵琶湖博物館。
2016年度、琵琶湖博物館常設展示C展示室、展示物の維持管理。
リニューアル展示暮らし展示、水と暮らし、展示更新。
リニューアル展示富江家展示、展示更新。

【企画調整活動】

新任職員研修、主担当、2016年度。
博物館実習、主担当、2016年度。
JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース、主担当、2016年度。
全国博物館協議会・日本博物館協議会・近畿動物園水族館協会、主担当、2016年度。
新任職員等研修「C展示室農村の暮らし・水と暮らし」、講師、2016年4月13日、琵琶湖博物館。
ギャラリー展示セレモニ用務、補助、2016年4月27日。
サテライトミュージアム事業「KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY」、会場設営、2016年5月3日、JR京都駅（京都市）。
リニューアルオープンセレモニ用務、補助、2016年7月14日、琵琶湖博物館。
JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「地域博物館と博物館研究活動」、講師、2016年11月5日、琵琶湖博物館。
JICA研修会議、2016年12月16日、国立民族学博物館（大阪府吹田市）。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

琵琶湖博物館リニューアル展示ガイド、展示案内などの日中対訳の作成等。
C展示室「これからの暮らし」コーナー、副担当。

【研究部関連事業】

海外の研究機関との連携、連絡調整。
講演会対応、2016年11月20日、琵琶湖博物館。
クリタ財団「国際講演会」関連の連絡調整、2016年度。

館内の人事・館外活動に関すること

【館内の人事】

2016年度、ショップ会議、メンバー。

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、これまで研究を進めてきた琵琶湖堆積物の花粉分析に基づく、気候変動と森林植生との関係性についての総説的な論文を国際誌上で公表することができた。また、日本学術振興会の科学研究費助成事業として、日本の森林動態の変化に対する日本海環境、東アジアモンスーンの影響について解明するため日本海堆積物の花粉分析を進めており、本年度はブラジルのサルバドールで開催された国際花粉学会議に参加し、途中成果の発表を行った。さらに、琵琶湖博物館総合研究および専門研究として、琵琶湖周辺における縄文時代以降の植生復元に向けた基礎的研究を行い、琵琶湖地域における古生態学データの収集、整理を継続して実施し、森林生態系の変化と人間活動の変化との対応関係について考古学、歴史学の研究者とともに議論を進めている。この成果については、滋賀県文化財保護協会の紀要に収集データの概要について公表を行なった。また、国際共同研究の枠組みの中で、琵琶湖博物館共同研究および科学研究費助成事業の共同研究者として、最終氷期最寒冷期における琵琶湖周辺地域での森林生態系の復元を行うための基礎データの蓄積を進めている。さらに 27 年度より、科学研究費助成事業の共同研究者として、ボルネオ島における環境変遷の解明を目的とした研究プロジェクトに参加し、本年度も堆積物採取のための野外調査を行った。これらの研究成果の一部については、国際会議において発表を行い、琵琶湖博物館研究セミナーや新聞連載や講演をとおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、企画調整課の一員として主に情報システム担当として業務を実施した。情報システム担当としては、9 月に発生した外部からのサイバー攻撃を受けて、情報システムを根本的に改善するために、来年度に実施するための計画の立案を行なった。さらに、新琵琶湖博物館創造室の中では、C 展示室リニューアルの「川から森へ」コーナーの主担当として展示コーナーを無事に完成させることができ、ユニバーサルデザイン評価および統一検討会議の担当、展示デザイン指針の主担当、音声ガイド主担当としても第 1 期リニューアルに貢献した。また、第 2 期リニューアルにおいても、引き続き樹冠トレイルの主担当として詳細設計をまとめた。

館外での活動としては、日本花粉学会および日本植生史学会の編集委員をつとめた。

印刷物

【学術論文】

Hayashi, R., Takahara, H., Inouchi, Y., Takemura, K. and Igarashi, Y. (2017) Vegetation and endemic tree response to orbital-scale climate changes in the Japanese archipelago during the last glacial-interglacial cycle based on pollen records from Lake Biwa, western Japan. *Review of Palaeobotany and Palynology*, 241, Elsevier: 85-97.

Hyodo, F., Kuwae, M., Sasaki, N., Hayashi, R., Makino, W., Kusaka, S., Narumi K. Tsugeki, Ishida, S., Ohtsuki, H., Omoto, K. and Urabe, j. (2017) Variations in lignin-derived phenols in sediments of Japanese lakes over the last century and their relation to watershed vegetation. *Organic Geochemistry*, 103, Elsevier: 125-135.

【専門分野の著作】

林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司 (2017) 滋賀県の遺跡における古生態学データの集成一琵琶湖地域における人と森の相互関係史解明に向けて一. 紀要, 30, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会: 97-105.

【一般向けの著作】

- 林 竜馬 (2016) ヨシ原の地下にねむる贈り物. ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信, 8, ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信事務局: 2-3.
- 林 竜馬 (2016) 湖岸より 272 琵琶湖を囲む森の「いま」を感じる. 中日新聞, 中日新聞社, 8月27日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 林 竜馬 (2016年6月25日) 縄文時代以降の森と人の移ろい2—森から眺める定住集落の成立過程と木材資源利用の変遷—. 近江貝塚研第272回例会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [口頭発表].
- 林 竜馬 (2016年8月19日) 琵琶湖地域での定量的植生復元に向けたシミュレーションモデルの検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Hayashi, R., Irino, T., Sagawa, T. and Tada, R. (2016年10月25日) Orbital-scale vegetation fluctuations in western Japan based on pollen records from Japan Sea during the last glacial-interglacial cycle. the XIV IPC/ X IOPC, Bahia Othon Palace (Salvador, Brazil), [ポスター発表].
- Hayashi, R., Sasaki, N., Murakami, Y. and Seguchi, S. (2016年10月28日) Holocene land-use/land-cover changes based on pollen and paleoecological records from archaeological sites around Lake Biwa, Japan. the XIV IPC/ X IOPC, Bahia Othon Palace (Salvador, Brazil), [ポスター発表].
- 佐々木尚子・林 竜馬・西本 孝・片岡博行・柴田加奈・高原 光 (2017年3月16日) 蒜山大原湿原堆積物の花粉分析からみた3万年前以降の植生変化. 日本生態学会第64回大会, 早稲田大学(東京都新宿区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖地域での定量的植生復元に向けたシミュレーションモデルの検討」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究副代表者 (2014年度~2018年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」(研究代表者: 林 竜馬), 研究代表者 (2015年度~2017年度).
- 科学研究費助成事業(若手B)「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」(研究代表者: 林 竜馬), 研究代表者 (2013~2016年度).
- 科学研究費助成事業(基盤C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者: 高橋啓一), 研究分担者 (2014~2016年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研究代表者: 高原 光), 研究分担者 (2014~2017年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「ボルネオ島泥炭掘削: 過去4000年間の熱帯大気対流活動の復元」(研究代表者: 山本正伸), 研究分担者 (2015~2017年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2015~2018年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本花粉学会, 日本花粉学会会誌, 編集委員.
- 日本花粉学会, 評議委員.
- 日本植生史学会, 植生史研究, 編集委員.
- Quaternary International, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件。

2016年10月5日，化石観察会，観察会，服部川・三重県伊賀市，実施補助。

2016年11月5日，朽木の森の観察会～新展示ジオラマの本物を見に行こう！～，観察会，くつきの森・滋賀県高島市，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2016年9月25日，気候の変化で森はどう変わってきたか，滋賀県，西浅井公民館（滋賀県長浜市），講師。

視察対応

2016年11月17日，湖研究の最前線およびそのアウトリーチに関する調査に係る見学研修，中国南京湖沼研究所若手研究者，琵琶湖博物館。

2016年12月2日，概要説明，国学院大学博物館職員，琵琶湖博物館。

2016年12月6日，概要説明，滋賀県林業普及指導職員，琵琶湖博物館。

2017年2月14日，日台里山交流会議に係る見学研修，台湾屏東科技大学教員，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年4月4日，読売新聞，近江と人と 化石の花粉を研究する県立琵琶湖博物館学芸員 林 竜馬さん，取材対応（2016年3月21日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「す」の取り札・パネル，制作協力。モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C展示室リニューアル「川から森へ」コーナー，主担当。

樹冠トレイル，主担当。

展示デザイン指針、音声ガイド，主担当。

第2期リニューアル 樹冠トレイル，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度，びわ博だより・うみっこ通信，編集委員。

【海外渡航】

2016年8月27日～9月5日，マレーシア ボルネオ島，泥炭堆積物試料採取のための調査。

2016年10月21日～31日，ブラジル サルバドール，第14回国際花粉学会議・第10回国際古植物学会への参加と発表.

研究に関しては、人口減少が進む山村集落における地域資源管理のあり方の検討を行った。現在既に人が住んでいないものの、様々な主体による集落へのかかわりが継続されている集落の現地調査を行った。継続して調査を行っている山梨県早川町においては、各種の信仰が現在どのように引き継がれているか、どのように認識されているかに関する調査を行い、その結果をまとめた。

はしかけ「暮らしをつづる会」では、琵琶湖博物館の「集う・使う・創る新空間」において、「多羅尾大洪水－水害から63年、語り継ぐ記憶－」展を8月に開催した。会の代表である中尾京子氏を中心に、甲賀市信楽町多羅尾における昭和28年の大洪水の記憶に関する聞き取りを行い、その結果をまとめて展示したものである。地元の皆様にも多大なご協力を頂いた。2013年から行ってきた会の活動成果を、目に見える形にまとめることができた。

博物館事業に関しては、交流係としてフィールドレポーター事業とうみっこ通信編集を主に担当した。フィールドレポーターでは、フィールドレポータースタッフによる発案のもと、「飛び出し坊やを調べよう」と「2016年度ミノムシ調査」の2件の調査票調査を実施した。飛び出し坊や調査では、飛び出し坊やの設置場所、姿かたち、設置者、飛び出し坊やに対する認識に関する調査を行い、報告書としてフィールドレポーターだより第47号を発行した。

新琵琶湖博物館創造室でのリニューアル業務に関しては、第1期として、C展示室・水族展示室が2016年7月14日にリニューアルオープンした。C展示室「私たちの暮らし」ゾーンを主任として、C展示室の総括を副主任として担当した。関連して、研究成果発信として新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏－新しい展示の試み」の運営を担当し、計3回実施した。第2期の交流空間リニューアルに関しては、ミュージアムレストラン・ミュージアムショップと展示評価を担当した。

印刷物

【専門分野の著作】

大久保実香 (2017) 暮らしに息づく願いと祈り. やまだらけ, 80, 早川町フィールドミュージアム実行委員会: 1-4.

【一般向けの著作】

大久保実香 (2016) 自分で調べて、納得できる答えを. フィールドレポーター掲示板, 83, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

大久保実香 (2016) 新しい展示室がオープンしました. フィールドレポーター掲示板, 84, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

大久保実香 (2016) ありがとう交流会「びわ博フェス2016」が開催されました. フィールドレポーター掲示板, 85, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

大久保実香 (2016) 今以上に、活動が深まり広がる博物館を目指して. フィールドレポーター掲示板, 86, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

大久保実香 (2016) 「飛び出し坊やを調べよう」結果報告 巻頭言. フィールドレポーターだより, 47, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

大久保実香 編 (2016) うみっこ通信. 16, 琵琶湖博物館.

大久保実香 編 (2017) うみっこ通信. 17, 琵琶湖博物館.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大久保実香（2016年4月15日）現代山村における他出者の重要性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「現代の山村集落における森林の管理・利用」, (2016年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者: 橋本道範), 民俗・社会班 (2016年度).

科学研究費助成事業(若手B)「人口減少後の地域コミュニティとその資源管理」(研究代表者: 大久保実香), 研究代表者 (2014~2016年度).

科学研究費助成事業(基盤C)「博物館, 市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者: 高橋啓一), 研究分担者 (2016年度).

科学研究費助成事業(基盤B)「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2016年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年9月30日・2016年10月7日, 龍谷大学農学部, 「変わる暮らし 変わる環境」.

2016年10月27日, 福島大学行政政策学類菊地芳朗ゼミ, 「琵琶湖博物館の設置・運営等に関して」.

2016年11月10日, 平成28年度中国における畜産排水処理事業に係る調査検討業務訪日調査研究参加者(中国政府関係職員等), 「琵琶湖の環境と生物および住民とのかかわり」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8件.

はしかけ運営「暮らしをつづる会」・「緑のくすり箱」, 担当.

フィールドレポーター, 主担当.

2016年5月21日, フィールドレポーター交流会, フィールドレポータースタッフによる実施, 琵琶湖博物館.

2016年7月12日, C展示室「私たちの暮らし」案内, 琵琶湖博物館第1期リニューアル内覧会.

2016年8月7日, アカトンボ(アキアカネ)の調査・観察会, フィールドレポータースタッフによる実施, びわ湖バレイ(滋賀県大津市).

2016年9月17日, 中池見湿地観察交流会, フィールドレポータースタッフによる実施, 中池見人と自然のふれあいの里(福井県敦賀市).

2016年10月22日, 琵琶湖博物館リニューアルのPR, 琵琶湖博物館20周年記念式典記念演奏.

2016年11月12日, 琵琶湖博物館リニューアルについてご紹介します!, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, フロアトーク.

2016年11月12日, ワークショップ「おちばのアート」, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, フィールドレポータースタッフによる実施, 補助.

2016年11月13日, ワークショップ「野草ワークショップ」, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, はしかけ緑のくすり箱による実施, 補助.

2016年12月10日, アトリウムコンサート, 司会.

他の博物館・機関等主催行事

2016年11月23日、ニゴロブナとフナズシ、おうみ映像ラボ、滋賀の「くらし・わざ・ちえ」映像めぐりプロジェクト見聞会ごっつおう なれずし〜魚のお供え物〜、琵琶湖博物館、講義。
2016年12月7日、暮らしの変化、愛荘町秦荘老人クラブ連合会、琵琶湖博物館、講義。

視察対応

2016年11月15日、下見対応、リセ・フランセ・ド・京都（京都フランス語学校）、琵琶湖博物館。
2016年11月17日、琵琶湖博物館における交流活動、甲府市教育委員会生涯学習課、琵琶湖博物館。
2017年2月21日、琵琶湖博物館と地域とのかかわり、長崎県県央振興局・(株)県央企画、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年5月24日、ABC ラジオ 武田和歌子のぴたっと。あっちこっちアズマッチ、フィールドレポーター飛び出し坊や調査について、中継出演（2016年5月24日）。
2016年6月8日、朝日新聞、みんなで探そう飛び出し坊や 登録レポーターが調査、取材協力。
2016年8月16日、産経新聞、多羅尾大水害風化させない。
2016年8月31日、HONEY FM ハニー・モーニング・トレイン どこ行こ？そこ行こ！お出かけ日和、リニューアルオープンについて、電話出演（2016年8月31日）。
2016年10月21日、京都新聞、深き知の湖へ琵琶湖博物館20年、取材協力。
2017年2月25日、産経新聞、飛び出し坊やいかに「生息」？、取材協力、(2017年2月24日取材)。
2017年3月1日、中日新聞、飛び出し坊やの出没場所 1位は「信号ない交差点」、取材協力、(2017年2月24日取材)。
2017年3月21日、読売新聞、飛び出し坊やいたいた、取材協力、(2017年3月8日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫定期清掃、実施。
資料貸出対応、3件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年8月1日～2016年8月27日、「多羅尾大水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」展、はしかけ暮らしをつづる会による実施、琵琶湖博物館 集う・使う・創る新空間。
第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」、「て」の取り札・パネル、制作協力。
繁忙期における来館者対応、実施。
モーニングレクチャー、講義、4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第1期リニューアル C展示室「私たちの暮らし」ゾーン、主担当。
第2期リニューアル ミュージウムレストラン・ミュージウムショップ、主担当。
第2期リニューアル 有識者評価、主担当。
来館者による展示評価、琵琶湖博物館レストラン・ショップ利用者調査、2016年9月22日、実施。
有識者による展示評価、2016年10月19日・2017年1月19日、実施。
レストラン・ショップの他館調査、2016年11月21日、国立民族学博物館、実施。

【研究部関連事業】

2016年10月22日、開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力—琵琶湖と世界の古代湖—」、受付ほか。
2016年度、新博物館学セミナー「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み」、運営・実施・司会、主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016 年度，びわ博だより，編集委員.

【館外の活動】

専門社会調査士資格，認定（2016 年 10 月 1 日）.

2016年度10月より考古担当学芸員として、就任した。研究部では、異なる文化の接点と交流を探ることを目的に研究をすすめた。専門研究の課題は「琵琶湖を介した縄文文化の情報網の解明」とし、縄文時代中期前半（約5500年前）の西日本系土器（船元式）と北陸系土器（新保式）を対象として、①土器からみた文化圏の違いと、②異なる文化圏どうしの接点について追究した。当然ながら琵琶湖上には集落を形成出来ないで、ひとつの文化圏は形成されない。したがって、琵琶湖周辺地域は外来文化をほかの地方へもたらす異文化交流の中継地と考えられる。実際に、栗津貝塚から出土した土器は、船元式を主体とするが新保式が一割程度あり、北陸文化が滋賀まで波及していることがうかがえる。

具体的には、京都府友岡遺跡出土の船元式と石川県角間遺跡出土の新保式の形態や文様を分類し、土器文化の違いを整理した。そのうえで、ふたつの文化圏の接点を確認するために大津市栗津貝塚出土の船元式、新保式の分析をした。結果、形態分析では、船元式は胴部に膨らみをもち器厚が薄い、新保式は円筒状を基調とし器厚が厚いという違いがある一方、胴部と口縁部の境界は強く屈曲し、接合方法に共通点を見出した。文様分析では、船元式は連続爪形文や刺突文を主文様とし、新保式は押引文や条線文を主文様とするという違いがある一方、施文具はどちらも半截竹管状の工具を多用している点や地文としている縄文の撚りの特徴が似るものが多いという共通点を見出した。研究成果は、以下の専門分野の著作として公表した。

事業部交流係では、はしかけを担当し、運営に努めた。また、はしかけ活動の活性化と交流空間のリニューアルを念頭に、交流活動の今後を学芸員、はしかけ会員の協同で考える「はしかフェ」を開催した。

総務部新琵琶湖博物館創造室では、ディスカバリールームを副担当した。基本設計を元に、具体的な展示内容を確定し、実施設計を共同した。とくに展示項目のうち、B展示室とディスカバリールームのつながりをもった新たな展示の考案とディスカバリーボックスの新規製作で「縄文土器の模様をつけよう」を制作した。

印刷物

【専門分野の著作】

妹尾裕介（2016）船元式の変遷と展開—友岡遺跡出土資料を軸として—。原 秀樹 編，友岡遺跡—長岡京跡右京第325次調査—，公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター，京都：55-62。

妹尾裕介（2016）第I部 角間遺跡。佐々木花江 編，金沢大学構内遺跡—角間遺跡、宝町・鶴間遺跡—，金沢大学埋蔵文化財調査センター，石川：1-141。

妹尾裕介（2017）第5章第8節第8遺構面2。遺物（1）土器。木許守・小泉翔太・村島有紀 編，玉手遺跡，御所市教育委員会，奈良：59-99。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢野健一・妹尾裕介（2017年3月11日）2016年度 関西縄文文化研究会3月例会卒業論文・修士論文発表会。関西縄文文化研究会，立命館大学（京都市），[企画運営]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖を介した縄文文化の情報網の解明」，（2016年度）。

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者：橋本道範)，共同研究者(2014～2018年度)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，3件。

はしかけ運営，副担当。

フィールドレポーター，副担当。

2016年11月12日・13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，ワークショップ，琵琶湖博物館，分担。

2017年1月20日，事業部セミナー，「平成28年度全国博物館大会」復命報告。

2017年3月8日，はしかけグループ「近江はたおり探検隊」縄文作り，内容指導。

2017年3月12日，はしかけ登録講座・はしかフェ，琵琶湖博物館，運営。

2017年3月30日，転がして発見！縄文土器のもようをつくってみよう！，ディスバリーイベント，琵琶湖博物館，運営。

視察対応

2017年1月13日，展示案内・座談会講師，台湾台北市芝山文化生態緑園，琵琶湖博物館。

2017年3月29日，文化資源学現地研修にかかる小講義と展示案内，金沢大学国際文化資源学研究センター，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ，作成。

はしかけニューズレター，編集，3回。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備，収蔵庫維持管理，担当。

考古資料貸出対応，2件。

考古収蔵庫特別観覧対応，2件。

大掃除（B展示室），実施，1回。

防虫トラップ調査，2回。

他博物館・機関の活動

京都大学総合博物館，考古資料図録の作成，協力。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導。

ディスカバリーボックス新規「縄文土器のもようをつくってみよう！」，制作指示。

【企画調整活動】

開館20周年記念特別研究セミナー，副担当，2016年10月21日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館－洛東江生物資源館 合同セミナー（第2回），司会担当，2016年12月8日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル「ディスカバリールーム」，副担当.
ディスカバリールーム分科会，琵琶湖博物館，6回.

【研究部関連事業】

研究セミナー，副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2015年10月～現在，京都大学総合博物館，研究協力者.

2016年度は、開館20周年記念事業として、C展示室のリニューアルオープンと国際シンポジウム関係の事業が二大業務となった。また後半は、韓国国立洛東江生物資源館との交流や、2019年に京都で行われる ICOM(国際博物館会議) 京都大会に向けた取り組みへの対応など、博物館の国際交流の業務を担当した。

上半期は、C 展示室のリニューアルオープンに向けた準備と対応に集中した。展示全体や自分自身の担当コーナーについて、現場調整や列品作業がぎりぎりまで残ったが、無事に7月14日にオープンすることができた。オープン直前と直後は、内覧会や視察、混雑時の展示室対応、リニューアル展示関連講座などがあり、8月末までは連続してリニューアルの対応を中心に業務を行った。その後も、展示の不具合や修理についての連絡調整や、維持管理を継続して行っている。

9月以降は、10月の開館20周年記念国際シンポジウムおよび関連行事の特別セミナーとエクスカージョンの対応が中心的業務となった。マラウイからの招待講演者の対応などを担当し、連絡調整や全体調整の補助を行った。エクスカージョンからセミナー、シンポジウムまでほぼ一週間対応したが、おかげで海外の古代湖の情報や研究の交流ができ、有意義な機会となった。

11月初めには、韓国慶尚北道尚州市にある国立洛東江生物資源館の招待を受けて、合同セミナーで博物館の研究活動紹介を行い、施設の視察や協力協定の可能性についての議論などに対応した。さらに12月には、生物資源館の研究者が来館し、当館でも展示や研究施設の見学、合同セミナーを行ったため、これらの連絡調整や準備、当日の対応などを行った。

その他の業務としては、研究部では、生態系研究領域の領域長として、前年度に引き続き学位取得希望者の研究発表の機会確保を行うと共に、今後の総合研究の課題と関連する研究発表を開始し、生態系研究領域の研究推進に努めた。企画調整課では、研究部調整の担当として、研究審査委員会の対応や科研費の事務手続きなどを行った。

自分自身の研究では、数年前に分担執筆した英文の専門書“Why Birds Matter: Avian Ecological Function and Ecosystem Services”（なぜ鳥が重要なのか? : 鳥類の生態学的機能と生態系サービス）が出版されたが、当初計画していた共同研究の成果としての論文執筆と和文書籍の原稿執筆については、リニューアルや20周年記念事業、国際交流などの業務に追われ、形にするところまでは至らなかった。来年度には出版できるよう少しずつでも進めていきたい。

館外の活動としては、滋賀県内のカワウ保護管理に関する検討委員会、環境省のカワウ保護管理検討会、岐阜市と関市の鶴飼習俗総合調査の専門委員など、ウ類に関わる委員会の委員を務めた他、滋賀県のレッドデータブック改訂作業にも関わり、今年度は2015年版が出版された。

印刷物

【専門分野の著作】

Motoko S. Fujita and Kayoko O. Kameda (2016) Nutrient Dynamics and Nutrient Cycling by Birds, *Çagan H. Sekercioglu, Daniel G. Wenny, and Christopher J. Whelan eds, Why Birds Matter: Avian Ecological Function and Ecosystem Services*, The University of Chicago Press: 271-297.

亀田佳代子 (2016) 鳥類 33 種の解説. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック 2015 年版—*, サンライズ出版: 341、345-346、350-351、353、358-366、373、382-384、386.

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子 (2016) 湖岸より 267 人と自然の深い関わり紹介. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月25日.
亀田佳代子 (2017) 湖岸より 284 関わり合う森・生き物・人. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月11日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2016年6月17日) カワウと森と人の関係史に関するデータベース構築. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2016年9月17日) カワウのフンによる生態系サービス. 日本鳥学会2016年度大会自由集会「カワウを通じて野生生物と人との共存を考える(その19)ーカワウのフンによる生態系サービスー」, 日本鳥学会2016年度大会実行委員会, 北海道大学札幌キャンパス(札幌市北区), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2016年9月17日) 自由集会「カワウを通じて野生生物と人との共存を考える(その19)ーカワウのフンによる生態系サービスー」. 日本鳥学会2016年度大会, 日本鳥学会2016年度大会実行委員会, 北海道大学札幌キャンパス(札幌市北区), [企画・運営].
- 亀田佳代子 (2016年11月8日) 滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動. 国際セミナー「淡水生物の多様性ー現状と未来」, 韓国国立洛東江生物資源館, 韓国国立洛東江生物資源館(慶北尚州市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2016年11月25日) 生態系研究領域に関する総合研究のタネ・ネタ. 琵琶湖博物館生態系研究領域会議, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2016年12月23日) 湖と森と人をつなぐ鳥 カワウー地域博物館を活かした研究とはー. KONANプレミア・プロジェクト「博学プロジェクト」キックオフシンポジウム「ミュージアムを知ろう“自然と文化”の共生」, 甲南大学理工学部生物学科・甲南大学文学部人間科学科・歴史文化学科, 甲南大学(神戸市東灘区), [口頭発表].
- 西脇亜也・畑田 彩・亀田佳代子・平山大輔 (2017年3月18日) フォーラム「アクティブ・ラーニングと生態教育ー実践編ー」. 第64回日本生態学会大会, (一般社団法人)日本生態学会, 早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区), [運営].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「カワウと森と人の関係史に関するデータベース構築」, (2015～2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者:橋本道範), 研究分担者(2014～2018年度).
- 科学研究費助成事業(基盤 B)「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者:橋本道範), 研究分担者(2015～2018年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本鳥学会評議員, 2006年1月～2017年12月.
- 日本鳥学会和文誌編集委員, 2014年1月～2017年12月.
- 日本鳥学会基金運営委員, 2016年1月～2017年12月.
- 日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000年1月～.
- 日本生態学会生態学教育専門委員会委員, 2010年4月～2018年3月.
- 日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員, 2008年1月～2018年12月.
- 日本鳥学会2016年度大会ポスター審査委員, 2016年9月17～18日.
- 第64回日本生態学会大会高校生ポスター審査委員, 2017年3月18日.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2016年8月27日，生き物コレクション（鳥類），博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，担当。

2016年8月30日，発表課題内容の検討，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2016年11月12日～13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，C展示室ガイドツアー，琵琶湖博物館。

2017年1月14日，水鳥を観察してみよう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2017年2月25日，カワウ・森と川と湖をつなぐやっかいものー，新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏ー新しい展示の試みー」第2回森と生き物と人とのさまざまな関わりーC展示室の舞台裏ー，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月19日，琵琶湖博物館C展示室・水族展示室のリニューアル，日本野鳥の会滋賀，日本野鳥の会滋賀定期総会第一部交流会，琵琶湖博物館，講師。

2016年8月29日，害鳥か益鳥か？ーカワウと森と人の関係史，京都大学・京都大学学術出版会・活字文化推進会議，講演会 大学と社会が拓く未来の知 第4回京都 de 夏の大学トーク「動物から現代社会を考える」，京都大学思修館ホール（京都市左京区），講師。

2016年11月15日，生き物の研究について，滋賀県立守山高校，「SGH探究」に係るフィールドワーク，琵琶湖博物館，質問対応。

2016年11月27日，展示を使った研究成果の公開 ～琵琶湖博物館C展示室のリニューアル～，琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議，平成28年度 滋賀県試験研究8機関発表会～淡海の明日を考える～，琵琶湖博物館，講師。

2016年12月3日，森と湖と人のつながり：カワウという生き物の視点からー琵琶湖博物館C展示室の見どころー，ながはまアメニティ会議，環境保全活動団体交流会～琵琶湖博物館へ行こう～，琵琶湖博物館，講師。

2016年12月13日，琵琶湖博物館の第1期リニューアル，滋賀県商工会議所女性会連合会，視察研修会，琵琶湖博物館，講師。

2017年2月7日，カワウ・サギ類に関する基礎情報，関西広域連合環境保全局，対策検証事業の広域展開 カワウ対策にかかる研修会（滋賀県野洲市 永原御殿跡），江別自治会館（滋賀県野洲市），講師。

2017年2月11日，歩いて見た 滋賀の生物多様性～びわ湖の森、そこに生きる動植物たちの今～，公益社団法人滋賀県獣医師会，野生動物研修会一般市民講座，琵琶湖博物館，運営。

視察対応

2016年5月27日，琵琶湖環境部新人研修展示リニューアル見学対応，琵琶湖環境部新任職員，琵琶湖博物館。

2016年6月23日，展示リニューアル視察対応，三日月大造知事，琵琶湖博物館。

2016年7月8日，展示リニューアル視察対応，西嶋栄治副知事，琵琶湖博物館。

2016年7月12日，内覧会展示リニューアル視察対応，サポート企業，琵琶湖博物館。

2016年7月14日，展示リニューアルオープン見学対応，来賓者，琵琶湖博物館。

2016年7月14日，展示リニューアル視察対応，愛知県教育委員会，琵琶湖博物館。

2016年11月20日，展示リニューアル見学対応，愛知県知多郡美浜町住民，琵琶湖博物館。

2016年12月20日，施設運営に係る意見交換対応，福島県環境創造センター，琵琶湖博物館。

2017年1月20日，展示リニューアル視察対応，兵庫県立人と自然の博物館若手研究員およびフロアスタッフ，琵琶湖博物館。

2017年2月24日，展示視察および展示方法・運営方法に対する意見交換対応，豊岡市立コウノトリ文化館・NPO法人コウノトリ市民研究所，琵琶湖博物館。

2017年3月29日, 17th International Symposium on River and Lake Environment (第17回河川・湖沼環境国際シンポジウム) のエクスカージョン対応, 国際学会 ISRLE 参加者, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2016年7月19日, テレビ東京, ガイアの夜明け・どう伝える? “我が社” の魅力, におい展示制作に関する撮影・取材対応, (2016年4月26日、5月18日、6月7日取材).

2016年7月8日, 京都新聞, C展示室リニューアルについて, 取材対応, (2016年6月24日取材).

2016年8月26日, 読売新聞, 「京都 de 夏の大学トーク 動物から現代社会を考える」での講演内容およびパネル討論の内容について, 取材対応, (2016年7月29日取材).

2016年10月1日, サンライズ出版, Duet 2016秋 Vol.121, C展示室リニューアルについて, 取材対応, (2016年8月5日取材).

2016年10月6日, NHK, おうみ発630・キャスターピックアップ, 取材対応・番組出演, (2016年9月27日・28日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室リニューアルに関わる鳥類資料(部分剥製標本)の製作, 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「く」の取り札・パネル, 制作協力.

2016年6月7日, 展示交流員研修, リニューアルC展示室全体説明, 講義.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

20周年記念事業に関すること, 副担当.

研究部との調整に関すること, 主担当.

JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「C展示室見学対応」, 講師, 2016年11月1日, 琵琶湖博物館.

韓国国立洛東江生物資源館, 施設見学および合同セミナー対応, 2016年12月7日~9日, 琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C展示室リニューアル, 総括.

C展示室「川から森へ」ゾーン「琵琶湖をかこむ森」コーナー, カワウのすむ森展示の製作.

C展示室「生きものコレクション」ゾーン「生きものにぎわい」コーナー, 鳥類展示の製作.

【研究部関連事業】

生態系研究領域の研究推進に関すること, 主担当.

研究発信の総括に関すること, 主担当.

研究審査委員会に関すること, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年8月5日, 平成28年度女性職員リーダー交流研修, 受講.

2017年3月10日, 平成28年度琵琶湖環境部部門研修(一般研修), 受講.

【海外渡航】

2016年11月7日～9日，韓国国立洛東江生物資源館，国際セミナー発表および施設見学.

【館外の活動】

1997年4月1日～2018年3月31日，京大大学生態学研究センター，協力研究員.

2006年8月1日～2021年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員.

2003年5月1日～2017年3月31日，滋賀県野生動植物との共生に関する検討会，外来種問題検討委員.

2006年7月12日～2017年3月31日，農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員.

2010年7月21日～2017年3月31日，滋賀県カワウ総合対策協議会，委員.

2014年1月6日～2017年3月31日，関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会，委員.

2014年8月18日～2017年3月31日，関西広域環境保全計画に関する有識者会議，委員.

2015年9月1日～2017年3月7日，特定鳥獣に係る保護管理施策推進のための人材育成研修及び対応等調査・検討業務に関する保護・管理検討会および指定管理鳥獣指定検討委員会，検討委員.

2016年2月1日～2017年3月31日，岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会，委員.

2016年2月1日～2017年3月31日，関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会専門部会，委員.

2016年8月1日～2018年7月31日，兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員.

2016年10月18日～2017年3月31日，琵琶湖竹生島タブノキ林の保全・再生事業計画検討会，検討委員.

2017年3月30日～2018年3月29日，滋賀県カワウ第二種特定鳥獣管理計画検討会，委員.

平成 28 年度 (2016 年度) は、C 展示室と水族展示室のリニューアルを担当した。C 展示室では「田んぼへ」の展示コーナーでは、生きているカメの生体展示を行った。また、生き物コレクションでは、琵琶湖固有種、淡水貝類、生き物の移り変わり、外来生物の展示を担当した。水族展示では、マイクロアクアリウムを担当し、これまで常設での展示が難しかった、小さな生き物たちの生体展示を、微小な生物を研究対象とする学芸員とともに実施した。環境学習センターの活動では、滋賀大学環境学習支援士を受け入れ、森と琵琶湖とのつながりを考えるための、環境ほっとカフェを開催した。また、企業が有するビオトープについて、その活用と関係者のネットワークを広げる目的で活動者交流会を開催した。

研究では、滋賀県醒ヶ井に生息するハリヨの、交雑による絶滅の危機について、魚類学会誌と日本魚類学会自然保護委員会編の書籍 (共著) で報告した。また、イチモンジタナゴの生息域外保全では、市民グループのぼてじゃこトラストと共催で、イチモンジタナゴの野性復帰についてのシンポジウムを開催し、希少淡水魚の野性復帰するにあたっての課題と方法について議論を深めるとともに、ぼてじゃこトラストの野性復帰事業に協力した。また、古橋のオオサンショウウオを守る会との共催で、古橋のオオサンショウウオ生態保全シンポジウムを開催し、オオサンショウウオをはじめとした両生類の現状と保全についての課題を紹介した。

印刷物

【専門分野の著作】

森 誠一・小北智之・松田征也 (2016) 滋賀県ハリヨの危機. *魚類学雑誌*, 63 (2) : 148-152.

【一般向けの著作】

松田征也・森 誠一 (2016) 米原市醒ヶ井産ハリヨの危機. 日本魚類学会自然保護委員会 編, *淡水魚保全の挑戦 水辺のにぎわいを取り戻す理念と実践*: 241-245.

松田征也 (2016) 湖岸より 263 生命の神秘 魚の卵を展示. *中日新聞*, 中日新聞社, 4 月 30 日.

松田征也 (2016) そよかぜ「きまぐれ通信」. 滋賀の環境学習メールマガジン, 2016 年 4 月 15 日・6 月 17 日・7 月 15 日・9 月 16 日・10 月 21 日・11 月 18 日・12 月 16 日・2017 年 1 月 20 日・2 月 17 日・3 月 17 日.

松田征也 (2016) アユモドキ、イチモンジタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヤリタナゴ 滋賀県で大切にすべき野生生物. 滋賀県生き物総合調査委員会 編, *滋賀県レッドデータブック 2015 年度版*, サンライズ出版.

松田征也 (2016) 淡水貝類 カワネジガイ、イケチョウガイ、マメタニシなど. 滋賀県生き物総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 2015 年度版*, サンライズ出版.

松田征也 (2016) 少なくなってしまった魚たち. *うみっこ通信*, 16, 琵琶湖博物館: 1-3.

松田征也 (2017) 守ろう！イチモンジタナゴ ータナゴ類の生息域外保全ー. *ぼてじゃこトラスト 20 周年記念誌 滋賀の魚つかみ文化を次世代に残したい!*, ぼてじゃこトラスト: 87-88.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2016 年 11 月 8 日) 琵琶湖博物館における展示と交流活動. 共同セミナー, 韓国国立洛東江生物資源館・琵琶湖博物館, 韓国国立洛東江生物資源館 (慶北尚州市), [口頭発表].

松田征也 (2016 年 11 月 27 日) 守ろう！イチモンジタナゴ. イチモンジタナゴの復元放流を考える シンポジウム,

琵琶湖博物館, [口頭発表].

松田征也 (2016年12月3日) 琵琶湖博物館で飼育されていたオオサンショウオ. 古橋のオオサンショウオ生態保全シンポジウム, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年9月21日・10月12・19日, 龍谷大学, びわ湖/滋賀学.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「希少淡水魚における性決定について」, (2016年度).

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物を用いた交流プログラムの開発」(研究代表者:松田征也), 研究代表者(2016~2018年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 7件.

はしかけ運営「うおの会」, 担当.

2016年8月2日, 魚類班, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校教育研究会理科部会, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年8月27日, 環境学習センターについて, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年8月29日, 魚類貝類資料整理, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年11月12・13日, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, 担当.

2016年11月19日, 琵琶湖学習の相談, ミュージアムスクール, 立命館守山中学校, 琵琶湖博物館, 指導助言.

2016年12月4日, びわ湖で森を感じよう!, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画運営.

2016年12月11日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会, 琵琶湖博物館, 企画運営.

2017年2月2日, 環境学習センター活動者交流会, 琵琶湖博物館, 企画運営.

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月9日, 琵琶湖の魚貝類について, 和歌山市開智中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年5月12日, 環境学習活動についての相談, ダイフク. 相談対応.

2016年5月21日, びわ湖の生き物たち 魚編, 鹿児島大学, JICA国際研修事業, 琵琶湖博物館, 講義.

2016年6月15日, ちっちゃな子どもの自然あそび(ちこあそ), あさがら野 子どもと自然舎, 琵琶湖博物館, 指導.

2016年7月29日, 魚つかみと観察, 下之郷遺跡資料館観察会, 守山市教育委員会, 下之郷遺跡(滋賀県守山市), 指導.

2016年8月5日, 「エコ・スクール」発表会, 琵琶湖博物館, 担当.

2016年8月18日, 魚つかみの成果とお話し, 下之郷遺跡資料館観察会, 守山市教育委員会, 下之郷遺跡(滋賀県守山市), 講師.

2016年10月6日, 琵琶湖・淀川流域における魚類の多様性の保全についてー現状と課題ー, たかつき市民環境大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年10月30日, 琵琶湖博物館の仕事、琵琶湖固有種、滋賀県の外来魚駆除事業, 近畿大学農学部水産学科, 琵琶湖博物館, 講師.

2016年11月11日, 淡水生貝類の同定, 立命館守山高等学校 SSH, 琵琶湖博物館, 指導.

視察対応

2016年4月16日, 郷土資料館のリニューアルについて, 豊田市郷土資料館, 琵琶湖博物館.

2016年12月8・9日，館内案内，韓国国立洛東江生物資源館視察団，琵琶湖博物館。

2017年1月25日，リニューアルについて，千葉県立中央博物館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年7月7日，CBC ラジオ 「気分爽快！多田しげおの朝からPON」朝イチの気になるニュースを専門家に聞くコーナー，スッポンについて，出演。

2016年7月27日，日本テレコム，ニッポンの里山・平安神宮のイチモンジタナゴ，取材対応。

2017年2月2日，NHK，オウミ発 630，環境学習活動者交流会について，取材対応。

2017年2月7日，NHK，オウミ発 630，スジシマドジョウの保全について，取材対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

宮島水族館，オヤニラミ，受贈。

資料寄贈，近畿大学 川瀬成吾 カマツカ未記載種標本，9点。

宮津エネルギー研究所水族館，ムサシトミヨ，受贈。

他博物館・機関の活動

岡山理科大学生物地球学部，魚類咽頭歯標本，貸出。

岡山理科大学生物地球学部，ゲンゴロウブナ標本，分譲。

岐阜大学，コイ科魚類咽頭歯，特別観覧，対応。

葛西臨海水族園，ゼニタナゴ 30 個体，分譲。

相模川ふれあい科学館，ゼニタナゴ 20 尾，分譲。

京都市動物園，イチモンジタナゴ 30 尾，分譲。

宮津エネルギー研究所水族館，ホトケドジョウ 20 尾，分譲。

近畿大学 細谷和海，タモロコ標本，特別観覧，対応。

富山市ファミリーパーク，C 展示室ニワトリ小屋写真，特別観覧，対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 24 回企画展示「開館 20 周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「ね」の取り札・パネル，制作協力。

2016年8月29日～，生き物コレクション 生き物の移り変わり「消えてしまった烏丸半島のハス」，展示更新。

2017年2月16日～，生き物コレクション 生き物の移り変わり「湖上に浮かぶ黒い鳥」，展示更新。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

水族展示室「マイクロアクアリウム」，担当。

C 展示室「田んぼへ」コーナー，担当。

C 展示室「生き物コレクション」コーナー，担当。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

動物取扱責任者。

【館外の活動】

- 1999年～，守山湖岸再生部会，委員.
- 2000年～，木浜内湖再生部会，委員.
- 2004年～，淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省).
- 2011年～，(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，ニッポンバラタナゴ種別計画管理者.
- 2011年～，(公社)日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別計画管理者.
- 2011年～，(公社)日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，イチモンジタナゴ種別計画管理者.
- 2012年～，大津市立逢坂小学校エコスクール支援委員会，委員.
- 2013年～，(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・保全戦略部，部員.
- 2013年～，亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)に係る環境保全専門家会議，委員.
- 2013年～，亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会，委員.
- 2014年～，愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成に向けた魚類ワーキンググループ，検討委員.
- 2014年～，侵略的外来種リスト作成に向けた魚類WG会合，検討委員.
- 2014年～，環境省近畿地方環境事務所 淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会，委員.
- 2014年～，関西広域連合広域環境保全局生物多様性検討委員会，委員.
- 2014年～，亀岡中部土地改良事業検討会，委員.
- 2015年～，滋賀県生き物調査生きもの総合調査委員会，魚貝類部会長.

2016年度は7月14日の第1期リニューアルにオープンに向けて、水族展示室リニューアル工事の実施に携わるとともに、展示製作を中心に行った。その中でも、「古代湖の世界」のコーナーのバイカル湖の展示については、まずバイカルアザラシの搬入を、2016年6月にマリンワールド海の中道から2頭、鴨川シーワールドから1頭それぞれの水族館のメンバーにご協力いただきうまく進めることができた。バイカルアザラシ以外のバイカル湖産生物についても、バイカル博物館の全面的なご協力により、輸入ルートを確立することができた。ただ、これについては2016年7月27日に日本側の輸入防疫制度の見直しが行われ、サケ科魚類については全生活史に於いて輸入条件が厳しくなり、それ以降これの対応に苦慮しており、来年度に向けた課題となっている。他にも、リニューアルされた展示施設にいくつか不具合が残っており、これも来年度に向けた課題として残っている。

また、2016年度より事業部長を拝命したが、年度の前半から中盤にかけては第1期リニューアルに向けた作業と20周年事業関連の業務に忙殺された。後半には、いくつか表面化した大きな課題の解決に向けた作業を関係する事業部員と一緒に進めるとともに、課題が生じないようにするための本質的な体制とルール作りを行った。さらには、来年度ネットワークシステムが外部に移行することに伴い、資料関係のデータベース等の変更に向けて資料課員とともに準備を進めることができた。

研究面では、学位取得に必要となる投稿論文の作成に努めた。年末までには、自分なりに原案を完成させて共著者に校閲をしてもらったところ、大幅な改訂が必要となったことから、年度内の投稿までには至らなかった。

印刷物

【一般向けの著作】

桑原雅之(2016) 湖岸より 268 水族展示いよいよ. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月9日.

桑原雅之(2016) 琵琶湖の魚の不思議と謎 2 イワナの行方. *琵琶湖と西日本の静かな釣り『Walton』*, 6, ウォルトン舎, 9月16日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之(2016年5月20日) 琵琶湖水系に生息していたとされるアマゴの正体?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」, (2016年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

2016年12月24日、バイカルの生き物、博物館でたのしもう、琵琶湖博物館、フロアトーク、(大島由子と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2016年8月4・23日、淡水魚の生態と分類、シニア自然大学、淡水魚①、大阪環境情報プラザ・ワキタ天満橋ビル(大阪市)、講師。

2016年9月1・7日、淡水魚の採集と同定、シニア自然大学、淡水魚②、大戸川(滋賀県大津市)、講師。

2016年9月3日、琵琶湖の在来魚、特に「琵琶湖八珍」の素材となる魚の生態や特徴、暮らしとの関わり、生活協同組合コープしが、琵琶湖博物館、講師。

2017年1月16日、ビワマスの生態について、米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト、息長小学校(滋賀県米原市)、講師。

メディアへの協力

2016年11月24日、NHK、ニュースホッと関西・ビワマス情報、取材対応、(2016年11月6日取材)。

2016年11月29日、京都新聞、ビワマス捕獲、釣り人が漁業者上回る 持ち帰り制限など新ルール、取材協力、(2016年10月27日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集、担当。

水族資料維持管理、担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理、担当。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」、「さ」の取り札・パネル、制作協力。モーニングレクチャー、講義、4回。

展示交流員と話そう、内容指導。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

水族展示室リニューアル、総括(～8月)。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2016年10月3日～8日、ロシアイルクーツク リストヴィヤンカ(バイカル博物館)、リニューアル関係展示生物捕獲依頼。

【館外の活動】

日本動物園水族館協会設備会議、幹事。

野洲市環境審議会、委員。

米原市ビワマスプロジェクト、生態アドバイザー。

大津市科学館運営協議会、委員。

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

研究活動では、2012年度から開始した共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」の成果の一部が論文として印刷された。共同研究の成果を琵琶湖博物館研究調査報告書にまとめる作業を進めている。2013年から始まった多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトについては、成果報告書がまとめられているところであるが、昆虫化石についての原稿を共著で執筆した。滋賀県レッドデータブック 2015年版については、昆虫類部会長として、22名の委員の原稿のとりまとめを行うとともに15種の執筆を行った。昆虫類部会で滋賀県産昆虫リストの作成に取り組んでいるが、全体の調整とオサムシ科のリスト作りを担当した。研究部の事業では、開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖」の主担当として、全体調整を行った。このシンポジウムは、古代湖の魅力を再発見してもらうことを趣旨に開催されたものである。今後の琵琶湖博物館の研究の方向性を示すシンポジウムとして意義のあるものになった。

事業活動では、琵琶湖博物館の第1期リニューアルにおいて、C展示室の「生き物コレクション」コーナーの主担当として、他の分類群の担当者と連携しながら展示作成を行った。また、昆虫類コーナーの展示作成を行った。

印刷物

【学術論文】

河瀬直幹・白神慶太・白神大輝・遠藤真樹・井野勝行・十亀正暉・澤田弘行・八尋克郎 (2016) 琵琶湖におけるメガネサナエ・オオサカサナエの羽化殻分布と羽化の季節消長. *Aeschina*, 52 : 17-26.

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2016) 昆虫類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2015年版*, サンライズ出版 : 410.

八尋克郎 (2016) クロカタビロオサムシ・セアカオサムシ・オサムシモドキ・クロケブカゴミムシ・コキベリアオゴミムシ・ヒメボタル・ムナグロチャイロテントウ・アキオサムシ・シガラキオサムシ・サメメクラチビゴミムシ・イシダメクラチビゴミムシ・オオヒョウタンゴミムシ・キベリマルクビゴミムシ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015年版*, サンライズ出版 : 461・462・463・502・503・518・519.

吉武 啓・八尋克郎・伊藤元己 (2017) 滋賀県立琵琶湖博物館所蔵の日本産ゾウムシ上科標本 (江本健一コレクション) 目録 (2) ミツギリゾウムシ科. *象鼻虫*, 11 : 7-11.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2016) 湖岸より 269 滋賀県の昆虫類 多様性を展示. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月23日.

八尋克郎 (2016) 20周年特集記事 1 開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力ー琵琶湖と世界の古代湖ー」. *琵琶湖博だより*, 27, 琵琶湖博物館 : 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎 (2016年6月17日) 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石についてー第四次発掘調査の成

果一. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
河瀬直幹・牛島積広・八尋克郎 (2016年12月18日) 滋賀県に分布する100種のトンボと水田地帯での20年間の
変遷. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会 ミニシンポジウム「田んぼのまわりの豊かな世界～『田んぼの生
き物全種リスト』更新に向けて」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
河瀬直幹・牛島積宏・八尋克郎 (2017年1月29日) 「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」調査結
果について. 蜻蛉研究会第21回研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
杉山國雄・八尋克郎・林 成多 (2017年2月18日) 野洲川 (湖南市吉永) から産出した昆虫化石. 第32回地学研究発
表会, 滋賀大学大津サテライトプラザ (滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域の昆虫相の変遷」, (2016年度).
科学研究費助成事業 (基盤C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者: 高橋啓一),
研究分担者 (2014年度～2016年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会 2015・2016年度, 評議員, 2013年1月1日～.
日本環境動物昆虫学会第13期環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員, 2010年2月～.
滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.
地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年2月21日, 滋賀県立大学, 「博物館資料保存論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2016年6月18日, 問題解決のアプローチ, 立命館守山中学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2016年8月2日, 昆虫班, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校理科部会, 琵琶湖博物館, 講師
2016年8月6日, 生き物コレクション (昆虫類), 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師.
2016年8月7日, フィールドレポーターアカトンボマーケティング調査, 琵琶湖バレイ・大津市, 講師.
2016年8月28日, 昆虫乾燥標本の整理と製作, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2016年11月15日, 守山高校SSH探究に係るフィールドワーク, 琵琶湖博物館, 指導.

メディアへの協力

2016年5月21日, 京都新聞, ゲンゴロウについて, 取材対応, (2016年5月20日取材).
2016年5月25日, NHK, ゲンゴロウについて, 取材対応, (2016年5月24日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 2件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本，寄贈，1件.

昆虫乾燥標本，特別観覧，4件.

昆虫乾燥標本，貸出し，1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年7月7日，展示交流員研修，リニューアル展示解説，講師.

他の博物館・機関等主催行事

多賀町立博物館企画展「多賀の自然環境－発掘された180万年前の多賀－」，2016年9月12日～27日，展示協力.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年4月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長.

2012年4月1日～，滋賀県環境審議会自然環境部会「指定希少野生動植物種および指定外来種の選定に関する選定小委員会」，専門委員.

2011年11月1日～，大津市環境影響評価委員.

年度の前半はC展示室「琵琶湖へ出かけよう」コーナーの制作を進めるとともに、リニューアルオープン関連の式典の準備に取り組んだ。また並行してギャラリー展「お茶で琵琶湖を美しく 伊藤園フォトコンテスト2016」（4月27日～5月31日）を開催した。10月22日には開館20周年記念式典を行った。また秋以降はマケドニア共和国オフリド水生生物研究所ならびに韓国国立洛東江生物資源館との相互協力協定締結のための準備を行った。

研究分野では魚群探知機による南湖の沈水植物の分布調査を8月以降毎月行った。また、既存の魚群探知機に加えて新規導入した魚群探知機での観測条件の検討を行った。後者については基本的に観測可能な事が確認されたが、観測のための走行条件等にいくつか課題が残った。研究成果の発表としては17th ISRLE（河川湖沼環境国際シンポジウム・会場：立命館大学）で南湖の沈水植物の現況と研究課題に関する報告を英語でポスター発表した。

印刷物

【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2017）湖岸より 283 琵琶湖の底はどんな形？. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

佐藤祐一・石川可奈子・井上栄壮・岡本高弘・芳賀裕樹・川崎竹志・尼子博章（2016年11月5日）琵琶湖南湖における水草消長モデルの構築とシナリオ解析. 日本陸水学会, 琉球大学（沖縄県那覇市）, [口頭発表].

Haga, H. (2016年11月8日) Mutual cooperation agreements between the Lake Biwa Museum and foreign museums and institutes. 琵琶湖博物館・洛東江生物資源館合同セミナー, 韓国国立洛東江生物資源館（サンジュ市）, [口頭発表].

芳賀裕樹（2016年12月16日）2016年の南湖の水草の情況. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Haga, H. (2017年3月27日) Overgrowth problems of submerged macrophytes in the south basin of Lake Biwa, 17th ISRLE & 3rd ISAB, the steering committee of the 17th ISRLE, 立命館大学 BKC キャンパス（滋賀県草津市）, [ポスター発表].

石川可奈子・芳賀裕樹・井上栄壮・永田貴丸・岡本高弘・岩木真穂・伴 修平（2017年3月29日）ロジスティック曲線による沈水植物成長モデル. 日本水産学会, 東京海洋大学品川キャンパス（東京都）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「南湖の沈水植物分布調査方法の開発」, (2016年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

2016年8月26・27・30日，ユニバーサルデザインと博物館，博物館実習，琵琶湖博物館，指導。

他の博物館・機関等主催行事

2016年9月22日，琵琶湖の水草について，近江守山ライオンズクラブ，琵琶湖博物館，講師。

2016年10月7日，琵琶湖博物館の活動紹介，タイ王室財産管理局・第一ロイヤルプロジェクト工場と博物館，琵琶湖博物館，講師・展示案内。

2016年10月18日，琵琶湖について，イラン国アンザリ湿地環境管理プロジェクトフェーズII研修，琵琶湖博物館，講師・展示案内。

2017年3月29日，琵琶湖のプランクトンと水草，17th ISRL E & 3rd ISAB テクニカルツアー，琵琶湖 (Megumi) ・琵琶湖博物館，講師・展示案内。

視察対応

2016年12月18日，琵琶湖および滋賀県の紹介，伊達市長ならびに伊達市親子，琵琶湖博物館。

2017年1月19日，琵琶湖博物館の展示手法について，豊田氏文化財保護審議会，琵琶湖博物館。

2017年2月19日，琵琶湖博物館の展示手法について，中山身語正宗 宗祖記念館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

バーグハンバーグ，どこでも地元メディアージモコロ（WEB マガジン），インタビュー，（2017年3月4日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の主催行事

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「な」の取り札・パネル，制作協力。

2016年4月27日～5月31日，ギャラリー展示「お茶で琵琶湖を美しく 伊藤園フォトコンテスト写真展 2016」，
主担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

サテライトミュージアム事業「KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY」，展示物設営・運営，2016年5月3日，JR京都駅
（京都市下京区）。

滋賀県博物館協議会事務局，主担当（2016年5月25日まで）。

滋賀県博物館協議会，総会，2016年5月25日，事務局，近江商人博物館（滋賀県東近江市）。

琵琶湖博物館第1期リニューアルオープン内覧会，2016年7月12日，全体調整。

琵琶湖博物館第1期リニューアルオープン オープニングセレモニー，2016年7月14日，全体調整。

滋賀県みんなで省エネ・節電クールライフ2016，滋賀県温暖化対策課，2016年8月6・7日，会場設営・撤去。

琵琶湖博物館20周年記念式典，2016年10月22日，全体調整。

マケドニア共和国オフリド水生生物研究所との協力協定，協定締結に向けた調整。

韓国国立洛東江生物資源館との協力協定，協定締結に向けた調整。

地域発見！参加型移動博物館事業「琵琶湖博物館がやってくる!!」，展示物設営・運営・撤去，2016年11月19・20
日，イオン近江八幡店（滋賀県近江八幡市）。

対岸景観啓発事業（大津市・草津市），会場運営，2016年10月29日，琵琶湖博物館。

展示ガイド，4種制作。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C展示室「琵琶湖にでかけよう」コーナー，主担当（～8月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2016年11月7日～9日，大韓民国サンジユ市 洛東江生物資源館，国際セミナー発表および施設見学。

【館外の活動】

2016年度，滋賀県水草対策チーム。

森林には、地球温暖化防止・環境保全・憩いの場など多面的な機能があり、特に身近な里山については、適切な手入れが継続されることで、その機能が維持されてきた空間である。しかしながら、暮らしの中でのエネルギー構造が変化し、里山資源は利用されなくなり放置された里山が増えてきた。近年、補助事業等の導入により里山の整備が進んでいる地域も一部にある。

現在、暮らしの多くの面で森林資源を利用していた頃とは違い、里山整備で生産される資源は、木質バイオマスエネルギー資源としての利用が想定されるが、導入にあたっては不確定要素が多い。しかし、里山の整備と資源利用を両立させることが、里山の機能保全に役立つ。

今年度は、里山整備における活動を通して里山に対する理解を深める方法について調査研究した。

詳細事項としては、①里山整備と森林資源の有効活用、②森林環境学習の推進、③県民参画の森づくりなどを対象とした。

①は、はしかけ里山の会を支援する形で里山の資源利用を継承している。活動としては、木の名札づくり、竹を使った楽器づくり、原木きのこ栽培などを行った。

②については、兼務している県森林政策課の業務である森林環境学習「やまのこ」事業専任指導員等を対象とした研修会や、小学校教員を対象とした研修会での講師・指導助言などを行った。

③についても兼務している県森林政策課の業務である「森づくり県民講座」において、里山における人工林整備の方法に関する講師や指導助言などを行った。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を開催しており、四季を通じて4回企画運営した。担当しているはしかけ里山の会では独自活動を実施しており、この活動を支援してきた。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、琵琶湖博物館、2件。

はしかけ運営「里山の会」、担当。

2016年4月～2017年1月、里山の四季を楽しむ、里山体験教室、野洲市大篠原、企画運営、4件、(はしかけ「里山の会」共同)。

2016年11月26日、秋の里山を歩こう、観察会、大津市仰木の里、運営、(カワセミ自然の会・はしかけ「里山の会」と共同)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」、「も」の取り札・パネル、制作協力。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度、滋賀県琵琶湖環境部森林政策課(林業普及センター)、兼務。

7月のリニューアルオープンまでは、事業活動として、新琵琶湖博物館創造室の一員かつC展示室の琵琶湖へ出かけようの副担当として、展示物としてのロードムービーやクイズなどのインタラクティブの作成・修正指示等に多くの時間を費やし、円滑かつ好評を博しているリニューアルオープンに貢献した。

企画調整課においては、移動博物館、および移動博物館の要素にリニューアル広報を加えたサテライトミュージアムの主担当を務めた。サテライトミュージアムは5月に関西圏で人が多く集まる京都で開催し、移動博物館は貸出を中心に展開を図った上で、それらの中でリニューアル広報を実施することに努めた。その他、電子媒体による質問等の受付および情報整理、国際交流、視察対応、年報・要覧・業績目録、博物館刊行物の調整・管理に係る主担当を務めた。業績も年報も例年より早く（業績は6月、年報は9月）、また要覧も9月に、英語要覧も3月に出版した。

研究活動としては、「県環境行政施策資料の整理と活用」をテーマとした。県の環境行政は、県公害防止条例が制定されてから約40年が経過し、複雑かつ多様化しつつある。この県の各環境行政施策の位置づけを明確にするため、個別事業を系統立てて整理することなどにより、施策の概観をとりまとめるべく検討を進めた。

今年度は、昨年度に入手した、元びわ湖会議事務局長や県環境行政OBの方からのびわ湖会議の資料や環境行政創成期以降の公害行政資料などの整理を行った。また、同事務局長や県環境行政OBの方にインタビューを行い、県環境行政職員が受け継ぐべき知識や職員に必要とされる資質等についての検討を行った。さらに、過去の行政資料、滋賀県史などを調べ、県公害行政機関の成り立ちやこれまでの変遷などについてとりまとめを行った。検討した結果の一部については、研究セミナーで口頭発表した。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

浦山重雄（2016年12月16日）県環境行政の過去とこれから、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「県環境行政施策資料の整理と活用」、（2016年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、琵琶湖博物館、9件。

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月25日、お空からくるPM2.5って何？、弁理士の日記念行事、琵琶湖博物館、講師、2件。

2016年6月25日、リニューアルの見どころ紹介、弁理士の日記念行事、琵琶湖博物館、講師。

2016年7月5日、びわ湖の水のひみつ、岡山市立京山中学校、琵琶湖博物館、講師。

2016年8月16日、琵琶湖の環境と環境政策ー琵琶湖博物館が持つ意義ー、東京工業大学、琵琶湖博物館、講師。

2016年10月7日、琵琶湖博物館の活動紹介、タイ王室財産管理局・第一ロイヤルプロジェクト工場と博物館、琵琶湖博物館、展示案内。

2016年12月10日、日本の小学校におけるプランクトン実習、公益財団法人国際湖沼環境委員会、琵琶湖博物館、講師補助。

2016年12月20日、琵琶湖の水環境の変化について学ぶ、近畿府県教育委員会福利厚生主管課長協議会、琵琶湖博物館、講師。

2017年2月7日、琵琶湖での水質改善の取組、大五産業株式会社、琵琶湖博物館、講師・展示案内。

2017年3月4日、琵琶湖の環境と琵琶湖博物館が持つ意義、一般財団法人日本国際協力センター、琵琶湖博物館、講師・展示案内。

視察対応

2016年11月15日、下見対応、リセ・フランセ・ド・京都（京都フランス語学校）、琵琶湖博物館。

2016年12月14日、展示案内・質疑対応、福岡市動物園、琵琶湖博物館。

2017年1月13日、展示案内・座談会講師、台湾台北市芝山文化生態緑園、琵琶湖博物館。

2017年1月18日、展示案内・質疑対応、長野県立歴史館、琵琶湖博物館。

2017年2月21日、館概要説明、諫早干拓の里、琵琶湖博物館。

2017年3月28日、展示案内、湖南省湖水地域環境整備・保全視察団、琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問等の受付および情報整理、主担当、227件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」、「へ」の取り札・パネル、制作協力。

2017年3月4日～4月9日、ギャラリー展示「ILEC 設立30周年記念特別企画展示 湖と生きるー琵琶湖から世界へ！ 未来へ！ー」、主担当。

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

サテライトミュージアム・移動博物館運営、主担当、16件。

サテライトミュージアム事業「KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY」、展示物設営・運営、2016年5月3日、JR京都駅（京都市下京区）。

地域発見！参加型移動博物館事業「琵琶湖移動博物館」、展示物設営、2016年7月23日、ピエリ守山（滋賀県守山市）。

地域発見！参加型移動博物館事業「琵琶湖博物館がやってくる!!」、展示物設営・運営・撤去、2016年11月19日～20日、イオン近江八幡店（滋賀県近江八幡市）。

地域発見！参加型移動博物館事業「ダイハツ工業株式会社滋賀テクニカルセンター25周年祭」、展示物設営・運営、2016年11月27日、ダイハツ工業株式会社滋賀テクニカルセンター（滋賀県竜王町）。

JICA 研修 博物館とコミュニティ開発コース「移動博物館・サテライトミュージアムでの展示物とのふれあい」、講師、2016年11月6日、琵琶湖博物館。

国際交流推進、主担当、29件。

視察対応、主担当、23件。

年報、要覧、業績目録、主担当。

博物館刊行物の調整・管理、主担当。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

県環境行政との連絡調整，主担当（～8月）．

C展示室「琵琶湖へ出かけよう」コーナー，副担当（～8月）．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課環境管理係，主幹を兼務．

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

文部科学省の科学研究費補助金（科研費）の研究「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として、2017年3月7日から3月30日の間、オマーン、カタール、セイシェル、モルディブにおいて調査を行った。これらの地域に固有な種（未記載を含む）を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【一般向けの著作】

- 榎永一宏（2016）湖国から消えたミノムシ。ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信, 24, ヨシでびわ湖を守るネットワーク事務局：2-3.
- 榎永一宏（2016）湖岸より 261 地域学芸員成果見て。中日新聞, 中日新聞社, 2016年4月9日.
- 榎永一宏（2016）地域でのフィールド調査・研究の情報 世界の果てまで行って昆虫採集。琵琶博だより, 26, 琵琶湖博物館：1-2.
- 榎永一宏 編（2016）「第24回企画展示『開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見』」展示解説書。琵琶湖博物館：106.
- 榎永一宏（2016）うみっこトピックス 企画展示「びわ博カルタ」で遊ぼう！自分のカルタを作ろう！ 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」。うみっこ通信, 16, 琵琶湖博物館：4.
- 榎永一宏（2016）湖岸より 273 カルタでたどる新発見, 中日新聞, 中日新聞社, 9月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 榎永一宏（2016年11月18日）アメリカの博物館における大人も楽しめる展示室とその運営について。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」, (2016年度).
- 科学研究費助成事業（基盤C）「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」（研究代表者：榎永一宏）, 研究代表者（2014～2016年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本昆虫学会, 電子化推進委員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9件。

2016年8月25日，展示事業について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2016年11月12日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，企画展示ガイドツアー，琵琶湖博物館，担当。

2016年11月12日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2016年11月13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，企画展示ガイドツアー，琵琶湖博物館，担当。

2016年11月13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月2日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月3日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク 貝覆い（貝合わせ）を作って遊ぼう，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月4日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月5日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク 貝覆い（貝合わせ）を作って遊ぼう，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月6日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月7日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク 貝覆い（貝合わせ）を作って遊ぼう，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月8日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月9日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
びわ博カルタウィーク 貝覆い（貝合わせ）を作って遊ぼう，琵琶湖博物館，担当。

2017年1月15日，「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，
百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合，琵琶湖博物館，担当。

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月16日，天神川の水の中の生き物調査，観察会，TANAKAMI こども環境クラブ，天神川(滋賀県大津市)，
講師。

2016年8月18日，ホテルについて，子ども淡水魚教室，伊川を愛する会，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

事業（企画展示）に関する資料提供，5件。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年度，第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，主担当。
第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「あ」の取り札・パネル，制作協力。
2016年度，C展示室「これからの琵琶湖」コーナー，展示更新・維持管理。
2016年度，研究最前線，更新。

【企画調整活動】

新任職員等研修，展示事業について，講師，2016年4月13日，琵琶湖博物館。
新任職員等研修，展示事業について，講師，2016年7月6日，琵琶湖博物館。
新任職員等研修，C展示室これからの琵琶湖，講師，2016年7月7日，琵琶湖博物館。
JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「博物館活動に参加する仕組み」，講師，2016年11月3日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル交流ワーキング，総括。
C展示室「これからの琵琶湖」コーナー，主担当（～8月）。
C展示室「生き物コレクション」コーナー，副担当（～8月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年3月7日～3月30日，オマーン、カタール、セイシェル、モルディブ，科研費（研究課題：インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化）野外調査。

【館外の活動】

2014年8月～，International Congresses of Dipterology, Members of the Council.
2016年4月～2017年3月，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，専門委員。

本年度は5つの研究プロジェクトを重点的に行った。韓国の洞窟で採集したカイミジンコの新種についての論文を、韓国人の共同研究者と完成させ提出した。日本におけるカイミジンコの外来種の新しい発現についての論文を、日本人とアメリカ人の共同研究者と完成させ、提出した。中国の共同研究者とは、体の構造の長さを用いてカイミジンコを同定する新しい方法を開発するのに協力し、この研究は現在出版準備中である。また、タイ、日本、中国の共同研究者と共に水田に発生するカイミジンコについての地球規模のレビューを書いた。最後に、日本とアジアの水田で見つかった4種のカイミジンコの再描写についての研究を開始したところである。

印刷物

【学術論文】

- Matzke-Karasz, R., Smith, R. J. and Heß, M. (2016) Removal of extracellular coat from giant sperm in female receptacle induces sperm motility in *Mytilocypris mytiloides* (Cyprididae, Ostracoda, Crustacea). *Cell and Tissue Research*, DOI 10.1007/s00441-016-2507-6.
- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R. and Kamiya, T. (2016) Sperm length variations in five species of cypridoidean non-marine ostracods (Crustacea). *Cell and Tissue Research*, DOI 10.1007/s00441-016-2459-x.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- スミス, ロビン ジェームス (2016年4月15日) カイミジンコ (甲殻類) のキプリス上科の生殖について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「日本の田んぼのカイミジンコ分類学を再調査する」, (2016年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤B) 「新たな生物進化モデルの展開: 日本海多様化工場説とその世界的インパクト」 (研究代表者: 神谷隆弘), 共同研究者 (2014~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Zootaxa, 編集者.
- Oceanological & Hydrobiological Studies, 査読, 1件.
- Journal of Taxonomy, 査読, 1件.
- Turkish Journal of Zoology, 査読, 1件.
- Invertebrate Biology, 査読, 1件.
- 琵琶湖博物館学芸員の書いた論文等の英文添削, 6件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2016年4月13日~30日, 外国の学生の研修.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9 件。

2017 年 3 月 17 日，マケドニアの Hydrobiology Institute について。事業セミナー，琵琶湖博物館，報告。

他の博物館・機関等主催行事

2016 年 9 月 1 日，JICA 研修「統合的流域管理による水資源の持続可能な利用と保全」，ILEC，琵琶湖博物館，展示案内。

2016 年 10 月 18 日，JICA 研修「イラン国アンザリ湿地環境管理プロジェクト」，日本工営(株)，琵琶湖博物館，展示案内。

2017 年 2 月 26 日，Lake Biwa and Lake Biwa Museum，京都大学留学生，ILEC（滋賀県草津市），講義。

視察対応

2017 年 1 月 27 日，館内案内，研究者。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新，多数。

英語版ホームページのデザイン，変更。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウムの展示コーナー，清掃・管理。

2016 年 8 月 11・14 日，繁忙期の来館者の対応。

第 24 回企画展示「開館 20 周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「よ」の取り札・パネル，制作協力。

2017 年度企画展示，主担当。

モーニングレクチャー，講義，4 回。

【企画調整課活動】

琵琶湖博物館の 20 周年記念のイベント，写真撮影，2016 年 10 月 21 日～22 日。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

リニューアルのためのパネル・内容・ソフトウェアのデザイン，英語タイトルのチェック，多数。

水族展示室「マイクロアクアリウム」，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017 年 1 月 13 日～20 日，マケドニア共和国オフリド市(オフリド水生生物研究所)，相互協力の合意書調印式随行。

滋賀県は早くから集落営農が発達し、集落営農先進県といわれるが、その要因を明らかにすることは、今後の滋賀県における農業施策を検討するうえで有効であると考えられる。そこで、この集落営農の増加要因を明らかにするために、主に戦後の社会情勢の変化と作付体系の変化による直接的な要因と、中世以来、地縁的な集団として発達してきた滋賀県集落の特質によるものと、農地制度の歴史の変遷からみた間接的要因とに分けて分析を行った。

まず、直接的な要因を明らかにするために、各種統計資料や滋賀県史、市町村史等の文献を収集分析した。その結果、集落営農が増加した第一の要因として、全国に比較し、水田率が高く、兼業化が著しく進んだことが考えられた。また第二の要因として、昭和30年頃から早植栽培へ稲作体系が変化したこと、その後の減反政策以降、二年三作のブロックローテーションの作付体系を進めるため、集団での土地利用調整や機械の共同化を行う必要が生じたことが集落営農増加の直接的な要因と分析された。

また、集落営農増加の背景となった間接的要因を分析するため、さらに文献等の調査を行った。この結果、中世以降、滋賀県では、地縁的結合力の強い農業集落として「惣村」が数多く組織されたこと、その惣村的村秩序が現在の集落にも根強く残ることが、集落による共同での営農を組織する背景になったと示唆された。一方、集落営農を進めるには、土地の所有権や賃借権等の権利移動を可能とする法的な整備が不可欠であるため、古代の墾田永年私財法以来の農地制度の変遷を整理し、農地の所有権、耕作権の歴史上の推移を分析した結果、農地は国と個人との中間的な存在である「村」が管理すべきものとの観念が普遍的に存在し、その観念を土台にし1993年に施行された農業経営基盤強化促進法による「利用権」によって農地の賃借が可能となるに至ったことが集落営農増加の間接的な要因となっていると考えられた。

事業活動では交流担当として、生活実験工房を中心に田んぼ体験教室を10回企画し、延べ254名の参加者に水稲作と暮らしに関する体験と田んぼの生きものに触れる機会を提供し、参加者との交流を深めることができた。地域連携では、館内外において、7件の講演・講師等を行った。また、一般向けの広報誌「琵琶博だより」を4回編集し発行した。

新琵琶湖博物館創造室では、主にリニューアル工事の変更積算業務を担当し、交流空間の委託発注積算業務にも取り組んだ。

印刷物

【一般向けの著作】

- 下松孝秀・高橋啓一・小田 隆(成安造形大学イラストレーション領域)・楠岡 泰(特別研究員)・三樹友梨香(嘱託職員)・戸田 孝・大塚泰介・里口保文・北井 剛・林 竜馬・大久保実香 編 (2016) 琵琶博だより. 25, 琵琶湖博物館: 4p.
- 下松孝秀・榎永一宏・天野一葉(特別研究員)・渡部圭一・戸田 孝・大塚泰介・里口保文・北井 剛・林 竜馬・大久保実香 編 (2016) 琵琶博だより. 26, 琵琶湖博物館: 4p.
- 下松孝秀・篠原 徹・八尋克郎・山川千代美・大島由子・戸田 隆・大塚泰介・里口保文・北井 剛・林 竜馬・大久保実香 編 (2016) 琵琶博だより. 27, 琵琶湖博物館: 4p.
- 下松孝秀・大塚泰介・椛島昭紘(フィールドレポーター)・池田 勝(はしかけ“ちこあそ”)・戸田 孝・里口保文・北井 剛・林 竜馬・大久保実香 編 (2016) 琵琶博だより. 28, 琵琶湖博物館: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

下松孝秀（2016年12月16日）県における集落営農の増加要因と環境保全型農業について、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、[口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「農地制度等の変遷からみた滋賀県農業施策の方向性の研究」、(2016年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件.

2016年4月～2017年3月，体験教室「田んぼ体験」，琵琶湖博物館，担当，10件，(中川 優と共同).

2016年11月12日・13日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，琵琶湖博物館，担当.

はしかけ・フィールドレポーター制度，名簿管理，琵琶湖博物館，担当.

他の博物館・機関等主催行事

2016年6月18日，ラムサールびわっこ大使事業，公益財団法人国際湖沼環境委員会，須原自治会館（滋賀県野洲市），講師.

2016年10月7日，滋賀県農業と博物館の説明，タイ王室財産管理局，琵琶湖博物館，講演.

視察対応

2016年9月30日，10月7日，滋賀県の農政とゆりかご水田について，龍谷大学，琵琶湖博物館.

2016年10月24日，滋賀県の農業の現状と施策について，泉佐野市土地改良事業団体連合会，琵琶湖博物館.

2017年2月10日，滋賀県の環境・農について，せた森の幼稚園，琵琶湖博物館.

2017年1月13日，博学連携について，芝山文化生態緑園（台湾），琵琶湖博物館.

2017年1月19日，C展示室案内，福島県農林水産部職員，琵琶湖博物館.

2017年3月8日，B・C展示室案内，農林水産省農村振興局職員，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

生活実験工房，田畑の維持管理.

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「の」の取り札・パネル，制作協力.
モーニングレクチャー，講義，4回.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

交流空間リニューアルに関すること，レストラン・ショップに関すること，副担当.

交流空間リニューアル委託実施設計積算作成，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016 年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，副主幹を兼務.

【館外の活動】

2016 年度，滋賀県農政水産部耕地課 滋賀の農業水利変遷史，編集員.

2016 年度，大津南部農業農振振興事務所 大津・南部地域みずすまし推進協議会，委員.

2016年度は、C展示室と水族展示室のリニューアル公開があった。C展示室で「ヨシ原に入ってみよう」と「生き物コレクション」の一部の展示を担当していたので、7月の展示公開までは基本的に展示制作に関わる作業の日々が続き、公開後から10月くらいまでは、展示室のメンテ作業（修理および清掃）にかなり時間を費やすこととなった。8月以降は、イバラモの申請専門研究の調査を優先させることができたが、9月末に実施された包括的外部監査などの影響で、作業そのものは遅れが生じることとなった。

館外の研究では、5年にわたって研究分担者として関わってきた国立科学博物館の科研費（基盤S）のプロジェクト「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」（研究代表者：小川義和）が最終年度を迎えた。琵琶湖博物館としては、リニューアルと重なったこともあり大きく貢献できなかったが、関西地区（滋賀県）としては、東近江市の博物館連携事業などテストケースとして興味深い活動が展開され、それなりに事例を提供できたと考えている。

また、2010年度のフィールドレポーターの調査「イチョウウキゴケをさがそう」を契機に、フィールドレポーター・スタッフの前田雅子さんがイチョウウキゴケの研究を始め、2016年度に初めてそれを論文にできたことである。水辺の環境と植物の可塑性を表す非常に面白い事例で、広義の水草の生態解明に大きく貢献する内容の論文で、私も2010年の調査から何年もの間、助言者・共著者としてサポートをしてきた成果として述べておきたい。

事業部では、前出のリニューアル作業の他は、主に資料に関わるが多かった。資料活用係では図書担当として、年度前半はデータベースの改善、後半は、次年度のデータベース移行に関して図書データベースをどのようにするかという議論や作業が多くなった。図書では、橋本鉄男文庫、伊谷純一郎蔵書の受け入れを行った。

植物資料の担当学芸員としては、2016年度は植物標本の閲覧や提供、寄贈などが相次ぎ、植物資料の運用が軌道に乗ってきた年であった。特にこれまで琵琶湖博物館と関わりがなかった在野の研究者の方々との繋がりも増え、2017年度から始まる環境省の植物レッドリスト調査、そして将来の『改訂版 滋賀県植物誌』に向けて、植物分野の資料収集や活用が活発になってくる最初のステップが見えてきたことも述べておきたい。

館外の事項として、琵琶湖博物館がある烏丸半島の東に位置する赤野井湾のハス群落が、2016年の夏は大きく衰退してしまったということがあり、社会的に大きな関心が寄せられた。そのため、琵琶湖博物館にも多数の問合せや取材があり、水草の専門家として対応する機会が増えたと同時に、直轄する草津市および草津市立水生植物公園みずの森の職員、湖岸を管理する滋賀県の職員等で連絡会議をつくり、そこにも参加し、対応を検討した。

印刷物

【学術論文】

前田雅子・秋山弘之・芦谷美奈子（2016）イチョウウキゴケの生活史1 水田環境における生殖器官ならびに胞子体の成長の観察. 人と自然 *Human and Nature*, 27, 兵庫県立人と自然の博物館：45-54.

【一般向けの著作】

芦谷美奈子（2016）湖岸より 266 琵琶湖は水草の宝庫. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月11日.

芦谷美奈子（2017）もっと伝えたい琵琶湖・淀川のヨシ原の魅力. 第1回 琵琶湖・淀川流域ヨシ原サミット 記念冊子, 1, ヨシ原サミット実行委員会：40-41.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子（2016年5月20日）内湖データベースがめざすもの。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「イバラモの繁殖生態学的研究」，（2014～2017年度）.

科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」（研究代表者：小川義和），研究分担者（2012～2016年度）.

科学研究費助成事業（基盤 C）「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」（研究代表者：平賀伸夫），研究分担者（2013～2017年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年6月25日，桃山学院大学，講義および館内の施設説明.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，6件.

はしかけ運営「植物観察の会」・「タンポポ調査」，担当.

2016年8月2日，水草班，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師.

2016年11月26日，秋の里山 宝物をさがしにいこう，観察会，仰木周辺・滋賀県大津市，担当者.

他の博物館・機関等主催行事

2016年8月4日，琵琶湖は外来水草の宝庫？，上野南部地区住民自治協議会，研修会，琵琶湖博物館，講師.

2016年8月4日，Common reed (*Phragmites australis*) and reed marshes around Lake Biwa, アメリカ合衆国ミシガン州交流事業，琵琶湖博物館，講師.

2016年9月30日，外来水草の宝庫 琵琶湖，びわ湖の水と環境を守る会，びわ湖保全再生計画提案に伴う学習会，大津市民センター（滋賀県），講師.

2016年11月25日，琵琶湖で今問題になっている水草 オオバナミズキンバイとハス，草津市立まちづくりセンター運営協議会，研修会，琵琶湖博物館，講師.

メディアへの協力

2016年6月30日，京都新聞，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年6月30日，読売新聞，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月2日，中日新聞，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月5日，読売テレビ，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月5日，産経新聞，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月5日，滋賀夕刊新聞，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月14日，テレビ朝日，モーニングショー，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月15日，テレビ朝日，モーニングショー，船上から赤野井湾のハスを現場で検証，取材協力.

2016年7月19日，TBS テレビ，朝チャン，赤野井湾のハスの不振について，取材協力.

2016年7月22日，NHK 大津放送局，赤野井湾のハスの不振について（湖岸より群落を見ながら），取材協力.

2016年7月25日、TBS テレビ、夕方のニュース（東京ローカル）、赤野井湾のハスの不振について、（取材対応 2015年7月25日）。

2016年7月27日、関西テレビ、赤野井湾のハスの不振について（現地調査をうけて）、取材協力。

2016年7月27日、NHK 大津放送局、ニュース（15：00、20：30）、赤野井湾のハスの不振について（現地調査を受けて）、（取材対応 2016年7月27日）。

2016年8月31日、TBS テレビ、朝チャン、赤野井湾のハスのその後、（取材対応 2016年8月30日）。

2016年12月3日、CBC ラジオ（名古屋）、北野誠のズバリサタデー、赤野井湾のハスの不振について、生出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物さく葉標本の提供受入、担当、3件。

植物液浸標本の寄贈受入、担当。

植物レプリカ貸出、担当。

図書資料寄贈受入、担当、2件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」、「と」の取り札・パネル、制作協力。
モーニングレクチャー、講義、4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C展示室「ヨシ原に入ってみよう」コーナー、主担当（～8月）。

C展示室「生き物コレクション」（陸生植物・水生湿生海浜植物・菌類）、担当（～8月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月～、木浜地区保全整備地域協議会、委員。

2015年6月～、琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会、アドバイザー。

専門研究として、琵琶湖産アユのなわばり行動を長期間観察した。河川ではアユが調査範囲外へ分散するため長期の観察は困難であるが、琵琶湖博物館水族展示室の河川を模した水槽では継続的に観察できる。今年度は、5 か月間データから群れで行動していたアユがなわばりを持つアユに変化し、なわばりの数や大きさが経時的に増大していく様子を数値解析した。その他の研究として、琵琶湖の漁港内におけるオオクチバスの産卵状況を調べ、そのオオクチバスの釣獲駆除を行った。これらの研究成果は、日本魚病学会や日本水産増殖学会、水族館飼育技術者研究会等で発表した。

博物館事業として、交流グループとして主にはしかけ活動の活性化に向けた新たな取り組みと観察会等のイベントの運営企画を担当した。また、10月からは地域連携担当として地域の方々が希望する講座や体験教室の対応・調整を行い地域的な交流を推進した。交流・サービス事業として、外来魚解剖や琵琶湖の水産業に関することなどについて講師を務めた。

水族展示業務として、水族維持管理・飼育技術の向上のために、アユ・ワカサギなど琵琶湖で漁獲される魚類を収容し、新たな飼育環境で飼育展示を試み、年間を通じた飼育展示の目処をつけた。新琵琶湖博物館創造室では、水族展示水槽の改修、ドライ展示、有識者による展示評価等を担当して無事にリニューアルオープンを迎えることができた。

印刷物

【専門分野の著作】

山本充孝（2016）士と師の違い（魚類防疫士と医師，獣医師との違い）．*魚類防疫士連絡協議会会報*，47，魚類防疫士連絡協議会：16-17.

【一般向けの著作】

山本充孝（2016）湖岸より 280 極寒 バイカル湖の生き物．*中日新聞*，中日新聞社，12月10日．

山本充孝（2017）滋賀の外からみた琵琶湖周辺のさかな事情．*ぼてじゃこトラスト20周年記念誌*．ぼてじゃこトラスト：35-37.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山本充孝（2016年7月7日）魚のお医者さん「魚類防疫士」．日本動物園水族館協会 第82回近畿ブロック水族館飼育係研修会，京都水族館（京都市），[口頭発表]．

山本充孝・二宮浩司・竹上健太郎・遠藤 誠（2016年9月8日）アユの細菌性出血性腹水病における感染源および感染経路の推定．平成28年度日本魚病学会秋季大会，近畿大学（奈良市），[口頭発表]．

山本充孝（2016年10月28日）琵琶湖産アユのなわばりと攻撃行動．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

山本充孝（2016年11月3日）琵琶湖漁港内のオオクチバスの産卵状況とブルーギル型ルアーによる釣獲．日本水産増殖学会第135回大会，日本水産増殖学会，三重大学（三重県津市），[口頭発表]．

山本充孝（2017年1月21日）学位論文「琵琶湖産アユ種苗における冷水病の実用的な防除技術」．平成28年度（2016

年度)琵琶湖博物館研究報告会,琵琶湖博物館,琵琶湖博物館,[口頭発表].
山本充孝(2017年1月25日)屋外展示水槽におけるアユの摂餌なわばりの長期観察.日本動物園水族館協会 第61回水族館技術者研究会,横浜シンポジア(横浜市),[口頭発表].
山本充孝(2017年1月29日)琵琶湖漁港内のオオクチバスの産卵状況と釣獲駆除(アユの友釣りならぬバスの敵釣り-2).琵琶湖を戻す会 第十二回「外来魚情報交換会」,草津市立まちづくりセンター(滋賀県),[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産アユにおける摂餌なわばりの長期観察」,(2016年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年10月30日,近畿大学水産学科,「滋賀の水産業」.

2016年度後期,龍谷大学社会学部,「びわ湖・滋賀学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク,琵琶湖博物館,9件.

はしかけ制度の運営および活性化,担当(～10月).

はしかけ登録講座,運営,3件.

観察会・講座・体験教室,計画・進行管理,担当.

地域連携の構築,担当(10月～).

2016年11月12日,水族バックヤード探検,ありがとう交流会 びわ博フェス2016,琵琶湖博物館,案内,2件,
(松田征也・金尾滋史・大島由子と共同).

2016年11月12日・13日,ありがとう交流会 びわ博フェス2016,ワークショップ,琵琶湖博物館,運営.

2016年12月3日,暮らしと魚,博物館で楽しもう,琵琶湖博物館,運営(滋賀県漁業協同組合連合会青年会,滋賀県農政水産部水産課,金尾滋史と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2016年7月28日,外来魚解剖教室,東山高校,講座,琵琶湖博物館,講師,(中井克樹と共同).

2016年8月11日,琵琶湖の外来魚駆除事業について,関西大学 久保田賢一ゼミ,琵琶湖博物館,講師.

2016年8月17日,琵琶湖のスジエビについて,宮津高校フィールド探究同好会,琵琶湖博物館,講師.

2016年9月10日,琵琶湖産アユのなわばりと攻撃行動,福井県自然観察指導員の会,琵琶湖博物館,講師.

2016年9月24日,琵琶湖の外来魚問題の現状について,草津青年会議所,琵琶湖博物館,講師.

2016年11月19日,琵琶湖の固有種について,栗東市商工会,琵琶湖博物館,講師.

2017年2月8日,外来種が脅かす琵琶湖の生物多様性,レイカディア大学,琵琶湖博物館,講師.

2017年3月11日,滋賀県の水産業について,釣り人による清掃活動,琵琶湖博物館,講師.

視察対応

2017年1月13日,博学連携について,芝山文化生態緑園(台湾),琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2016年7月19日,テレビ東京,日経スペシャル・ガイアの夜明け,客を魅せる 意外な“匂い”とは?(ふなずしの匂い展示),出演・取材対応,(2016年5月18日・6月8日取材).

2016年10月4日,読売新聞,琵琶湖の水草,取材対応.

2016年11月28日，読売テレビ，朝生ワイド す・またん! & ZIP! ，鯉の寿命に関するクイズ，出演・取材対応，
(2016年11月18日取材)．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリー質問対応，魚類、両生類、ほ乳類、外来種などに関する質問への回答．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族常設展資料維持管理，担当．

魚類等の病気や水質維持，担当．

水族資料収集，担当．

魚類等資料収集（淡水魚，甲殻類，扁形動物），5件．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「れ」の取り札・パネル，制作協力．
モーニングレクチャー，講義，4回．

展示交流員と話そう，内容指導．

【企画調整活動】

日本動物園水族館協会等に関すること，副担当．

【新琵琶湖博物館創造室活動】

水族展示水槽の改修およびドライ展示に関すること，担当（～8月）．

有識者の展示評価に関すること，担当（～8月）．

研究部では、平成 27 年度申請専門研究「滋賀県におけるカヤネズミの生息適地要因」で明らかになった内容を学術論文にまとめる作業を行った。滋賀県と大阪府の異なる地域を比較した広域スケールの分布モデルを構築した。これらの中心となる研究成果は、国際雑誌の *Global Ecology and Conservation* に原著論文「Extensive distribution models of the harvest mouse (*Micromys minutus*) in different landscapes」として 2016 年 10 月に掲載された。また、本論文の内容を含む構成で、名古屋大学大学院環境学研究科において博士論文を取りまとめた。今後、博士論文に含まれるその他の内容を学術論文に掲載していく予定である。さらに、2014 年度から開始した自動撮影カメラを用いた哺乳類分布調査をはしかけ森人のメンバーと 2016 年 11 月 26 日から本格的に開始した。現在も継続して調査中であり、これまでにタヌキ、チョウセンイタチ、キツネ、アライグマなど外来種も含む分布情報が蓄積されつつある。また、鳥類の撮影記録もあり、目視では難しかった種についても確認できた。今後は、はしかけのメンバーと共に調査結果を取りまとめる予定である。

事業部では展示係ディスカバリールームを担当した。展示物の修繕では「人形げきじょう」の新たなキャラクター(カイミジンコとノロ)を制作した。またザリガニになろうのエサレプリカ(オタマジャクシ、ミミズ)を制作した。また、ザ!ディスカバはしかけでは、今年度からメンバー主体の活動が活発になり、毎年新しいプログラムに取り組まれている。さらに 2016 年 9 月から新たなはしかけグループ「ちこあそ」の担当学芸員となり、毎月第 3 水曜日に幼児向けの野外活動を行っている。琵琶湖博物館において、屋外展示を活用した幼児対象の新たな試みである。

総務部新琵琶湖博物館創造室では、第 1 期リニューアルでヨシ原コーナーおよび生き物コレクション、カヤネズミの生体展示を担当した。カヤネズミの生体展示においては、当館で初めての試みだったため飼育展示を行っている他館へ飼育方法についての視察を行い、当館で可能な飼育方法を検討した。さらに展示手法に合わせた設備設計も行った。2016 年 6 月に富山市ファミリーパークからカヤネズミを 5 個体譲り受け、飼育・繁殖手法と展示手法を確立し、生体展示を実現させた。現在も繁殖を行っている。さらに、第 2 期リニューアルでは、ディスカバリールームを担当した。昨年度の基本設計を元に、具体的な展示内容を確定した。展示項目については、開館当初の意図とその評価および来館者のお気に入り展示アンケート調査と、来館者への聞き取り調査を行い、利用者の意見を踏まえたものを組み込んだ。リニューアル後の新規展示として、ディスカバリーボックス「縄文土器の模様をつけよう」の制作とプログラムを実施した。また、リニューアル後の運営方法についてのとりまとめを行った。

資料整理業務ではほ乳類標本、骨格標本を担当した。リニューアルに合わせて収集した骨格標本および寄贈標本を加えて整理した。今後、登録作業を行う予定である。

印刷物

【学術論文】

Sawabe, K. and Natsuhara, Y. (2016) Extensive distribution models of the harvest mouse (*Micromys minutus*) in different landscapes. *Global Ecology and Conservation*, 8: 108-115.

【一般向けの著作】

澤邊久美子 (2017) 湖岸より 285 マクロな視点も併せ見る. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月25日.

澤邊久美子 (2017) 生き物たちがくらす草むらの世界. *うみっこ通信*, 17, 琵琶湖博物館: 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 澤邊久美子 (2016年8月2日) カヤネズミ (*Micromys minutus*) の保全のための異なるスケールを考慮した分布モデルと半自然草地の維持管理. 名古屋大学大学院環境学研究科博士論文公聴会, 名古屋大学, [口頭発表].
- 澤邊久美子 (2016年9月25日) カヤネズミ生体展示における行動観察—研究者と観覧者の視点から—. 日本哺乳類学会 2016年度大会, 筑波大学 (茨城県つくば市), [ポスター発表].
- 澤邊久美子 (2016年10月28日) 滋賀県と大阪におけるカヤネズミの分布特性の違い. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 澤邊久美子 (2016年12月4日) 博物館でのカヤネズミ保全. 第2回全国カヤ・サミット, 琵琶湖博物館・全国カヤネズミネットワーク共催, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 澤邊久美子 (2016年12月18日) カヤネズミに適した草地の保全的管理—耕作放棄地の新たな活用—. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きものの豊かな農村作り研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 澤邊久美子 (2017年1月22日) 滋賀県におけるカヤネズミの生息適地と連続性の評価. 2016年度研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 澤邊久美子 (2017年2月18日) 生き物展示からフィールドへつなぐ. 第9回つなぐ人フォーラム, 清泉寮 (山梨県北杜市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「滋賀県におけるカヤネズミの生息適地と連続性の評価」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者: 大塚泰介), 研究協力者 (2012～2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2014～2018年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.
- はしかけ運営「ザ! ディスカバはしかけ」・「ちこあそ」, 担当.
- はしかけ活動, 森人, 指導, 3件.
- 2016年6月19日, 飛ぶタネと紙ヘリコプター作り, 琵琶湖博物館, 補助, (ザ! ディスカバはしかけ).
- 2016年7月3日, 足跡化石をみてみよう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.
- 2016年7月25日, 自然調査ゼミナール打合せ「ほ乳類班」, 琵琶湖博物館, 指導.
- 2016年9月11日, マヤマックスさんと一緒に～みんなで描こう! 琵琶湖の生き物たち～, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営.
- 2016年11月13日, ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori, ありがとう交流会 びわ博フェス 2016, フロアトーク, 補助.
- 2016年11月13日, まつぼっくりで作ろう!, ありがとう交流会 びわ博フェス 2016, 補助, (ザ! ディスカバはしかけ).
- 2016年12月4日, 第2回全国カヤ・サミット「カヤネズミの草むら探検観察会と実物大カヤストラップ作り」, 琵琶湖博物館, 運営, (全国カヤネズミ・ネットワーク共同主催).
- 2016年12月17日, はたきを作ろう!, ディスカバリーイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2017年2月12日、あずま袋を縫ってみよう、琵琶湖博物館、補助、(ザ!ディスカバはしかけ)。

2017年3月30日、転がして発見!縄文土器のもようをつくってみよう!、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、運営補助。

他の博物館・機関等主催行事

2016年9月3日、田上山秋の自然観察、TANAKAMI こども環境クラブ、大津市枝、講師。

2016年10月29日、植物を知ろう〜水辺の植物の調べ方を学ぶ〜、TANAKAMI こども環境クラブ、大津市枝、講師。

2016年11月5日、田上山の自然観察 ほ乳類編、TANAKAMI こども環境クラブ、大津市枝、講師。

2016年12月5日、カヤネズミの生息場所の案内および解説、日本産動物研究会、西の湖(滋賀県近江八幡市)、講師。

2017年1月8日、学芸員の仕事、里環境の会 OPU、環境系職業説明会、大阪府立大学 I-site なんば(大阪市)、講師。

2017年1月9日、カヤネズミバックヤード視察、きしわだ自然資料館友の会、琵琶湖博物館、講師。

2017年2月21日、ヨシ原の生きものについて(保全と活用)、大阪府立大学里環境の会 OPU、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2016年9月23日、ディスカバリールームの展示・運営について、京都国立博物館、琵琶湖博物館。

2016年11月15日、ディスカバリールームの展示について、九十九島水族館、琵琶湖博物館。

2016年12月9日、動物収蔵庫及び動物標本制作室について、韓国国立洛東江生物資源館、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年9月10日、中日新聞、カヤネズミ誕生、取材対応。

2016年9月10日、毎日新聞、カヤネズミ誕生、取材対応。

2016年9月11日、京都新聞、カヤネズミ誕生、取材対応。

2016年9月14日、毎日新聞、リニューアルのおすすめコーナー、取材対応。

2016年9月17日、読売新聞、カヤネズミ誕生、取材対応。

2016年9月24日、産経新聞、カヤネズミ誕生、取材対応。

2016年12月4日、NHK 大津放送局、第2回全国カヤ・サミット、取材・撮影。

2016年12月5日、京都新聞、第2回全国カヤ・サミット、取材対応。

2016年12月8日、読売新聞、第2回全国カヤ・サミット、取材対応。

2017年1月25日、e-radio、カヤネズミについて、ラジオ出演。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリー質問対応、ほ乳類、両生類、爬虫類、外来種などに関する質問への回答、7件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

カヤネズミの譲受(富山市ファミリーパーク)、5個体。

ほ乳類骨格標本特別観覧、12点。

ほ乳類骨格標本貸出、7点。

ほ乳類毛皮剥製の製作、2点。

ほ乳類標本の収集(未登録)、3点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム、展示物修繕・展示更新、主担当。

ディスカバリールームミーティング，琵琶湖博物館，14回。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「か」の取り札・パネル，制作協力。

2017年3月30日，ディスカバリーボックス新規「縄文土器のようをつくってみよう！」，制作補助。

モーニングレクチャー，講義，4回。

交流員と話そう，内容指導，2件。

【企画調整活動】

新任職員等研修「ディスカバリールーム」，講師，2016年7月7日，琵琶湖博物館。

開館20周年式典シンポジウム，受付，2016年10月22日，琵琶湖博物館。

【広報営業活動】

アトリウムコンサート，2016年11月23日，司会。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル「ディスカバリールーム」，主担当。

第2期リニューアル「レストラン・ショップ・アトリウム」，副担当。

C展示室「ヨシ原を歩いてみると」コーナー，副担当（～8月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年12月13日，ヤンマーミュージアム屋上ビオトープ維持管理会議，出席。

2017年1月～2018年12月，日本環境動物昆虫学会 環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員。

琵琶湖とその集水域に生息するプランクトンやベントス、付着生物をはじめとした微小生物の生態、分類、分布に関する研究を行っている。目に見えないほど小さなこれらの生物は琵琶湖の生態系の根幹を成す生物相を形成しており、琵琶湖の生物多様性を語るうえで欠かせない存在である。

今年度は、専門研究として「交雑マミズクラゲの性別の解析」を行った。これは、日本において、天然のマミズクラゲが有性生殖をしていることが確認されておらず、現在でも正常な有性生殖の能力を残しているかを確認すること、それを明らかにするために、クラゲを効率的に発生、飼育する方法を開発することを目的としている。

マミズクラゲは初夏に各地の水域に現れることのある淡水産のヒドロ虫クラゲである。日本の淡水クラゲとしては他に、絶滅したとされるイセマミズクラゲ、記載以来クラゲの確認がなされていないユメノクラゲがいるが、これらのクラゲが発見されたという報告はなく、現状発見、報告されている日本の淡水クラゲはマミズクラゲである。

マミズクラゲの生殖方法としてはポリプの状態からフラスチュールと呼ばれる蠕虫状の移動体を出して無性的に殖える方法と、雌雄のクラゲにより有性的に殖える方法が確認されている。しかし、クラゲの性別はポリプレベルで決定されており、ひとつのポリプから複数の性別のクラゲが発生することはない。さらに、日本においてはひとつの湖沼から雌雄のいずれか一方しか発見されておらず、有性生殖が確認されていない。今回は人工的に有性生殖させ、発生したポリプを利用し、そこからのクラゲの発生、飼育を試みた。現状、温度と栄養状態がクラゲ発生に関わっていることは明らかになったが、それだけでは確実な発生が起これないため、追加の条件を探っている。また、生殖巣が確認可能なレベルまで稚クラゲが育たないという問題も起きており、海産クラゲの飼育法などの情報も加味しつつ、新たな飼育方法を模索している。

事業ではリニューアル展示の一部である「マイクロアクアリウム」の立ち上げに関わっており、シアター、デルビジョン、プランクトンと映ろう、生体ムービーの制作、展示生物の検討と飼育、飼育法開発、レリーフの監修などに加え、展示マニュアルの作成も行った。本展示はリニューアル後、子供から大人まで、幅広い層から好評をもらっており、琵琶湖を支える小さな生き物たちの存在を知ってもらい、その生態を発信する場として、想定以上の機能を果たしていると考えている。

また、琵琶湖のプランクトンに関する講義も行っており、琵琶湖のプランクトンに関する情報を幅広い世代の方に向けて発信した。

印刷物

【一般向けの著作】

鈴木隆仁 (2016) 琵琶湖博物館ブックレット ③ イタチムシの世界をのぞいてみよう。サンライズ出版, 滋賀県: 117p.

鈴木隆仁 (2016) 湖岸より 274 微小生物を展示する。中日新聞, 中日新聞社, 9月24日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁 (2016年11月18日) 琵琶湖集水域のイタチムシ相。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁 (2016年12月18日) 水田にあらわれるイタチムシたち。第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博

物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会，琵琶湖博物館，[ポスター発表].
鈴木隆仁（2017年3月21日）マミズクラゲの継続飼育、展示に向けて，日本プランクトン学会春季シンポジウム「ゼラチン質プランクトンの世界」，日本プランクトン学会，日本海洋大学(東京都品川区)，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「交雑マミズクラゲの性別の解析」，(2016年度).
琵琶湖博物館共同研究「微小な生物をもちいた交流プログラムの開発」(研究代表者：松田征也)，副代表者(2016年度～2018年度).
科学研究費助成事業(基盤C)「淡水棲マミズクラゲの性決定の謎を追う」(研究代表者：小林千余子)，研究分担者(2016年～2019年).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件.

はしかけ運営「田んぼの生きもの調査グループ」，副担当.

2016年8月2日，プランクトン班，第40回自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，実習担当.

2016年9月10日，わくわく探検隊：マイクロアクアリウムを楽しもう，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，実習・実習担当.

2016年9月24日，マイクロアクアリウムープランクトンでピンゴ，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，実習担当.

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月19日，イカの解剖，豊中高校，SSH活動，大阪府立豊中高校(豊中市)，講師.

2016年7月20日，プランクトン実習，桑名高校，琵琶湖博物館，実習担当.

2016年7月27日，プランクトン実習，岡山就実中学校，琵琶湖博物館，実習担当.

2016年11月19日，プランクトン実習，豊中高校，SSH活動，琵琶湖博物館，実習担当.

2017年2月8日，プランクトン実習，滋賀県レイカディア大学，部会研修，琵琶湖博物館，講師.

2017年2月15日，プランクトン実習，滋賀県立河瀬中学校，琵琶湖博物館，実習担当.

メディアへの協力

2016年8月6日，産経新聞滋賀版，微小生物に熱い視線，取材対応，(2016年8月5日取材).

2017年1月12日，朝日新聞滋賀版，琵琶湖固有種か 群体ヒドラ展示，取材対応，(2016年12月28日取材).

2017年1月28日，日本農業新聞全国版，誰も知らない？水底の小さな生命体 イタチムシにズームイン ぱくりんモグ太のムシャ修行，(2017年1月19日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ，作成.

新空間ページ，更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈標本の受け入れ，2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年度，新空間展示，担当，9件。

2016年度，アトリウム展示，担当。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る楽しむ 新発見」，展示協力。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「い」の取り札・パネル，制作協力。

2017年度，企画展示，副担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

マイクロアクアリウム，副担当（～8月）。

【研究部関連事業】

20周年記念特別研究セミナー，セミナー担当，2016年10月21日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館研究セミナー，副担当（4月～9月）・担当（10月～3月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年4月～2017年3月，大阪大学大学院理学研究科，招聘研究員。

本年度は、昨年度までで終了した2件の科学研究費助成事業の成果取りまとめが中心となった。そのうち日本博物館協会が数年おきに行ってきた博物館総合調査を継承する分については成果のWeb公表に関わる事務的な作業や付随情報の整備などであった。しかし、博物館の「副次的機能」を理論化しようとする分については、助成事業による調査成果を理論として再構成する手順が残っていた。まず、理論構成を進める上でデータ不足であった「居場所としての科学館」に関するデータを電子メール等を利用した安価な方法で収集整理し、その成果を学会発表した。そして、ここまでの成果を論文として集成し、投稿した。この論文は査読を受けた結果「修正のうえ採録」との判定となり、2017年度早々に印刷公表される予定である。

一方、昨年度から本格的な準備を始めている、琵琶湖博物館のような自然史系博物館の性格が強い博物館における科学館的内容の取り扱いに関する問題については、残念ながら研究プロジェクトが採択に至っていない。この課題を進めるには、琵琶湖の物理現象、陸水海洋物理学一般についてのアウトリーチ、科学教育学のうち抽象的概念の伝え方に関わる部分、科学博物館の活動展開の方法論など、多様な分野に興味を持つ研究者と議論を深めることが欠かせないため、その手がかりとなるような複数の研究発表を昨年度に引き続いて進めた。

研究以外の事業の面では、資料整備事業の総括は後任者に引き継いだものの、それを補佐する役割を続けている。博物館全体としてリニューアル第1期計画の完成に向けた作業に忙殺されていたが、リニューアル公開前の作業量は他の学芸員よりは少なく、むしろ公開後に新規制作資料（特に動画）や展示室から撤収した資料の収蔵ないし廃棄の処理に忙殺される状況であった。特に動画資料に関しては、継続的な新規資料入手が途絶えてたために11年以上にわたって進んでいなかった新規登録を再開し、登録待ち状態だった390点とリニューアル関係の107点を含む544点の登録を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

戸田 孝 (2017) ミュージアムへ行こう！滋賀県立琵琶湖博物館. *理大科学フォーラム*, 34 (4), 東京理科大学: 48-51.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2016) 資料裏話 その22 え、これも資料?!. *びわ博だより*, 28, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2016年6月18日) “自然史博物館”での“湖流の物理”の伝え方. 京都大学洛洋会第9回総会・講演会, 京都大学洛洋会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2016年6月30日) 「駅前科学館」の役割を軸にみた博物館の副次的機能. 全日本博物館学会第42回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学 (東京都千代田区), [口頭発表].

戸田 孝 (2016年7月22日) 「自然史博物館」での「科学館的手法」－「駅前科学館」の役割からの考察－. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2016年8月19日) 地域特有の現象への「科学館的手法」の適用可能性. 日本科学教育学会第39回年会, 日本科学教育学会, ホルトホール大分 (大分市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」, (2016年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理研究会, 運営委員.

日本陸水学会, 広報幹事, 2017年1月～2018年12月.

日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年9月13日, 岐阜女子大学アーカイブ関連機関見学研修, 講義「琵琶湖博物館収蔵設備の設計意図と問題点」.

2017年2月22日, 滋賀県立大学, 「資料保存環境を支える設備」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人管理ページ, 運営.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料整備活動の総括, 副担当.

映像資料利用申請への対応, 主担当.

資料データベースの管理運営, 総合調整およびセキュリティ管理.

電子図鑑の管理運営, 総合調整 (将来計画策定など).

動画資料の再整理と登録, 544件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「せ」の取り札・パネル, 制作協力.

2016年度, 蜃気楼に関する展示の維持管理, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【研究部関連事業】

研究セミナーの運営, 主担当 (～9月)・副担当 (10月～).

【新琵琶湖博物館創造室活動】

琵琶湖全体に関する展示大項目の企画制作, 副担当.

蜃気楼に関する展示小項目の企画制作, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016 年度，琵琶博だより・うみっこ通信，編集委員.

2016 年度，滋賀県博物館協議会，記念事業委員会，委員.

2016 年度上半期は、C 展示室に新設された「田んぼへ」のコーナーの立ち上げに多くの時間を費やした。加えて交流係長として、新年度より係員がほとんど交代した係内の調整を行うことになった。その結果、ほとんど研究を行うことはできなかった。それでも、前年に執筆した博物館学の論文が出版された。また、約 10 年来の懸案だった山室湿原の珪藻植生の研究が、はしかけ「たんさいぼうの会」会員の三村武士さんの尽力により、共著論文として受理されるに至った。

2016 年度の下半期は、博物館の総合研究 (終了分)、共同研究、科研費の研究などの再起動を行った。琵琶湖から 10 年以上前に見出した珪藻 *Gomphosphenia* 属の新種について、基準標本とするのに適当な試料が得られたので、電子顕微鏡写真と計量形態学的データを揃えて記載を進めている。また、湿原の珪藻群集に対して用いる統計解析手法の研究を進めている。ただし両者とも、研究成果の出版までにもう少し時間が必要である。

研究指導を分担している滋賀大学の修士課程学生、富小由紀さんが、2009 年以來の懸案だった滋賀県水田の珪藻群集のデータをまとめ、統計解析により全体の傾向を明らかにした。珪藻群集は主として田面水の電気伝導度と硫酸イオン、珪酸の濃度の影響を受けるが、他に細胞分裂阻害系の除草剤の使用や琵琶湖逆水の使用の有無の影響も受けているという結果となった。

研究指導を分担している滋賀県立大学の学部学生、服部圭治さんが、東海層群亀山層 (約 400 万年前に堆積) から見出されたタラシオシラ科の珪藻を精査し、これが現在の琵琶湖の固有種であるスズケイソウ *Praestephanos suzuki* と同属に属し、形態的な共通点も多いことを明らかにした。この結果は、現在の伊勢湾周辺に広がっていたとされる東海湖が、琵琶湖の起源であることの傍証となる。

今年も、琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「第 7 回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。ポスター発表も含めて 26 題の発表、152 名の参加があった。過去 6 年間の本研究会の成果をもとに、C 展示室「田んぼへ」内に、田んぼとその周辺の生き物に関わる多くの人たちの研究成果を集めたミニ展示のコーナーを設けた。田んぼに関するミニ展示を、6 台の回転式キャビネット・各 8 つのステージに計 48 点設置したので、この展示を「TNB48」と称している。なお、2017 年度からの共同研究の採択により、本研究会は今後しばらくの間、「田んぼの生きもの全種リスト」の増補改訂と連動して行われることになった。

印刷物

【学術論文】

Ohtsuka, T. (2016) Interactive museum activities that provide venues for innovation: case study from the Lake Biwa Museum. In: Sonoda, N. (ed.) *New Horizons for Asian Museums and Museology*, Springer, Berlin·Heidelberg: 155-163.

Mimura, T. and Ohtsuka, T. (2016) Diatoms of Yamamuro Moor, a *Sphagnum* moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan. *Diatom*, 32, 日本珪藻学会: 24-32.

【専門分野の著作】

猪谷富雄・畑 信吾・大久保卓也・谷口真一・大塚泰介・近藤倫生・野田公夫・泉 泰弘 (2017) 日本作物学会第 242 回講演会シンポジウム 2 琵琶湖の環境と農業 (2016 年 9 月 10 日 於龍谷大学). *日本作物学会紀事*, 86, 日本作物学会: 87-96.

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2016) 湖岸より 278 交流で互いに学ぶ. *中日新聞*, 中日新聞社, 11 月 12 日.

大塚泰介 (2017) 地域でのフィールド調査・研究の情報 交流による学びは発見をもたらす. *びわ博だより*, 28, 琵琶湖博物館: 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 芝崎美世子・松原孝典・小滝篤夫・石田志朗・大塚泰介 (2016年5月15日) 丹後半島の黒部貝層に見られる微小貝と珪藻群集. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].
- 富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之 (2016年5月15日) 水田珪藻群集と環境条件の対応. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].
- 根来 健・大塚泰介 (2016年5月15日) 浄水処理障害生物 *Synedra acus* の再検討. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2016年5月20日) 21世紀の滋賀県におけるハッタミミズの分布. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介 (2016年9月10日) 琵琶湖辺の水田における生物多様性と魚のゆりかご水田. 日本作物学会第242回講演会シンポジウム2, 日本作物学会, 龍谷大学(滋賀県大津市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2016年9月19日) 21世紀初頭の滋賀県におけるハッタミミズの分布. 第5回ミミズ標本同定会&講演会, ミミズ研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 川上将樹・篠原耕平・大塚泰介・Bosco Rusuwa・遊磨正秀・丸山 敦 (2016年9月25日) マラウイ湖に生息するシクリッド魚類の摂食行動と食性分析から見えるニッチの柔軟性. 2016年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 岐阜大学(岐阜市), [ポスター発表].
- 富小由紀・大塚泰介・中村優介・打越崇子・中西康介・石川俊之 (2016年10月22日) 水田における珪藻出現パターンのGLMを用いた解析. 日本珪藻学会第36回研究集会, 日本珪藻学会, 高宮ビレッジホテル樹林(山形市), [口頭発表].
- 富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・打越崇子・石川俊之 (2016年12月18日) 水田に多い珪藻種の生態的最適点. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・北野大輔 (2016年12月18日) TNB48 だっ! みんなでつくった田んぼ展示. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 服部圭治・大塚泰介・里口保文・堂満華子 (2017年2月18日) 東海層群魚山層から産出した *Praestephanos suzuki* 類似種化石. 第32回地学研究発表会, 地学研究会・滋賀大学, 滋賀大学大津サテライトプラザ(滋賀県大津市), [口頭発表].
- 大塚泰介・富小由紀・石川俊之 (2017年3月5日) 分布の最適点を求める—GLMの知られざる活用法. 地域自然史と保全研究発表会2017, 関西自然保護機構・大阪市立自然史博物館, 大阪市立自然史博物館(大阪市東住吉区), [口頭発表].
- 川上将樹・篠原耕平・大塚泰介・Bosco Rusuwa・丸山 敦 (2017年3月15日) 環境に関わらず重複するシクリッド魚類の同属種間のニッチ: 胃内容の珪藻をマーカーにして. 第64回日本生態学会大会, 日本生態学会, 早稲田大学(東京都新宿区), [ポスター発表].
- 大塚泰介・富小由紀・石川俊之 (2017年3月25日) 珪藻群集の分析に使えるいくつかの統計解析法. 日本藻類学会第41回大会, 日本藻類学会, 高知大学(高知市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水田における珪藻の環境指標性の研究」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2012～2016年度).
- 総合地球環境学研究所機関連携プロジェクトフルリサーチ「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会—生態シ

システムの健全性」(研究代表者：奥田 昇), 研究協力者 (2015 年度～).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「鈹質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」(研究代表者：大塚泰介), 研究代表者 (2015～2018 年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「*Microcystis* の群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」(研究代表者：朱偉), 研究分担者 (2015～2017 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員, 2003 年 1 月～.

日本珪藻学会, 運営委員, 2017 年 1 月～.

関西自然保護機構, 運営委員, 2014 年 1 月～.

日本珪藻学会, Diatom, 担当編集委員, 1 件.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 1 件.

汽水域研究会, LAGUNA, 査読, 1 件.

日本プランクトン学会, Plankton & Benthos Research, 査読, 1 件.

群馬県立自然史博物館, 群馬県立自然史博物館研究報告, 査読, 1 件

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016 年 9 月 13 日・14 日, 京都府立大学, 環境微生物学.

2016 年 4 月～2017 年 3 月, 芝崎美世子 (大阪市立大学理学研究科博士課程), 研究指導・助言.

2016 年 4 月～2017 年 3 月, 富 小由紀 (滋賀大学大学院教育学研究科修士課程), 研究指導・助言.

2016 年 4 月～2017 年 3 月, 服部圭治 (滋賀県立大学環境科学部), 研究指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

交流事業, 総括.

地域連携事業調整, 担当 (～11 月).

レストラン・ショップ会議, 主担当.

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 7 件.

はしかけ運営「たんさいぼうの会」・「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」, 担当.

2016 年 11 月 12 日・13 日, ありがとう交流会 びわ博フェス 2016, 総括.

2016 年 11 月 19 日, 琵琶湖学習 2016, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 学習助言指導.

他の博物館・機関等主催行事

2016 年 5 月 9 日, 田んぼの生きものについて, 草津第二小学校, 講義, 草津市立草津第二小学校 (滋賀県), 講師.

2016 年 6 月 6 日, ハッタミズ探し, 笠縫東小学校, 実習, 草津市立笠縫東小学校 (滋賀県), 講師.

2016 年 6 月 12 日, 魚のゆりかご水田観察会, 栗見出在家魚のゆりかご水田協議会, 観察会, 栗見出在家町の水田 (滋賀県東近江市), 講師.

2016 年 6 月 18 日, 水田の一年/田んぼの生き物, 公益財団法人国際湖沼環境委員会, 講義, 野洲市コミュニティセンターなかさと (滋賀県), 講師, (下松孝秀と共同).

2016 年 7 月 19 日, プランクトン実習, 滋賀県立彦根東高等学校, SSH 実習, 琵琶湖博物館, 講師, (鈴木隆仁と共同).

2016 年 7 月 27 日, プランクトン実習, 就実中学校, 実習, 琵琶湖博物館, 講師, (鈴木隆仁と共同).

2016 年 9 月 3 日, びわこ今昔物語～環境問題とたちむかう滋賀県民, 環境レイカーズ, 講義, 琵琶湖博物館, 講師.

2016 年 9 月 15 日, 琵琶湖辺の水田における生物多様性と魚のゆりかご水田, 桜美林大学リベラルアーツ学群, 講

義，琵琶湖博物館，講師。

2016年9月25日，琵琶湖で採集した動物プランクトンの顕微鏡観察，イオン草津チアーズクラブ，実習，琵琶湖博物館，担当。

2016年9月30日，琵琶湖辺の水田における生物多様性と魚のゆりかご水田，京都大学農学研究科，講義，琵琶湖博物館，講師，（嘉田由紀子氏と共同）。

2016年11月9日，琵琶湖沿岸の生物多様性について，立命館守山高等学校，講義，琵琶湖博物館，講師。

2016年11月20日，琵琶湖のプランクトン検鏡観察，特定非営利活動法人 自然と緑，実習，琵琶湖博物館，担当，（鈴木隆仁と共同）。

2017年2月11日，魚のゆりかご水田について，京都外国語大学校友会 滋賀支部，講義，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2017年3月17日，概要説明・案内，竜王町山之上自治連合会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年4月23日，ラジオ大阪，ぶっちゃけインタビュー，出演。

2016年4月25日～28日，産経新聞 夕刊，談 dan ハッタミミズを追って①～④，取材対応。

2016年5月30日，読売新聞滋賀版，近江と人と 専門外 ズブズブはまる 日本一長いミミズを研究する 大塚泰介さん（48），取材対応。

2016年6月7日，産経新聞滋賀版，学芸員もびっくり 長～いハッタミミズ見つかった？ 草津市の小学生、田んぼでチャレンジ，取材対応。

2016年6月7日，中日新聞滋賀版，推定70センチの大物も 草津の笠縫東小4年生 ハッタミミズ探し，取材対応。

2016年6月7日，京都新聞滋賀版，ハッタミミズ 大物70センチ 草津・笠縫東小 児童「長くてびっくり」，取材対応。

2016年6月29日，FM滋賀，平和堂マイデイリーライフ，出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集・整理，監督・指示。

ナゴヤダルマガエルの採集，飼育。

ハッタミミズの採集，飼育。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 ひわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「け」の取り札・パネル，制作協力。モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C展示室「田んぼへ」，主担当（～8月）。

マイクロアクアリウム，副担当（～8月）。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（朱偉、柏尾珠紀、篠原耕平、廣石伸互、草加伸吾），受け入れ担当。

琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（金尾滋史と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度，びわ博だより・うみっこ通信，編集委員.

【館外の活動】

2001年4月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

2015年4月～，関西広域連合広域環境保全局生物多様性検討委員会，委員.

昨年度に引き続き、「小学校における博物館の有効活用」というテーマで、博物館の展示内容と小学校の学習内容との関連を探るとともに、来館された小学校を対象にした聞き取り調査を強化し、来館の目的や来館前後の学習状況など小学校における博物館活用の実態を調べた。どの展示が小学校のどの学年のどの学習とリンクしているのか、理科や社会科の補足的・発展的学習や総合的な学習（主に環境学習）としてどのように博物館が活用できるのかをわかりやすく伝え、博物館をより有効に活用していただくことを研究の目的とした。

来館される学校の滞在時間は1～5時間と幅があり、体験学習プログラムを依頼されてじっくり過ごす学校もあれば、他の施設を併用され滞在時間が短くなるケースもある。小学校の利用としては、中学年（3年社会科「昔の暮らし」・4年社会科「水の利用」等）での利用が多く、次いで高学年（環境学習）での利用となる。リニューアル後は、低学年（公共施設の利用・生きもの）での利用も増えてきている。また、ある程度の事前学習を行い、目的を持って来館される学校（主に調べ学習やまとめで利用）や見学によって目的を持たせようとする学校（学習の導入で利用）が多いことも調査から見えてきている。

学校現場は、諸般の事情から校外学習に出にくい状況がある。しかし、本年度は第1期リニューアルオープンがあり来館校数の増加が見られた。今後も第3期までリニューアルが続くため、さらなる増加が見込まれる。前述した調査結果を踏まえた上で博物館でのより良い学びを追求するため、本年度は丁寧な下見対応（利用校種学年や滞在時間に即した説明）をおこなったり、展示見学に有効なサポートシート（ワークシート）を考える教員研修を行ったりした。利用説明や研修内容を活かして計画をしていただいた学校も多く、利用説明や研修内容についても好評価をいただくことができた。

児童・生徒の博物館利用の中で、引率される先生方の役割は重要である。利用された先生方の声（今後の要望や課題）も踏まえ、先生方に琵琶湖博物館をご理解いただき、効果的な支援をしていただくことを目的とした「博物館活用の手引き（教員向け）」の作成を視野に入れ、より具体的な学習プログラムを提案していきたい。

印刷物

【一般向けの著作】

岡部陽造（2016）湖岸より 265 目的意識明確にし 活用を. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

岡部陽造（2017年2月17日）小学校における博物館の有効活用. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「小学校における博物館の有効活用」, (2016年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年9月29日, 滋賀県立大学, 「琵琶湖と琵琶湖博物館について」.

2016年11月～2017年3月, 滋賀の教師塾塾生, 団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」、担当。

2016年4月～2017年3月、「マイクロアクアリウムを楽しもう」等7講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、10件、(はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」と共催・小林偉真と共同)。

2016年5月～2017年2月、琵琶湖学習2016、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、4件、(小林偉真と共同)。

2016年7月～2017年1月、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、企画運営・講師、5件、(滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・小林偉真と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月～2017年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高等特別支援学校大学、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、111件、(小林偉真と共同)。

2016年6月～2016年11月、「展示見学で利用できる学習シートの作成」等、滋賀県総合教育センター、10年経験者研修【選択研修】、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、3件、(小林偉真と共同)。

2016年8月～2017年3月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、8件、(小林偉真と共同)。

2016年8月3日、琵琶湖博物館の利用とプランクトン観察(実習)、栗東市小学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2016年8月4日、琵琶湖博物館の利用と化石のレプリカづくり(実習)、滋賀県小学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2016年8月5日、学校における博物館の有効活用、滋賀県教育委員会幼小中教育課、平成28年度しが環境教育研修会、琵琶湖博物館、講師、(小林偉真と共同)。

2016年9月1日、日本の小学校におけるプランクトン実習、公益財団法人国際湖沼環境委員会、JICA「統合的流域管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修、琵琶湖博物館、講師。

2016年11月～2017年1月、琵琶湖について、安曇っ子博物館、高島市立安曇小学校(滋賀県)、講師、2件。

2016年11月15日～18日、職場体験学習(実習)、草津市立新堂中学校、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、4件、(小林偉真と共同)。

2016年12月10日、環境学習拠点施設の役割について、公益財団法人国際湖沼環境委員会、平成28年度さくらサイエンスプラン交流事業、琵琶湖博物館、講師。

2017年1月17日～26日、琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習)、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件、(小林偉真と共同)。

視察対応

2016年9月10日、博物館の交流事業について(実習)、九州国立博物館、琵琶湖博物館。

2016年11月15日、下見対応、リセ・フランセ・ド・京都(京都フランス語学校)、琵琶湖博物館。

2017年1月13日、博学連携について、芝山文化生態緑園(台湾)、琵琶湖博物館。

2017年1月18日、学校連携について、長野県立歴史館、琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート、担当、8件、(小林偉真と共同)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年4月～2017年3月，学校等標本貸出事業，担当，27件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「り」の取り札・パネル，制作協力.
モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

JICA 研修 博物館とコミュニティー開発コース「学校向け体験学習の実践（実習）」，講師，2016年11月3日，琵琶湖博物館，（小林偉真と共同）.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル「大人のディスカバリーに関すること」，副担当.

第2期リニューアル「UNEP 改修に関すること」，副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年6月～2017年2月，滋賀大学コア・サイエンスティチャー推進事業，推進委員.

2016年9月～2017年2月，「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議，委員.

今年度は水族展示のリニューアルが最も大きな出来事であった。水族展示では水槽の工事、展示物の製作、飼育生物の輸送や搬入、飼育など多岐にわたる内容に関わり、準備もぎりぎりではあったが、無事に7月14日にリニューアルオープンを迎えることができた。今回のリニューアルにおいて「琵琶湖の魚と人との関わり」「古代湖としての琵琶湖」が大きな軸となり、生体展示以外にも多くの展示物を取り入れたが、来館者からの感想は好印象であることが多く、大きな成果であった。一方では、展示物の破損や当初の目的通りに機能していない展示もあり、今後の課題とするとともに、継続的に展示も進化できるよう、博物館学的な研究も行いつつ工夫を重ねていきたい。

専門研究のテーマである「水田利用魚類の保全生態学的研究」では、昨年度に引き続き琵琶湖固有種である2種のスジシマドジョウ類の繁殖生態、仔稚魚の成長について明らかにし、研究会で発表をした。この成果については現在論文として執筆している。また、これまで詳細が明らかにならなかった県内に生息するスナヤツメ北方種・南方種の分布について、分子生物学的手法を用いた研究を開始し、県内16水系における2種の分布について明らかにすることができた。さらに、希少淡水魚ハリヨの生息域外保全に関わる活動として、企業と連携した保全の取り組みを開始し、地域や企業と連携した保全活動のあり方について手法論を検討した。このほか、環境省や滋賀県のレッドデータブックに関わる情報集約やレッドデータブックの執筆を行った。

博物館学研究領域にかかわる研究としては、観察会などを通じたモニタリング調査の有効性や観察会が地域自然史の知見を得るための場となりうる可能性について研究を継続し、研究発表や合同セミナーなどで発表を行った。また、これまで博物館に寄せられた質問から見た地域のニーズについても、さらなるデータを収集し、次年度の学会などで発表を行う予定である。

広報営業課では年間観覧券の「倶楽部 LBM」や水槽サポーターを中心として、リニューアルに関する広報業務のほか、企業連携に関わる業務を行った。近年、博物館に対する利用者の目的は多様化している。これらのニーズに適応し、博物館のファンを増やす努力を今後とも工夫をしていく予定である。

印刷物

【専門分野の著作】

- 金尾滋史 (2016) ビワコガタスジシマドジョウ. 環境省第5次レッドリストチェックシート, 環境省自然環境局野生生物課.
- 金尾滋史 (2016) ヨドコガタスジシマドジョウ. 環境省第5次レッドリストチェックシート, 環境省自然環境局野生生物課.
- 金尾滋史 (2016) 淡水魚類 (ハリヨ、ホトケドジョウ等11種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 547-573.
- 金尾滋史 (2016) 淡水貝類 (カタハガイ、オグラヌマガイ等8種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 575-596.
- 金尾滋史 (2016) 陸産貝類 (ヤコビマイマイ、カナマルマイマイ等23種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 597-621.
- 金尾滋史 (2017) DNA解析による滋賀県内におけるスナヤツメ北方種・南方種の分布. 滋賀県生きもの総合調査報告書, 滋賀県生きもの総合調査委員会: 12.

【一般向けの著作】

- 金尾滋史 (2016) 湖岸より 264 質問あれば気軽に相談を. 中日新聞, 中日新聞社, 5月14日.

金尾滋史 (2017) 湖岸より 282 「魚と人の関わり」 どう伝えるか. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月14日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史 (2016年6月17日) 博物館は地域の疑問にどう挑む? ~博物館によせられる質問から見た地域のニーズ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 佐久間 啓・松崎慎一郎・金尾滋史・舟尾俊範・鹿野雄一・武島弘彦 (2016年9月24日) ミトコンドリア DNA 分析に基づく日本産ナマズ属3種の系統地理. 2016年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 岐阜大学 (岐阜市) [口頭発表].
- Shunping HE (代理発表: 金尾滋史) (2016年10月21日) The reconstruction of fish diversity history in China: patterns, processes and mechanisms. 琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Shunping HE (代理発表: 金尾滋史) (2016年10月22日) The Lakes and their fish diversity in the Yangtze River and the effect of human activity on them. 国際シンポジウム「古代湖の魅力を探る」, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史 (2016年11月26日) 野外活動の記録を自然史情報として残すために~その考えと撮影方法~. 第57回日本動物園水族館教育研究会新潟大会, 日本動物園水族館教育研究会, 新潟市水族館マリニピア日本海 (新潟県), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2016年12月8日) Research and conservation activity rooted in the local community. 琵琶湖博物館・韓国国立洛東江生物資源館合同セミナー, 琵琶湖博物館. [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁 (2016年12月18日) 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 金尾滋史・阿部 司 (2016年12月18日) 魚はどこから田んぼにやって来るのか. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史 (2017年1月24日) 系統保存を応用したスジシマドジョウ類の野外における産卵環境と初期生態の解明. 第61回水族館技術者研究会, 日本動物園水族館協会, 横浜シンポジウム (横浜市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2017年2月18日) 地域と協働した水生生物の保全活動~地域づくりと博物館の役割~, 琵琶湖一周フィールド研究会, 龍谷大学里山学術センター・地域環境学ネットワーク, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 酒井陽一郎・うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2017年3月16日) 市民調査データを用いた生物多様性解析とその有用性 -うおの会の魚類分布データを用いた滋賀県における淡水魚類の多様性評価と保全. 日本生態学会第64回全国大会, 早稲田大学 (東京都), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産~滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究~」(研究代表者: 大塚泰介), 研究協力者 (2012~2016年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本貝類学会, 情報誌「ちりぼたん」, 編集委員.
- 農業農村工学会, 農村生態工学研究部会, 代表幹事.
- 日本動物園水族館教育研究会, 運営委員.
- 日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会誌, 編集長.
- 日本貝類学会, ちりぼたん, 査読, 1件.
- 日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会誌, 査読, 8件.
- 日本動物園水族館教育研究会, 第57回日本動物園水族館教育研究会新潟大会, ポスター賞審査員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年1月14日、びわこ学院大学、「滋賀の環境」。
2017年2月22日、滋賀県立大学、「博物館資料保存論」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、琵琶湖博物館，9件。

はしかけ運営「温故写新」，担当。

2016年11月12日，水族展示バックヤード探検，ありがとう交流会 びわ博フェス 2016，琵琶湖博物館，案内，
(桑原雅之・松田征也・山本充孝・松岡由子と共同)。

2016年12月3日，暮らしと魚，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習，(山本充孝と共同)。

2017年1月28日，水族展示で「人と魚の関わり」をどう伝えるか？。新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2016年7月17日，かつべ水フェスタ水辺の生き物観察会，勝部自治会，エルセンター（滋賀県守山市），講師。

2016年8月2日，犬上川の生き物観察会，快適環境づくりをすすめる会，犬上川（滋賀県彦根市），講師。

2016年8月21日，水辺の楽校（夏編），びわこ豊穡の郷，目田川（滋賀県守山市），講師。

2016年9月29日，琵琶湖博物館の生き物，甲賀市立綾野小学校，琵琶湖博物館，講師。

2016年12月3日，暮らしの宝湖『琵琶湖』と魚とわたしたち～琵琶湖淀川水系を通じた吹田市とのつながり～，琵琶湖×環境×すいた講演会，南千里センター（大阪府吹田市），講師。

2016年12月11日，守山の川にすむ魚とその保全，守山市ほたるの森資料館 2016年度第1回環境学習会，守山市民ホール（滋賀県），講師。

2017年1月9日，琵琶湖博物館見学会，きしわだ自然資料館友の会，琵琶湖博物館，講師。

2017年1月15日，びわ湖にはどんな生き物がいるの？，佐川美術館，ギャラリートーク，佐川美術館，講師。

2017年2月4日，びわ湖にはどんな生き物がいるの？，佐川美術館，ギャラリートーク，佐川美術館，講師。

視察対応

2016年5月27日，水族展示リニューアル工事現場案内，琵琶湖環境部新任研修，琵琶湖博物館。

2017年3月8日，館内案内，東近江環境保全ネットワーク参加者，琵琶湖博物館。

2017年3月8日，館内案内，インドネシア科学院，琵琶湖博物館。

2017年3月29日，館内案内，17th International Symposium on River and Lake Environment エクスカーション，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年4月26日，京都新聞，ハリヨすむ池再び，取材・コメント，(2016年4月24日取材)

2016年7月19日，テレビ東京，ガイアの夜明け・どう伝える？“我が社”の魅力，取材・コメント，(2016年4月26日・5月18日・6月7日取材)。

2016年7月13日，京都新聞，湖の価値五感で感じて あす琵琶湖博物館リニューアル開館，取材・コメント，(2016年7月12日取材)

2016年7月13日，びわこ大津経済新聞，琵琶湖博物館がリニューアル 淡水にすむバイカルアザラシを関西初展示，取材・コメント，(2016年7月12日取材)。

2016年7月13日，しがトコ，琵琶湖博物館が7/14リニューアルオープン！内覧会の様子を40枚の写真で一挙紹介！，取材・コメント，(2016年7月12日取材)。

2016年8月11日, 毎日新聞, 川にウーパールーパー, 取材・コメント, (2016年8月10日取材).
2016年8月11日, 朝日新聞, ウーパールーパー捕獲 大津の川, 取材・コメント, (2016年8月10日取材).
2016年8月11日, 中日新聞, 大津市南部の川にウーパールーパー, 取材・コメント, (2016年8月10日取材).
2016年8月11日, 京都新聞, エッ 大津の河川のウーパールーパー, 取材・コメント, (2016年8月10日取材).
2016年8月11日, 産経新聞, 大津の川にウーパールーパー, 取材・コメント, (2016年8月10日取材).
2016年8月12日, 読売新聞, 外来両生類川で捕獲, 取材・コメント, (2016年8月12日取材),
2016年9月16日, 朝日新聞, 新生「びわ博」好調, 取材・コメント, (2016年9月15日取材),
2016年9月21日, TBS テレビ, どうぶつ奇想天外 2016, 撮影協力, (2016年8月31日取材).
2016年12月9日, 読売新聞, びわこ虫 今年が多い?, 取材・コメント, (2016年12月7日取材).
2016年12月19日, KBS 京都ラジオ, ファミリーレストランのめっちゃうま!, 生出演.
2017年2月20日, 京都新聞, ソフィアがやってきた 琵琶湖疏水の生き物たち, 講義, (2016年12月20日取材).
その他新聞・テレビ・雑誌への取材対応, 30件.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電話・窓口・メールによる質問対応, 250件.
窓口・メールによる生物の同定依頼, 20件 (60点) .

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

映像収蔵庫, 担当.
映像資料収集, 担当.
魚類標本, 副担当.
水族資料収集, 担当.
水族資料維持管理, 担当.
動物資料貸出・特別観覧対応, 2件.
魚類資料提供受入.
魚類資料収集, 50件 (淡水魚).
昆虫資料収集, 10件 (水生昆虫等).
貝類資料収集, 20件 (陸産貝類, 淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.
トピック展示「ビワッシーができるまで」, 2016年6月7日～6月19日, 展示協力. 琵琶湖博物館.
第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「ゆ」の取り札・パネル, 制作協力.
第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「を」の取り札・パネル (はしかけ「温故写真」), 制作協力.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.
展示交流員と話そう, 内容指導. 3件.

他博物館・機関の活動

鳥羽水族館, 企画展示 SEA7 おさかなサミット「ニッポンバラタナゴ」, 展示協力.
壱岐市立一支国歴史博物館, 第30回特別企画展「イキものがたり」, 写真提供・展示協力.
徳島県オヤニラミ保全会議 (8月23日, 24日), 日亜化学工業株式会社 (徳島県), 活動協力.
佐川美術館, 企画展示「さがわきつずみゅーじあむ ダンボールアート遊園地」, 写真提供・展示協力.
北九州市立自然史・歴史博物館, 企画展「大どじょう展」, 写真提供・展示協力.

【企画調整活動】

サテライトミュージアム事業「KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY」, 展示運営, 2016年5月5日, JR京都駅(京都市下京区).

JICA 研修 博物館とコミュニティ開発コース「地域と協働した希少淡水魚の保全活動」, 講師, 2016年11月2日, 守山市金森町(滋賀県).

日本動物園水族館協会近畿ブロック園館長会議, 随員, 2016年11月7~8日, 神戸どうぶつ王国(神戸市).

【広報営業活動】

年間観覧券「倶楽部LBM」, 担当.

水槽サポーター制度, 担当.

倶楽部LBM 会員イベント「エリ漁体験」, 2016年4月17日・5月15日・5月29日, 守山市地先・琵琶湖博物館(渡部圭一と共同).

映画「Mother Lake」公開記念トークイベント, 2016年6月12日, イオンシネマ草津(滋賀県草津市), (渡部圭一と共同).

イナズマロックフェス出展ブース, 展示解説, 2016年9月17・18日, からすま半島広場(滋賀県草津市).

滋賀県琵琶湖保全再生課「暮らしの宝湖 琵琶湖と暮らしを訪れるエクスカッションツアー」, 講師, 2016年11月6日, 琵琶湖博物館.

ダイフク・リニューアル記念ツアー, 講師, 2016年11月19日, 琵琶湖博物館.

企業の生物多様性保全活動などに関する相談対応, 7件.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

水族展示室リニューアル, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年4月~2017年3月, ショップ会議メンバー.

【海外渡航】

2016年10月3日~8日, ロシア科学アカデミー・バイカル博物館(ロシア・イルクーツク州), リニューアル展示物捕獲依頼.

【館外の活動】

2006年8月~, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 委員.

2010年7月~, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2010年4月~, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県希少野生動植物調査監視指導員.

2011年11月~, 滋賀県農政水産部農村振興課, 豊かな生き物を育む水田づくり懇話会, 委員.

2012年2月~, NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネット, ケースワーカー.

本年度は、「学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法」というテーマで、博物館利用時の利用目的や利用方法が明確にできるような要素（体験学習プログラムや展示サポートシートなど）について、特に中学校や高等学校の利用状況を調べながら研究を進めた。中学校や高等学校は小学校とは異なり、総合的な学習の時間を利用して環境学習の一環で利用することが多いことがわかっている。したがって、各学校で行っている環境教育において、博物館の展示見学や体験学習プログラムの有効活用を目的とし、各学校の博物館の利用目的が明確になるような連携のあり方を模索した。

教員向け（学校団体向け）の一斉下見説明会で使用する資料をデータ化した。「学校団体ご利用案内」「利用上のおお願い」「周辺図・館内図」の写真と図表を新規に作成し、画像（スライド）にした。また、第1期リニューアルに伴い、C展示室と水族展示室のPRも兼ねた各展示室の紹介画像を作成した。これにより、一斉下見説明会において、分かりやすく効率的に説明でき、参加した教員への対応もスムーズに行えた。利用目的が明確にできる方法の1つになった。

中学校や高等学校が主に利用する体験学習プログラムは講義である。琵琶湖に関する内容の中でも、各学校によって重要視する内容が異なることが聞き取りによってわかった。そのため、各学校のニーズに応じた講義内容の改善や学習シートの開発を行った。講義に使用するスライドは各学校毎に作成し、展示室と関連づけながら説明し、講義後の展示見学を円滑に進められるようにした。また、講義時に使用する学習シートは、展示見学や事後学習での活用を目指して作成し、教員からの良い評価を得ることができた。

教員向け研修会（初任者研修、環境教育研究協議会）では、児童・生徒たちの学習サポートシートの開発に向けた実習を取り入れ、博物館での学習を充実させるための手段を考えてもらった。本年度の研究により、展示見学時のサポートシートや講義での学習シート、幅広い利用を可能にできるような利用ガイドの作成も念頭にいれながら、博物館の有効活用について提案していきたい。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

小林偉真（2017年3月17日）学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法」、(2016年度)。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016年11月～2017年3月、滋賀の教師塾塾生、団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」、担当。

2016年4月～2017年3月、「マイクロアクアリウムを楽しもう」等7講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、

琵琶湖博物館，企画運営，10件，（はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」と共催・岡部陽造と共同）。

2016年5月～2017年2月，琵琶湖学習2016，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，4件，（岡部陽造と共同）。

2016年7月～2017年1月，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，企画運営・講師，5件，（滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・岡部陽造と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月～2017年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校大学，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，111件，（岡部陽造と共同）。

2016年6月～2016年11月，「展示見学で利用できる学習シートの作成」等，滋賀県総合教育センター，10年経験者研修【選択研修】，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，3件，（岡部陽造と共同）。

2016年8月～2017年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，8件，（岡部陽造と共同）。

2016年7月13日，水環境学習「琵琶湖について」，高島市立湖西中学校，高島市立湖西中学校（滋賀県），講師。

2016年8月5日，学校における博物館の有効活用，滋賀県教育委員会幼小中教育課，平成28年度しが環境教育研修会，琵琶湖博物館，講師，（岡部陽造と共同）。

2016年11月15日～18日，職場体験学習（実習），草津市立新堂中学校，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，4件，（岡部陽造と共同）。

2016年11月30日，琵琶湖学習「琵琶湖について」，近江八幡市立八幡中学校，近江八幡市立八幡中学校（滋賀県），講師。

2017年1月17日～26日，琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習），滋賀県総合教育センター，初任者研修，琵琶湖博物館，講師，4件，（岡部陽造と共同）。

2017年2月7日，琵琶湖博物館について，高島市中学校教育研究会環境部会，高島市立高島中学校（滋賀県），講師。

視察対応

2016年8月3日，博物館の体験学習プログラムについて，（株）日本旅行，琵琶湖博物館。

2016年9月28日，琵琶湖博物館について，滋賀県私立中学高等学校連合会，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート，担当，8件，（岡部陽造と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年4月～2017年3月，学校等標本貸出事業，担当，27件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「た」の取り札・パネル，制作協力。モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「学校向け体験学習の実践（実習）」，講師，2016年11月3日，琵琶湖博物館，（岡部陽造と共同）。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル「大人のディスカバリールームに関すること」，副担当.

科学研究費補助金若手研究 (B)「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」の二年目にあたり、宮座文書のなかでも極めて古い様式を示す頭役差定文書を重点的に調査した。今年度は、鎌倉期からの頭役祭祀で知られる多賀大社 (多賀町多賀) の「馬頭人祭」について、多賀町教育委員会・多賀大社による調査事業に参画した。年頭の差定式に始まる祭祀の全行程を記録し、現在も生きている文書儀礼のモノグラフ作成が可能になった。あわせて近世～近代期の複数の差定状原本の撮影に着手し、多賀大社の差定システムに関する体系的な研究に弾みをつけることができた。

これに並行して、「ずいき祭り」で知られる御上神社 (野洲市三上) では、差定状原本を含む未紹介の頭役祭祀文書の整理と目録作成を進めた。同じく「すし切り神事」を伝える下新川神社 (守山市幸津川) では、神事の場に掲示される「差定書」と、その背景にある当番組ごとの大量の引き継ぎ文書の存在が明らかになった。奈良県五條市でも、事実上の新出とよいてよい中世末期「頭文」の原本調査の機会を得たほか、差定文書ではないが、奈良県天理市の大和神社の宮座でも、慶長期に始まる引き継ぎ文書の撮影・調査が実現した。

上記の調査から、一般に中世後期には衰退・消滅すると考えられてきた古典的な頭役祭祀が、中近世移行期の村社会でも被差定圏を再編しつつ持続的に展開する過程が具体的に明らかになってきた。これら進行中の調査の成果として、2016年度の期間中に学術論文など数編が刊行されたほか、宮座・頭役祭祀に関する総説1編を脱稿した。

一方、初期の頭役祭祀文書は存在しないと思われていた関東村落の共同調査でも、千葉県市川市史編さん事業におけるオビシヤ調査グループの調査をきっかけとして、近畿地方に匹敵する17世紀代初頭の年代をもつオビシヤ文書が相次いで (再) 発見された。これについても共同調査の体制を整え、成果を順次公表しつつある。

専門研究「近江村落における森林資源の多層性」では、湖東・湖南地域の山林や藪、ヨシ地などの資源管理と祭祀の関連 (近江八幡市のヨシ松明調査、守山市勝部の火祭り調査) に注目した。この調査成果は、2016年7月に完了したC展示リニューアル事業のなかで、展示物とグラフィックに反映させるとともに、博物館主催の野外見学会やセミナー発表、松明の模型など民俗資料の受け入れを並行して進めた。また来年度にむけて、大津市北比良の石工用具とこれに関連する共有林の石材利用に関する調査、および近江八幡市南津田町の内湖干拓地における漁撈・生産用具とこれに関連する湖面の水産資源、藪・共有林の管理に関する民俗誌調査に着手した。

さらに2016年度は科学研究費補助金基盤研究 (B)「東北型社会の特質に関する史的研究—地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」の第二年度でもあり、秋田藩領の地縁社会による自然資源の開発・管理とその近代化過程をテーマとした共同研究にひきつづき参加した。これは後進的とみなされてきた「領主的林業地帯」を題材に、里山的な広葉樹林の村レベルの管理実態を見直すもので、専門研究と相補しつつ、草山や「藪」の卓越する近江村落の森林資源管理や近畿地方の「百姓的林業」を列島規模の視野で位置づけるのに不可欠な知見となる。

印刷物

【学術論文】

渡部圭一 (2016) 頭人差定文書の儀礼と管理—近江大篠原天王社の頭役祭祀を事例に. *宗教民俗研究*, 24・25, 日本宗教民俗学会: 52-71.

渡部圭一 (2016) 頭役祭祀における禁忌と神職. *淡海文化財論叢*, 8, 淡海文化財論叢刊行会: 259-264.

渡部圭一 (2017) 生活と習俗の史科学序説. *現代民俗学研究*, 9, 現代民俗学会: 77-81.

渡部圭一・芳賀和樹・福田 恵・湯澤規子・加藤衛弘 (2017) 公務日記にみる近代村の成立過程—秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻. *筑波大学農林社会経済研究*, 32, 筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域: 1-67.

【専門分野の著作】

- 渡部圭一(2016)泰福寺・高石神社のオビシヤ(高石神). 千葉県市川市史編さん民俗部会オビシヤ調査グループ 編, *市川のオビシヤとオビシヤ文書(市川市史編さん事業調査報告書)*, 市川市文化スポーツ部文化振興課:44-47.
- 渡部圭一(2016)幸津川すし切り神事. 橋本道範 編, *再考 ふなずしの歴史*, サンライズ出版:143-148.
- 渡部圭一(2017)近代移行期の「村の年代記」ー越谷市越巻中新田のオビシヤ文書. *埼玉民俗*, 41, 埼玉民俗の会:67-82.
- 渡部圭一(2017)戦後の地域自治会と村落組織ー四丁目富士見会(滝ノ上)の事例. *立川市史民俗部会2016年度年次報告書*, 立川市史民俗部会:9-16.

【一般向けの著作】

- 渡部圭一(2016)湖岸より 262 見逃せない春の「むら」祭り. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月23日.
- 渡部圭一(2016)どこでもだれでもフィールド情報2 祭り調査の「ここだけの話」. *琵琶博だより*, 26, 琵琶湖博物館:3-4.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 渡部圭一・村上忠喜(2014)新日吉神宮小五月会. 京都の民俗文化総合活性化プロジェクト実行委員会 編, *京都 研 銚のまつり 調査報告書2 民俗調査編*:75-84.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 渡部圭一(2016年10月2日)関東の近世村落における宮座とオビシヤ儀礼. 日本民俗学会第68回年次大会・グループ報告「オビシヤ文書の発見ー関東近世村落とオビシヤ研究の可能性」, 千葉商科大学(千葉県市川市), [口頭発表].
- 渡部圭一(2016年8月19日)「美しい松明」の民俗誌ーヨシ松明展示の制作過程から. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 渡部圭一(2016年12月4日)浄土真宗出版聖教の受容にみる読み書き実践と声ー瀬戸内海島嶼地域の事例. 科学研究費補助金基盤研究(B)「声と文字をめぐる宗教実践の研究ー東南アジアと隣接地域の比較」(研究代表者・村上忠良・大阪大学准教授)2016年度第2回研究会, 大阪大学中之島センター(大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「近江村落における森林資源の多層性」, (2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者:橋本道範), 共同研究者(2014~2018年度).
- 科学研究費助成事業(若手B)「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明:物質文化研究の視点から」(研究代表者:渡部圭一), 研究代表者(2015~2017年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「東北型社会の特質に関する史的研究:地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」(研究代表者:加藤衛弘), 研究分担者(2015~2019年度).
- 科学研究費助成事業(基盤B)「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者:橋本道範), 研究分担者(2015~2018年度).
- 科学研究費助成事業(基盤C)「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」(研究代表者:石本敏也), 研究分担者(2016~2018年度).
- 科学研究費助成事業(基盤C)「近代地方公文書アーカイブズと民間アーカイブズの構造・情報・関連性に関する総合研究」(研究代表者:白井哲哉), 連携研究者(2014~2016年度).
- 京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」(班長:大谷栄一), 班員(2014~2016年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本民俗学会第 69 回年会実行委員会，委員。
現代民俗学会，編集委員会，運営委員。
京都民俗学会，編集委員会，理事。
日本村落研究学会，村落研究ジャーナル，査読，1 件。
京都民俗学会，京都民俗，査読，3 件。
現代民俗学会，現代民俗学研究，査読，1 件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016 年 5 月 8 日，京都造形芸術大学大学院，「芸術文化特論Ⅲ」。
2016 年 5 月 22 日，京都文教大学，「博物館資料保存論」。
2016 年 6 月 26 日，関西大学博物館，「博物館実習」。
2016 年 7 月 26 日，仏教大学通信教育課程，「博物館実習」。
2016 年度後期，龍谷大学社会学部，「びわ湖・滋賀学」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7 件。

はしかけ運営「近江はたおり探検隊」，担当。

2016 年 5 月 15 日，漁師さんで行くエリ漁ツアー，倶楽部 LBM 会員限定イベント，運営補助。

2017 年 1 月 3 日，「勝部の火祭り」の舞台裏一伝統をささえる松明づくりー，見学会，勝部神社（滋賀県守山市），運営。

2017 年 1 月 15 日，「第 24 回企画展示 開館 20 周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント，百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合，琵琶湖博物館，担当。

2017 年 1 月 20 日，「著作権セミナー」復命報告，事業部セミナー，琵琶湖博物館。

他の博物館・機関等主催行事

2016 年 5 月 20 日，成安造形大学「2016 プロジェクト演習」，びわ湖の日ポスターデザイン，選考担当。

2016 年 6 月 14 日，中学生が主役！滋賀の神社と祭り，開知未来中学校，研修会，琵琶湖博物館，講師。

2016 年 8 月 20 日，鉾山山麓の村々ー本郷一枝郷関係の変化，平成 28 年度文化財歴史講演会「阿仁川上流域の村社会と新田開発ー湊家近世文書をもとに」，講演会，秋田県文化財保護協会阿仁支部・北秋田市教育委員会生涯学習課ほか，北秋田市阿仁ふるさと文化センター（秋田県），講師。

2016 年 11 月 16 日，民俗・考古学系実習・バックヤード見学，草津市立新堂中学校職場体験，琵琶湖博物館，指導。

2016 年 11 月 27 日，古文書整理演習・学習会，北秋田市文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業ワークショップ，北秋田市森吉公民館（秋田県），講師。

2017 年 2 月 18 日，「蜂にさされたほうがまし」の真実ー多賀の祭りをささえた人びと，多賀大社祭礼調査講演会，多賀町教育委員会・多賀大社，多賀大社（滋賀県多賀町），講師。

2017 年 3 月 4 日，古文書整理演習・学習会，北秋田市文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業ワークショップ，北秋田市森吉公民館（秋田県），講師。

視察対応

2016 年 4 月 2 日，民俗収蔵庫 1・2 案内，京都大学深町加津枝研究室，琵琶湖博物館。

2016 年 5 月 4 日，民俗収蔵庫 2 案内，文化庁小林主任調査官，琵琶湖博物館。

2016 年 9 月 11 日～12 日，民俗収蔵庫 2、漁撈用具現地確認調査，文化庁石垣悟調査官，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

資料提供・各種パブリシティ, 主担当.
各種メディア取材対応, 多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
民俗資料寄贈受入, 4件.
収蔵庫見学対応, 5件.
考古収蔵庫資料, 貸出対応, 2件.
考古収蔵庫・民俗収蔵庫特別観覧対応, 5件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 副担当.
第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「ま」の取り札・パネル, 制作協力.
2016年5月2日, 展示交流員フィールド研修「サンヤレ踊り・すし切り神事の舞台裏見学」, 下新川神社(滋賀県守山市), 運営.
2016年6月7日～6月19日, トピック展示「ビワッシーができるまで」, 担当.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.
展示交流員と話そう, 内容指導.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

C展示室「ヨシ原に入ってみよう」コーナー, 担当.
C展示室「私たちの暮らし」コーナー, 担当.
C展示室「田んぼ」コーナーTNB48, 協力.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年4月～現在, 千葉縣市川市史編さん事業, 調査編集委員.
2014年4月～現在, 奈良県御所市献灯行事・習俗に関する記録作成・調査事業, 調査委員.
2014年4月～現在, 奈良県天理市ちゃんちゃん祭り記録作成事業, 調査委員.
2015年8月～現在, 福井県小浜放生祭総合調査委員会, 調査委員.
2015年8月～現在, 東京都立川市史民俗部会, 編集委員(副委員長).
2016年4月～現在, 滋賀県多賀大社祭礼調査委員会, 委員(副委員長).
2016年4月～現在, 奈良県五條市文化遺産活用実行委員会, 委員.

4 月に入庁し、博物館では新たな分野となる水生動物学を専門として新規水槽であるバイカルアザラシの受け入れ準備から輸送、飼育の立ち上げを行った。完成間近の施設における飼育備品整備と輸送の手配、備品の準備、リニューアルオープンの日も差し迫る中、打ち合わせ通りの輸送と搬入を行い、2 館 3 頭の輸送を無事に終えることができた。獣医の経験を活かして現在もバイカルアザラシ 3 頭を健康に飼育・展示中である。

水族展示業務として、アザラシの展示に合わせてバイカル湖の情報を取り入れた博物館ならではの新たな解説を行うよう心掛け、お客様に興味と関心を持ってもらっている。

専門研究としては、輸送に伴うバイカルアザラシの摂餌量の変化をテーマにデータ分析と発表を行った。今後は、生体展示を活かした研究テーマを取り入れ、飼育や展示に活かせる研究を展開していく。

また、博物館事業としては、博物館の在り方や資料保存の考え方を学び、自身の経験と知識を活かし、展示室内の生体に関する防疫管理体制を策定した。

印刷物

【専門分野の著作】

松岡由子 (2017) バイカルアザラシが仲間入りしました. *滋賀県獣医師会会報 新春号*, 1 (21), 公益財団法人 滋賀県獣医師会 : 16-17.

【一般向けの著作】

大島由子 (2016) 資料裏話 その 23 バイカルアザラシたちの恋を応援. *びわ博だより*, 27, 琵琶湖博物館 : 4.

大島由子 (2016) 湖岸より 277 アザラシたちに秋の味覚を. *中日新聞*, 中日新聞社, 10 月 29 日.

松岡由子 (2017) うみっこトピックス バイカルアザラシが琵琶湖博物館にやって来た!. *うみっこ通信*, 17, 琵琶湖博物館 : 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松岡由子 (2017 年 1 月 20 日) バイカルアザラシの移動による摂餌量の変化について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

松岡由子 (2017 年 2 月 9 日) バイカルアザラシの移動による摂餌量の変化について. 第 23 回日本動物園水族館獣医師臨床研究会, ZAVG, 富山県民会館 (富山市), [口頭発表・座長].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野生動物医学学会, 学術・教育委員会委員, 2016~2018 年度.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2016年11月12日，バイカルアザラシの搬入，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，琵琶湖博物館，フロアトーク。

2016年11月12日，水族バックヤード探検，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，琵琶湖博物館，案内，3件，
(松田征也・金尾滋史・山本充孝共同)。

2016年12月24日，バイカルの生き物，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，水族古代湖エリア フロアトーク，
(桑原雅之共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2016年11月29日，水族館の飼育員の仕事，おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ，仕事人と語ろう！，東
近江市立愛東南小学校（滋賀県），講話。

視察対応

2016年7月8日，水族バイカルアザラシ，琵琶湖環境部，琵琶湖博物館。

2016年9月6日，リニューアル施設視察およびはしかけ聞き取り対応，マリンワールド海の中道，琵琶湖博物館。

2017年1月11日，寄付金に対するご挨拶と視察対応，滋賀県獣医師会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2016年7月～8月，バイカルアザラシ搬入に関する各社取材対応。

2016年10月1日，Duet，サンライズ出版株式会社，琵琶湖博物館第1期リニューアル！ 特集 琵琶湖博物館に
やってきたバイカルアザラシについて，取材対応，(2016年8月5日取材)。

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

JACRE，鯨類トレーニングセミナー，話題提供。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

防虫防霉対策，生物環境調査，主担当。

収蔵庫温湿度管理，副担当。

バイカルアザラシの安定的飼育，飼育指導と動物状態管理，一日3回の各給餌立ち会い。

バイカルアザラシの健康診断，作業管理および血液・細菌検査，11回。

展示水鳥の健康管理，飼育指導および血液・細菌・レントゲン検査と治療，10回。

その他水族飼育・管理。

蔵書点検，点検作業。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，「め」の取り札・パネル，制作協力。

モーニングレクチャー，講義，3回。

展示交流員と話そう，内容指導。

印刷物

【一般向けの著作】

市川秀之・東 幸代・岸 妙子 (2017) *近江八幡円山 葦間屋 西川嘉右衛門家調査*, 滋賀県立大学人間文化学部:2.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2016年11月12日, 中近世の湖辺と漁撈, 野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館), 秋期企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺の生活史ー」記念講演会, 野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)(滋賀県), 講師.

視察対応

2016年4月20日, 特別収蔵庫の視察, 滋賀県立近代美術館, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫資料展情報のweb発信, 準備, 9件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館蔵「木村忠兵衛家文書」調査・目録作成, 40件.

定期収蔵庫清掃(特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 7回.

定期清掃(収蔵庫前廊下), 6回.

定期清掃(B展示室), 44回.

大掃除(B展示室・歴史研究室・古文書整理室).

防虫防霉調査, トラップ設置回収, 3回.

Ph測定(7箇所), 2回.

脱酸素処理, 2回.

収蔵庫担当者会議報告(生物環境調査結果), 2回.

乳剤散布, 4回.

図書室蔵書点検作業, 2回.

博物館パンフレット一斉発送作業.

他博物館・機関の活動

科学研究費助成事業(基盤B)「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究ー中・近世村落像の再検討ー」(研究代表者:青柳周一), 研究補助(2016~2021年度).

京都市・大谷大学博物館寄託「北海道厚岸市・真宗大谷派正行寺本堂襖下貼文書」, 調査・目録作成(2015~2017年度).

2016年8月3日, 滋賀県立大学・近江八幡市円山町「西川嘉右衛門家文書」, 現地調査.

2016年8月17日，滋賀県東近江市今堀町現地調査（調査指導者：熊本大学教育学部 春田直紀），参加。
天理市・大和神社ちゃんちゃん祭り氏子文書，翻刻。
甲賀市・渡辺俊経家文書，翻刻補助。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年4月26日～5月29日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第63回，調査・準備・展示。
2016年5月31日～7月6日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第64回，調査・準備・展示。
2016年7月14日～9月4日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第65回，調査・準備・展示。
2016年9月10日～11月13日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第66回，調査・準備・企画。
2016年11月15日～12月25日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第67回，調査・準備・展示。
2017年1月2日～2月5日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第68回，調査・準備・展示。
2017年2月7日～3月12日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第69回・「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」関連ミニ展示「琵琶湖地域のヨシ」，企画・調査・準備・展示。
2017年3月14日～4月23日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第70回，調査・準備・展示。
B展示室常設展示陳列替え，3回。

他博物館・機関の活動

2017年2月7日～26日，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」，展示補助。

館内の人事・館外活等に関すること

【館内の人事】

2016年6月16・17日，第38回文化財の虫菌害・保存対策研修会，公益財団法人文化財虫菌害研究所，国立オリンピック記念少年総合センター（東京都渋谷区），研修・報告書作成。
2016年11月2日，平成28年度画像保存セミナー，一般社団法人日本写真学会，東京都写真美術館（東京都目黒区），研修・報告書作成。

研究活動に関する業績

【学会・研究会で発表など】

草加伸吾（2016年7月22日）半乾燥地での森林再生において倒木が日陰を提供し雨を集めることの重要性。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

草加伸吾（モンゴル森林再生促進研究会代表として）（2016年12月14日）「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発。平成28年度花博記念協会助成事業成果発表会「花と自然のフォーラム2016」，サンスクエア堺（堺市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者：大塚泰介)，研究協力員（2016年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

観察会、講座、体験教室等の計画、進行管理に関すること，副担当。

体験学習の企画、実施に関すること，副担当。

団体受付・下見対応，副担当。

里山体験教室に関すること，副担当。

サポートシートの企画、実施に関すること，副担当。

2016年4月5日，はしかけ「森人」立ち上げ，(林竜馬と共同)。

2016年4月17日，里山体験教室(春)，野洲市大篠原の里山，運営・講師，(安福俊幸と共同)。

2016年5月1日，はしかけ「森人」屋外ガイドツアー，琵琶湖博物館，企画・運営・講師，(林竜馬、小嶋陽太と共同)。

2016年5月8日，はしかけ「森人」，屋外ガイドツアー，琵琶湖博物館，企画・運営・講師，(林竜馬、小嶋陽太と共同)。

2016年5月8日・2017年3月12日，はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，更新・新規受付，2件。

2016年6月5日，はしかけ「森人」，大阪市立大学理学部附属植物園，視察案内，(林竜馬と共同)。

2016年7月9日，はしかけ「森人」，クズ伐採，琵琶湖博物館，運営・指導，(林竜馬と共同)。

2016年7月17日，昆虫採集・ハンモック・草遊び他，里山体験教室(夏)，野洲市大篠原の里山，運営・講師，(安福俊幸と共同)。

2016年8月6日，はしかけ「森人」，竹・クズ伐採，琵琶湖博物館，指導。

2016年8月27日，はしかけ「森人」，竹・クズ伐採，琵琶湖博物館，指導。

2016年9月10日，はしかけ「森人」，竹伐採，琵琶湖博物館，運営，指導，(林竜馬と共同)。

2016年9月24日，はしかけ「森人」，竹伐採，琵琶湖博物館，運営，指導。

2016年10月16日，木の実の自然観察・ハンモックとモバイル作り，里山体験教室(秋)，野洲市大篠原の里山，企画・運営・講師，(安福俊幸と共同)。

- 2016年11月5日，朽木の森の観察会～新展示ジオラマの本物を見に行こう！～，観察会，朽木麻生森林公園くつきの森（滋賀県高島市），講師，（NPO 麻生里山センター共催、林竜馬と共同）。
- 2016年11月12日，ありがとう交流会 びわ博フェス2016，屋外ガイドツアー（はしかけ「森人」），企画・運営，（林竜馬と共同）。
- 2016年12月24日，はしかけ「森人」，竹伐採，琵琶湖博物館，実施・指導。
- 2017年1月14日，はしかけ「森人」，動物写真回収・再セット、樹幹トレイル案検討，琵琶湖博物館，指導，（林竜馬、澤邊久美子と共同）。
- 2017年1月15日，火おこしと炭の自然観察会，里山体験教室（冬），野洲市大篠原の里山，企画・運営，（安福俊幸と共同），大雪で中止。
- 2017年3月12日，里山体験教室総会，琵琶湖博物館，補助，（安福俊幸と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

- 2016年7月24日，平成28年滋賀県植物研究会例会，伊吹山植物案内，運営・講師。
- 2016年11月4日，屋外周辺の森の樹木観察会，栗東市自然観察の森友の会悠々クラブ，琵琶湖博物館，講師。
- 2017年2月25日，平成29年滋賀県植物研究会総会・発表会，琵琶湖博物館，準備・運営。
- 2017年3月11日，体験学習ヨシ笛づくりの教材資料採取，ヨシ刈り，西の湖畔（滋賀県近江八幡市），（小林偉真、山本充孝、黄瀬金司、小島陽太と共同）。

印刷物

【学術論文】

- 村上大介・中西康介 (2016) 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ属について. さやばねニューシリーズ, 22, 日本甲虫学会: 23-26.
- Furukawa, M., Nakanishi, K. and Nishida, T. (2017) Relationship between environmental factors and cocoon color morph of a slug moth, *Monema flavescens* in the field. *Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology*, 27 (4), 日本環境動物昆虫学会: 133-139.

【専門分野の著作】

- 中西康介 (2016) カワムラナベブタムシ、タガメ、コバンムシ、ホッケミズムシ、ナガミズムシ、オオイチモンジシマゲンゴロウ、ミヤケミズムシ、オヨギカタピロアメンボ、ヒメミズカマキリ、コオナガミズスマシ、ミズスマシ、コミズスマシ、ヒメミズスマシ、オオミズスマシ、ヒメシマチビゲンゴロウ、クロホシコガシラミズムシ、マダラコガシラミズムシ、クビボソコガシラミズムシ、イトアメンボ、マルミズムシ、ヒメマルミズムシ、ミズカマキリ、ミゾナシミズムシ、ヒメコミズムシ、オナガミズスマシ、ハラグロコミズムシ、シマゲンゴロウ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2015年版一, サンライズ出版, 滋賀県: 413, 414, 421, 434, 435, 436, 437, 439, 441, 442, 456, 457, 458, 464, 501, 516.
- 中西康介 (2016) 近江八幡市におけるヒラズゲンセイの記録. *Came 虫*, 187, 滋賀むしの会: 13.
- 村上大介・中西康介 (2016) 甲賀市と大津市におけるマルケシゲンゴロウの新産地. *Came 虫*, 187, 滋賀むしの会: 19.
- 中西康介・村上大介 (2017) 琵琶湖博物館所蔵の滋賀県産水生半翅類標本リスト. *Came 虫*, 189, 滋賀むしの会: 10-13.
- 中西康介・村上大介 (2017) 多賀町立博物館所蔵の滋賀県産水生半翅・甲虫類標本リスト. *Came 虫*, 189, 滋賀むしの会: 17.
- 中西康介・村上大介 (2017) 膳所高等学校寄贈標本中の水生昆虫. *Came 虫*, 189, 滋賀むしの会: 18-19.

【一般向けの著作】

- 中西康介 訳 (2016) 琵琶湖で最も魅力的で気持ち悪い生き物～寄生虫たち. マーク・ジョセフ・グライガー 著, ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信, 26, コクヨ工業滋賀: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 富 小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之 (2016年5月15日) 水田珪藻群集と環境条件との対応. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学 (神戸市), [口頭発表].
- 富 小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之 (2016年10月22日) 水田における珪藻出現パターンのGLMを用いた解析, 日本珪藻学会第36回研究集会, 日本珪藻学会, 山形大学 (山形市), [口頭発表].
- 中西康介・古川真莉子・高倉耕一・西田隆義 (2016年11月12日) 同所的に生息するトノサマガエル属2種の繁

殖フェノロジーと幼生の発生状況. 日本環境動物昆虫学会第 28 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 信州大学 (長野県上田市), [口頭発表].

高倉耕一・中西康介・古川真莉子・西田隆義 (2016 年 11 月 12 日) トノサマガエル属 2 種の種判別のための核 DNA マーカーの開発. 日本環境動物昆虫学会第 28 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 信州大学 (長野県上田市), [口頭発表].

古川真莉子・高倉耕一・中西康介・沢田裕一・西田隆義 (2016 年 11 月 12 日) イラガの化性の変化は異なる繁殖集団によるものか. 日本環境動物昆虫学会第 28 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 信州大学 (長野県上田市), [ポスター発表].

富 小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・打越崇子・石川俊之 (2016 年 12 月 18 日) 水田に多い珪藻種の生態的最適点: GLM による解析. 第 7 回 琵琶湖流域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中西康介・村上大介 (2016 年 12 月 18 日) 滋賀県のため池に生息する水生昆虫の現状. 第 7 回 琵琶湖流域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

中西康介・古川真莉子・高倉耕一・西田隆義 (2017 年 3 月 16 日) トノサマガエルとナゴヤダルマガエルの野外個体群における繁殖実態と種間相互作用. 日本生態学会第 64 回全国大会, 日本生態学会, 早稲田大学 (東京都新宿区), [ポスター発表].

古川真莉子・高倉耕一・中西康介・沢田裕一・西田隆義 (2017 年 3 月 15 日) イラガの化性の減少を遺伝的要因からさぐる. 日本生態学会第 64 回全国大会, 日本生態学会, 早稲田大学 (東京都新宿区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物を用いた交流プログラムの開発」(研究代表者: 松田征也), 研究協力者 (2016 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2016 年度後期, 滋賀県立大学, 「環境動物学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2016 年 6 月 4 日, 棚田の生き物観察会・星空観察会, 平尾里山・棚田守り人の会, 平尾里山 (滋賀県大津市), 講師.

2016 年 7 月 23 日, 思い川散策 (水生生物観察会), 岩根東生涯学習委員会, 滋賀県湖南市, 講師.

2016 年 8 月 7 日, 田んぼでくらす水生昆虫のひみつ, 大津市科学館, 科学講演会, 大津市科学館 (滋賀県), 講師.

2016 年 8 月 27 日, 小脇地区魚類調査・観察会, 東近江市農業農村整備推進協議会, 滋賀県東近江市, 講師.

2017 年 2 月 26 日, 平尾里山棚田守り人の会 創設 10 周年記念行事, 平尾里山・棚田守り人の会, 平尾里山 (滋賀県大津市), 意見交換.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物標本仮登録: 微小生物混合サンプル (水野寿彦コレクション), 983 点: カイミジンコ類, 5 点: その他無脊椎動物, 18 点.

微小生物標本受入・整理・データ入力: 大型鰓脚類, 1755 点.

微小生物写真撮影, 287 枚.

微小生物動画撮影, 25 本.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「生き物コレクション（寄生虫）」コーナー，展示作製協力.

C展示室「田んぼへ」コーナー，展示作製協力.

C展示室「ヨシ原に入ってみよう」コーナー，写真提供.

水族展示室「マイクロアクアリウム」，展示作製・飼育管理補助.

2016年9月17日～2017年1月31日，第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，展示作製協力.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2015年4月～，滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会，委員.

2013年4月～，滋賀県立大学環境科学部，客員研究員.

印刷物

【一般向けの著作】

三樹友梨香 (2016) 資料裏話 その21 魅力がいっぱい、ヨシ松明！. 琵琶博だより, 25, 琵琶湖博物館: 4.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2016年5月2日, 展示交流員フィールド研修「サンヤレ踊り・すし切り神事の舞台裏見学」, 下新川神社(守山市幸津川町), 運営補助.

2016年5月29日, 漁師さんで行くエリ漁ツアー, 倶楽部LBM会員限定イベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2016年10月22日, 古代湖の魅力 琵琶湖と世界の古代湖, 開館20周年記念国際シンポジウム, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2016年12月23日, 私たちが奏でる琵琶湖の響き, アトリウムコンサート, 琵琶湖博物館, 司会・運営補助.

2017年1月3日, 野外見学会「勝部の火祭り」の舞台裏—伝統をささえる松明づくり—, 勝部神社(滋賀県守山市), 運営補助.

2017年1月15日, 百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合, 企画展示関連イベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

視察対応

2016年4月2日, 民俗収蔵庫の見学, 京都大学深町加津枝研究室, 琵琶湖博物館.

2016年5月8日, 民俗収蔵庫の見学, 京都造形芸術大学, 琵琶湖博物館.

2016年5月14日, 民俗収蔵庫の見学, 文化庁, 琵琶湖博物館.

2016年5月22日, 民俗収蔵庫の見学, 京都文教大学, 琵琶湖博物館.

2016年6月26日, 民俗収蔵庫の見学, 関西大学, 琵琶湖博物館.

2016年8月29日, 民俗収蔵庫の見学, 博物館実習生, 琵琶湖博物館.

2016年9月11日, 民俗収蔵庫の見学, 文化庁ほか, 琵琶湖博物館.

2016年9月12日, 民俗収蔵庫の見学, 文化庁ほか, 琵琶湖博物館.

2016年11月30日, 民俗収蔵庫の見学, はしかけ, 琵琶湖博物館.

2017年1月24日, 民俗収蔵庫の見学, はしかけ, 琵琶湖博物館.

2017年2月3日, 民俗収蔵庫の見学, 民俗資料提供者, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式Facebook, 原稿作成補助, 2件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

漁撈用具に関する打ち合わせ, 2件.

民俗資料寄贈受入, 受入対応, 4件.

考古収蔵庫資料，貸出対応，2件。
環境収蔵庫資料，貸出対応。
考古収蔵庫資料，特別観覧対応。
無形民俗文化財調査・聞き取り（守山市幸津川ほか），調査・記録，10件。
有形民俗文化財調査・聞き取り（大津市北比良ほか），調査・記録，3件。
漁撈用具の台帳整備，分類表作成。
古文書調査（野洲市三上），撮影補助。
温湿度管理（データ取り込み），52回。
定期収蔵庫清掃（民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2），10回。
定期清掃（収蔵庫廊下），7回。
定期清掃（B展示室），28回。
B展示室大掃除。
C展示室大掃除。
産業廃棄物処理作業，2件。
トラックヤード清掃。
生物環境調査，トラップ設置回収（民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2），3回。
図書室蔵書点検作業。
博物館チラシ斉発送作業，2件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「ヨシ原に入ってみよう」コーナー，展示品搬入対応，2件。
C展示室「ヨシ原に入ってみよう」コーナー，展示品設置立ち会い，2件。
C展示室「私たちの暮らし」リニューアル展示品製作に関する打ち合わせ・準備，2件。
2016年6月7日～6月19日，トピック展示「ビワッシーができるまで」，原稿作成・設営補助。
2016年9月17日～2017年1月31日，第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」，原稿作成補助・設営補助。

名誉学芸員
特別研究員

印刷物

【一般向けの著作】

川那部浩哉（2016）国際生態学会議（INTECOL 1990 横浜）顛末記. *日本生態学会誌*, 66, 日本生態学会：715-724.
川那部浩哉（2017）2016年読書アンケート. *みすず*, 59（1）, みすず書房：36-37.

研究活動に関する業績

【学会・発表会での発表】

川那部浩哉（2016年11月18日）本を読むということ 3. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会・研究会への参加】

2016年5月21日～22日, 柿田川生態系研究会, ホテル＝エルム＝リージェンシー（静岡県清水町）.
2016年5月24日, 河川生態学術研究会計画検討会, リバーフロント研究所（東京都）.
2016年9月3日～5日, 応用生態工学会大会, 東京大学農学部（東京都）.
2016年9月23日～25日, 日本魚類学会評議員会・年会, 岐阜大学（岐阜市）.
2016年9月26～27日, 河川生態学術研究会菊池川現地調査会, 鹿本市民センターひだまり公民館（熊本県）.
2016年10月30日, 柿田川生態系研究会・公開シンポジウム, 三島商工会議所（静岡県三島市）ほか.
2016年11月1日, 河川生態学術研究会研究発表会, 浜離宮朝日ホール（東京都）.
2017年1月19日, 河川生態学術研究会運営委員会, リバーフロント研究所（東京都）.
2017年2月9日, 山階鳥類研究所科学研究費特定奨励費研究成果発表会, 東京大学フィールドサイエンス棟（東京都）.
2017年2月14日, 河川生態学術研究会, 大手町ファーストスクエア＝カンフェレンス（東京都）.
2017年3月14日～17日, 日本生態学会大会, 早稲田大学早稲田キャンパス（東京都）.
2017年3月21日, 河川生態学術研究会運営委員会, リバーフロント研究所（東京都）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月26日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム企画委員会, リーガロイヤルNBC（大阪市）, 提言.
2016年4月27日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会総会, ルビノ京都堀川（京都市）, 提言.
2016年4月27日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会淀川毛馬堰・淀川大堰アユ遡上状態調査会, 国土交通省近畿地方整備局毛馬事務所（大阪市）, コメント.
2016年5月16日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田（東京都）, 提言.
2016年5月17日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社（京都市）, 提言.

2016年6月3日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン (東京都), 提言.

2016年7月26日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社 (京都市), 提言.

2016年9月6日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン (東京都), 提言.

2016年10月13日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会研究会, 京都大学防災研究所宇治川オープン=ラボラトリー (京都市), 提言.

2016年11月26日, 自然保護助成基金, プロナトウラファンド助成成果発表会・理事会, アーバンネット神田カンフェランス (東京都), 提言・コメント.

2016年12月11日, 自然と緑, 自然大学: 水域生態系—水と生きる, 近畿中国森林管理局 (大阪市), 講演.

2017年1月23日, 日本自然保護協会, 日本自然保護協会参与会・勉強会, 日本自然保護協会 (東京都), 提言・講演.

2017年2月20日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン (東京都), 提言.

2017年3月13日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田 (東京都), 提言.

2017年3月24日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社 (京都市), 提言.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.
2016年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【海外渡航】

2016年5月8日～17日, アイルランド共和国・連合王国, アイルランド島の自然と文化に関する調査研究.
2016年10月18日～28日, オランダ・ルクセンブルグ, ベネルックス地方の自然と文化に関する調査研究.

【館外の活動】

朝日21関西スクエア, 会員.
生き物文化誌学会, 評議員.
石垣島白保に空港を作らせない会, 会員.
International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集顧問.
Environmental Biology of Fishes, 編集顧問.
応用生態工学会, 名誉会員.
環境問題研究会, 会員.
九条科学者の会, 会員.
京都新聞社会福祉事業団, 理事.
京の川の恵みを活かす会, 顧問.
魚類自然史研究会, 会員.
黒潮実感センター, 会員.
国際生物学賞委員会, 委員.
国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 委員長.
子どもと川とまちのフォーラム, 顧問.
自然と緑「自然大学」, 教授.
自然保護助成基金, 理事.
生態学琵琶湖賞運営委員会, 委員.

世界自然保護基金ジャパン, 理事.
地球環境関西フォーラム企画委員会, 委員.
地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 委員.
地球環境関西フォーラム 100 人委員会, 委員.
DIVERSTAS (生物多様性科学国際共同計画) 科学委員会, 顧問.
長良川河口堰に反対する会, 会員.
長良川市民学習会, 会員.
日本魚類学会, 評議員.
日本自然保護協会, 参与.
日本生態学会, 名誉会員.
日本陸水学会, 会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.
Brazilian Journal of Biology, 編集顧問.
水俣病センター相思社, 会員.
水俣フォーラム, 会員.
八重山白保の海を守る会, 会員.
山階鳥類研究所研究推進協議会, 委員.
リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

印刷物

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2016) 住民参加型調査の博物館にとっての意義. 第42回全日本博物館学会研究発表要旨集: 47-48.
布谷知夫 (2017) 下之郷遺跡の木質遺物遺物. 下之郷遺跡関連調査報告書第23次報告書, 守山市教育委員会.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2016) 和泉葛城山ブナ林への想い. みどりのトラスト, 106, 大阪みどりのトラスト協会: 2-3.
布谷知夫 (2016) 植物のオスとメス. 自然観察のテーマ 113, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌「じねんじょ」, 115, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.
布谷知夫 (2016) 「博物館学」って何?. ミュージアム・パートナー通信, 23, 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー: 5.
布谷知夫 (2016) 地域・大学・博物館の連携に向けて. 三重大学・三重県総合博物館連携シンポジウム「地域連携の目指す姿」報告書, 三重大学: 3.
布谷知夫 (2016) ユリノキあれこれ. 自然観察のテーマ 114, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌「じねんじょ」, 116, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.
布谷知夫 (2016) 感性についての話. 自然観察のテーマ 115, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌「じねんじょ」, 117, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

布谷知夫 (2016年6月26日) 住民参加型調査の博物館にとっての意義. 第42回全日本博物館学会研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学 (東京都), [口頭発表].
布谷知夫 (2016年7月7日) 三重県総合博物館～開設の意義と今後の戦略～. 全国歴史民俗系博物館協議会第5回研究大会, 全国歴史民俗系博物館協議会, 石川県立美術館 (金沢市), [口頭発表].
布谷知夫 (2016年12月12日) ハンズオン研究会の趣旨ハンズオン展示の再考とその展開. 全日本博物館学会・日本展示学会合同シンポジウム「ハンズオン展示の再考とその展開」, 全日本博物館学会・日本展示学会, 南山大学 (名古屋市), [口頭発表].
布谷知夫 (2017年3月9日) 博物館とコレクションー収蔵庫の役割ー. 日本博物館協会平成28年度研究協議会, 日本博物館協会, 栃木県立博物館 (宇都宮市), [口頭発表].
布谷知夫 (2017年3月12日) 1970年代以降の地域博物館が目指したこと 地域博物館シンポジウム、小規模博物館が地域に対して果たす役割. 全日本博物館学会・日本ミュージアムマネジメント学会・吹田市立博物館, 吹田市立博物館 (大阪府), [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会役員・雑誌編集委員, 2016年4月～2016年5月.
全日本博物館学会会長, 2016年6月～2017年3月.
博物館学雑誌, 査読, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2016年11月12日, 秋の色探し, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, (外部協力者).
2016年11月20日, 食卓の植物学, 植物観察はしかけ, 琵琶湖博物館, (外部協力者).
2017年3月19日, 植物図鑑の使いかた, 植物はしかけ研修会, 琵琶湖博物館, (外部協力者).

他の博物館・機関等主催行事

- 2016年4月24日, 春の答志島の観察会, 三重県総合博物館ミュージアムパートナー, 三重県総合博物館ミュージアムパートナー野外観察会, 答志島(三重県鳥羽市), 指導.
- 2016年5月13日, 身近な森と植物, 郡山公民館成人講座基調講演, 郡山公民館(三重県津市), 講演.
- 2016年5月29日, 大阪城公園の自然観察会, NACS-J自然観察大阪連絡会野外観察会, NACS-J自然観察大阪連絡会, 大阪城公園(大阪市), 指導.
- 2016年6月13日, 三重県総合博物館の初期に考えたこと, 布谷さんの退職を祝う会, 三重県総合博物館, 三重県総合博物館(津市), 講演.
- 2016年6月25日, 会長としての抱負, 全日本博物館学会第42回総会会長挨拶, 全日本博物館学会, 明治大学(東京都千代田区), 講演.
- 2016年7月3日, 夏の答志島の観察会, 三重県総合博物館ミュージアムパートナー野外観察会, 三重県総合博物館ミュージアムパートナー, 答志島(三重県鳥羽市), 指導.
- 2016年8月23日, 私はこんなことを考えて館長をしてきた, 関西博物館研究会定例座学, 関西博物館研究会, 高槻市生涯学習センター(大阪府), 講演.
- 2016年8月27日, 弥生時代から続く人と植物との付き合い, 弥生人養成講座, 守山市教育委員会事務局文化財保護課, 下之郷史跡公園(滋賀県守山市), 講演.
- 2016年9月7日, オリエンテーション 研修の位置づけ, 第6回ミュージアム・エデュケーター研修, 文化庁生涯学習局博物館美術館学芸課, 東京都美術館(東京都台東区), 講演.
- 2016年9月7日, 博物館とエデュケーター, 第6回ミュージアム・エデュケーター研修, 文化庁生涯学習局博物館美術館学芸課, 東京都美術館(東京都台東区), 講演.
- 2016年9月7日, まとめと課題, 第6回ミュージアム・エデュケーター研修, 文化庁生涯学習局博物館美術館学芸課, 東京都美術館(東京都台東区), 講演.
- 2016年10月6日, 近江富士花緑公園植物観察会, 近江富士公園, 滋賀県営都市公園湖岸緑地近江富士花緑公園(近江八幡市), 指導.
- 2016年10月15日, 自然の観察, NACS-J自然観察指導員講習会第521回兵庫県, NACS-J日本自然保護協会, 六甲甲山自然の家(神戸市), 講演.
- 2016年10月15日, 自然観察会の総評, NACS-J自然観察指導員講習会第521回兵庫県, NACS-J日本自然保護協会, 六甲甲山自然の家(神戸市), 講演.
- 2016年10月16日, 自然観察のテーマひろい, NACS-J自然観察指導員講習会第521回兵庫県, NACS-J日本自然保護協会, 六甲甲山自然の家(神戸市), 指導.
- 2016年10月27日, 博物館の地域社会との関係, JICA平成28年度課題別研修「博物館とコミュニティ開発」コース, 国立民族学博物館・琵琶湖博物館, 国立民族学博物館(大阪府吹田市), 講演.
- 2016年12月14日, 始まりのあいさつ, 第6回ミュージアム・マネジメント研修, 文化庁, 東京国立博物館黒田会館(東京都江東区), 講演.
- 2016年12月14日, 博物館の社会的役割, 第6回ミュージアム・マネジメント研修, 文化庁, 東京国立博物館黒田会館(東京都江東区), 講演.
- 2016年12月14~16日, 第6回ミュージアム・マネジメント研修, 文化庁, 東京国立博物館黒田会館(東京都江東区), 講演.

2016年12月25日, 木材化石の観察方法実習, 滋賀県立米原高校地学クラブ, 滋賀県立米原高校(米原市), 指導.
2017年1月11日~12日, 博物館の教育事業についての視察と指導, 文化庁, 鹿児島県立上野原縄文の森, 指導.
2017年2月2日, 開会のあいさつ, 第6回ミュージアム・マネージメント研修, 文化庁, 葛飾郷土と天文の博物館(東京都葛飾区), 講演.
2017年2月3日, 「展示室での学び」ワークショップまとめとディスカッション, 第6回ミュージアム・マネージメント研修, 文化庁, 葛飾郷土と天文の博物館(東京都葛飾区), 講演.
2017年2月3日, 全体のまとめ, 第6回ミュージアム・マネージメント研修, 文化庁, 葛飾郷土と天文の博物館(東京都葛飾区), 講演.
2017年2月4日, 植物観察と「食卓の植物学」講義, 大阪自然環境保全協会インストラクター養成講座スペシャル講座, 大阪自然環境保全協会, 服部緑地公園(大阪府豊中市), 指導・講演.
2017年2月8日, 博物館の教育事業についての視察と指導, 文化庁, 呉市立美術館(広島県), 指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.
2016年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

2016年3月31日~2017年3月31日, 放送大学「博物館概論」担当講師.
2016年4月1日~2017年3月31日, 文化庁研修企画運営委員会, 座長.
2016年4月1日~2017年3月31日, 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会, 委員・会長代理.
2016年4月1日~2017年3月31日, タカラフォールディング助成評価委員会, 委員.
2016年4月1日~2017年3月31日, 国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会, 委員.
2016年4月1日~2017年3月31日, 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会, 委員.
2016年4月1日~2017年3月31日, 日本ヨシ笛協会顧問.
2016年4月1日~2017年3月31日, 関西自然保護機構, 監事.
2016年4月1日~2017年3月31日, 日本自然保護協会自然観察指導員講習会講師.
2016年4月1日~2017年3月31日, 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会, 委員.
2016年4月1日~2017年3月31日, 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会植物ワーキンググループ, 委員.
2016年4月1日~2017年3月31日, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 顧問.
2016年4月1日~2017年3月31日, 自然観察指導員三重県連絡会, 顧問.
2016年4月1日~2017年3月31日, 特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク監事.
2016年9月30日~2016年12月31日, (公)大阪自然環境保全協会設立40周年記念ポスターコンクール審査員.
2016年10月1日~2016年11月30日, 美術館・博物館の特徴的な取組に関する調査事業に係る技術審査専門員.
2016年9月1日~2016年12月31日, 文部省委員.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「古代農耕社会の魚：東アジアにおける養魚の成立」 (研究代表者：中島経夫)，研究代表者 (2014～2017 年度) 。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

JSPS 科学研究費委員会専門委員，2011 年 11 月～2016 年 12 月。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。

2016 年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

2012 年 4 月～，岡山理科大学生物地球学部，教授。

2012 年 4 月～，岡山理科大学大学院総合情報学研究科，教授。

名誉学芸員

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会自然保護委員会，淡水魚部会長，2014年6月～.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2016年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

2015年5月～2017年4月，長浜市（滋賀県）文化的景観保存活用委員会，委員.

2016年6月～2018年5月，滋賀県環境審議会，自然環境部会，部会長.

2016年2月～2017年3月 京都市文化財保護課，外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会，委員.

2016年6月～2017年3月，京都府建設交通部河川課，畑川ダム環境保全検討委員会，委員.

2016年9月～2018年8月，大阪府環境影響評価審査会，委員.

2010年～，ハリヨ問題検討会，委員.

2016年11月～2017年11月，近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会（(独)水資源機構），委員.

2016年7月～2017年3月，日吉ダム冷濁水対策検討会（(独)水資源機構），委員.

2015年7月～2018年6月，希少野生動植物種保存推進員（環境省自然環境局）.

2016年10月～2017年3月，平成28年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，汽水淡水魚類分科会検討委員.

2016年9月～2017年3月，琵琶湖における底層溶存酸素量類型指定検討会（環境省），委員.

2011年4月～，神戸学院大学人文学部教授.

名誉学芸員

特別研究員

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2016）水環境民俗調査法の開発と国際連携研究の軌跡. *淡海文化財論叢*, 8, 淡海文化財論叢刊行会：1-5.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業(基盤 B)「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」(研究代表者：用田政晴), 研究代表者 (2013～2016 年度).

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」(研究代表者：用田政晴), 研究代表者 (2016 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

日本民具学会, 評議員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2016 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2016 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【海外渡航】

2016 年 9 月 10 日～16 日, カナダバンクーバー市, 大学・博物館資料調査.

2016 年 10 月 15 日～18 日, 中国上海市, 博物館・民俗調査.

2016 年 12 月 8 日～13 日, 中国遼寧省瀋陽市・江蘇省南京市, 博物館・新石器時代集落調査、科研費調査会議.

2017 年 3 月 6 日～9 日, 台湾台北市, 博物館調査.

【館外の活動】

滋賀県立安土城考古博物館, 多言語化検討ワーキング会議, ワーキングメンバー.

名勝青岸寺庭園調査, 指導委員会, 委員.

研究活動に関する業績

【一般向けの著作】

天野一葉 (2016) どこでもだれでもフィールド情報1 海外から来た歌姫 ソウシチョウ *Leiothrix lutea*. 琵琶
博だより, 26, 琵琶湖博物館:3.

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定」 (研究
代表者:天野一葉), 研究代表者 (2014~2016 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2016年11月12日, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2016年11月13日, ありがとう交流会 びわ博フェス2016, びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年1月2日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年1月3日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク 貝覆い (貝合わせ) を作って遊ぼう, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年1月4日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年1月5日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク 貝覆い (貝合わせ) を作って遊ぼう, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年1月6日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年1月7日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク 貝覆い (貝合わせ) を作って遊ぼう, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年1月8日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年1月9日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
びわ博カルタウィーク 貝覆い (貝合わせ) を作って遊ぼう, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年1月15日, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」関連イベント,
び百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合, 琵琶湖博物館, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年度, 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 担当.

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「そ」の取り札・パネル, 制作協力.

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝 (2016) ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」活動報告. はしかけニューズレター, 琵琶湖博物館, 3件.

池田 勝 (2017) どこでもだれでもフィールド情報 2 “ちこあそ” やってます. びわ博だより, 28, 琵琶湖博物館: 3-4.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2016年4月20日～2017年3月15日, ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 企画・広報・運営, 11件.

2017年2月2日, 環境学習活動者交流会—企業のビオトープを使って—, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, パネラー.

他の博物館・機関等主催行事

2016年7月18日, 葦笛づくり, 博物館夏祭り実行委員会, 博物館夏祭り, ビバシティ彦根(滋賀県彦根市), 実演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年4月24日～2017年3月12日, にちようの森, せた♪森のようちえん, 子どもの自然体験活動, あさがら子どもと自然舎(栗東市), 11件.

2016年5月6日, 講演「琵琶湖学習オリエンテーション」, 草津市立玉川中学校, つながり学習ESD, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2016年5月13日, 観察・調査「河川の生き物」, 草津市立玉川中学校, つながり学習ESD, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2016年5月18日, 講演「琵琶湖ってどんな湖?」, 羽島市立竹鼻中学校, 琵琶湖環境学習, ラフォーレ琵琶湖(滋賀県守山市), 講師.

2016年5月25日, 観察「伯母川の生き物探し」, 草津市立志津南小学校, 3年時総合学習, 志津南小学校(滋賀県), 講師.

2016年5月25日, 講演「触れて描こう琵琶湖の魚」, 草津市立玉川中学校, つながり学習ESD, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2016年6月3日, 実習「琵琶湖の魚の解剖実験」, 草津市立玉川中学校, つながり学習ESD, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2016年6月8日, 講演「解剖のまとめ」, 草津市立玉川中学校, つながり学習ESD, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2016年6月10日, 「滋賀の企業だからこそできる環境・社会貢献セミナー」, マザーレイクフォーラム, CSR研究

会, フェリエ南草津 (滋賀県草津市), 運営委員.

2016年6月18日~2017年3月28日, チャレンジキッズ in ハートピア, 環境レイカーズ, 子どもの体験・居場所づくり, ハートピア八日市 (滋賀県東近江市), 企画広報運営.

2016年6月19日~2017年3月28日, 冒険キッズ in 雪野山, 環境レイカーズ, 子どもの自然体験活動, 雪野山公園 (滋賀県東近江市), 企画広報運営.

2016年6月24日, 講演「滋賀の食文化と外来生物」, 草津市立玉川中学校, つながり学習 ESD, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.

2016年7月14日, ワークショップ, NPO 法人碧いびわ湖, 吉川川ホテル再生プロジェクト, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

2016年7月16日~2016年12月26日, 滋賀県子ども県議会運営事業, 環境レイカーズ滋賀県子ども・青少年局, 子どもの権利活動, 企画広報運営.

2016年7月31日~2016年8月2日, びわ湖フィッシャーメンズキャンプ, 環境レイカーズ, 琵琶湖環境学習, 企画運営広報.

2016年8月6日~2016年8月21日, 棕川ビレッジキャンプ, 環境レイカーズ, 地域体験学習, 企画運営広報.

2016年9月15日, ワークショップ, NPO 法人碧いびわ湖, 吉川川ホテル再生プロジェクト, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

2016年10月7日, ワークショップ, NPO 法人碧いびわ湖, 吉川川ホテル再生プロジェクト, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

2016年10月11日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 武佐子ども園 (滋賀県近江八幡市), 講師.

2016年10月20日, ワークショップ, NPO 法人碧いびわ湖, 吉川川ホテル再生プロジェクト, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

2016年10月25日, 残したい農村の自然と現状, NPO 法人比良里山クラブ・大津市立志賀中学校, 総合学習, 守山地域 (大津市), 講師.

2016年10月26日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 武佐子ども園 (滋賀県近江八幡市), 講師.

2016年10月27日, 幼児期環境学習, 環境レイカーズ関西広域連合広域環境保全局, 平成28年度幼児期環境学習推進事業, 学校法人本願寺学園鷺森幼稚園 (和歌山市), 講師.

2016年11月2日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 速野幼稚園 (滋賀県守山市), 講師.

2016年11月9日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 速野幼稚園 (滋賀県守山市), 講師.

2016年11月16日, ワークショップ, NPO 法人碧いびわ湖, 吉川川ホテル再生プロジェクト, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

2016年11月18日, 活動のまとめ, 草津市立玉川中学校, つながり学習 ESD, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.

2016年11月26日, 野外料理体験, TANAKAMI こども環境クラブ, 子どもの環境学習, あさがら子どもと自然舎 (滋賀県栗東市), 講師.

2016年12月6日, 幼児期環境学習, 環境レイカーズ関西広域連合広域環境保全局, 平成28年度幼児期環境学習推進事業, 加島第1保育所 (大阪市), 講師.

2016年12月8日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 金勝第2保育園 (滋賀県栗東市), 講師.

2016年12月14日, 幼児期環境学習, 環境レイカーズ関西広域連合広域環境保全局, 平成28年度幼児期環境学習推進事業, 朝霧幼稚園 (兵庫県明石市), 講師.

2016年12月15日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 金勝第2保育園 (滋賀県栗東市), 講師.

2017年1月10日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 愛里保育園 (滋賀県豊郷町), 講師.

- 2017年1月17日，幼児自然体験型環境学習，環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課，幼児自然体験型環境学習運営事業，愛里保育園（滋賀県豊郷町），講師。
- 2017年2月2日，幼児期環境学習，環境レイカーズ関西広域連合広域環境保全局，平成28年度幼児期環境学習推進事業，和邇保育園（滋賀県大津市），講師。
- 2017年2月2日，幼児期環境学習，環境レイカーズ関西広域連合広域環境保全局，平成28年度幼児期環境学習推進事業，兵庫くすのき幼稚園（神戸市），講師
- 2017年2月17日，幼児自然体験型環境学習，環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課，幼児自然体験型環境学習運営事業，老蘇幼稚園（滋賀県近江八幡市），講師。
- 2017年2月22日，幼児自然体験型環境学習，環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課，幼児自然体験型環境学習運営事業，老蘇幼稚園（滋賀県近江八幡市），講師。
- 2017年3月9日，体験「吉川川ホタル放流」，NPO法人碧いびわ湖，吉川川ホタル再生プロジェクト，県立守山高校（滋賀県守山市），ファシリテーター。
- 2017年3月10日，講演「琵琶湖学習オリエンテーション」，草津市立玉川中学校，つながり学習ESD，玉川中学校（滋賀県），講師。
- 2017年3月24日，体験「ホタル再生に向けた作業」，NPO法人碧いびわ湖，吉川川ホタル再生プロジェクト，県立守山高校（滋賀県守山市），ファシリテーター。

印刷物

【学術論文】

柏尾珠紀（2016）稲作農業の機械化と女性農業労働の変化－滋賀県湖岸部集落における調査から－. 滋賀大学環境総合センター研究年報, 13, 滋賀大学：11-19.

【専門分野の著作】

柏尾珠紀・宮本結佳（2016）安土・西の湖周辺の概要. 滋賀の食事文化研究会 編, 食と暮らし：4-6.

柏尾珠紀・牧野厚史・谷口真人・渡邊紹裕（2016）変わりゆく母なる湖の水と暮らし. フィールドから考える地球の未来－地域と研究者の対話, 昭和堂：28-45.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「食・農・暮らしの再編とむらの女性力についての社会学的研究」（研究代表者：柏尾珠紀），研究代表者（2014～2016年度）.

滋賀大学環境総合センタープロジェクト「琵琶湖愛知川流域の地域間交流による持続可能な農村づくり」（研究代表者：柏尾珠紀），研究代表者（2016年度）.

瀬戸内海文化研究・活動支援助成「島の社会と家族、学校教育が若者の将来設計に及ぼす影響に関する研究－姫路市家島について－」（研究代表者：柏尾珠紀），研究代表者（2016年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2016年7月6日, 中日新聞, 湖国の食シリーズ 青トマトの利用, 取材協力.

2016年7月8日, KBS 京都ラジオ, 近江美味しもの 青トマトの利用, 出演.

2016年11月16日, 中日新聞, 湖国の食シリーズ 坂本の菊料理, 取材協力.

2016年11月18日, KBS 京都ラジオ, 近江美味しもの 坂本の菊料理, 出演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年7日～, 守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会, 委員.

2015年6月～, 京都府日本型直接支払制度支援委員会, 委員.

2015年10月～, 滋賀県緑化推進会, 委員.

2016年6月～, 認定NPO法人びわこ豊穰の郷, 理事.

印刷物

【学術論文】

- Ito, T., Kawase, S. and Hosoya, K. (2016) Morphological characteristic of a piscivorous chub, *Opsariichthys uncirostris uncirostris* (Teleostei: Cyprinidae), inhabiting Lake Mikata, Fukui Prefecture, Japan. *Biogeography*, 18: 53-58.
- Jeon, H. B., J. H. An, S. M. Kweon, S. N. Kim, J. N. Yu, B. J. Kim, Kawase, S. and H. Y. Suk (2016) Development of novel microsatellite loci and analyses of genetic diversity in the endangered somjin bitterling (*Tanakia somjinensis*). *Biochemical Systematics and Ecology*, 66: 344-350.

【専門分野の著作】

- 川瀬成吾 (2016) ゼゼラ、ヨドゼゼラ他 8 種. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物: 滋賀県レッドデータブック 2015 年版, サンライズ出版, 滋賀県.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 川瀬成吾・藤田朝彦・細谷和海 (2016 年 9 月 24 日) 森為三博士が収集した現存する淡水魚類標本. 第 49 回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 岐阜大学 (岐阜市), [ポスター発表].
- 小田優花・川瀬成吾・上原一彦 (2016 年 9 月 24 日) 秋産卵タナゴ類イタセンパラとカネヒラの仔稚魚期における形態的差異. 第 49 回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 岐阜大学 (岐阜市), [ポスター発表].
- Kawase, S. (2016 年 12 月 8 日) Systematics and evolution of small benthic cyprinids, *Biwia* and *Microphysogobio* in far-eastern Asia. 琵琶湖博物館・韓国国立洛東江生物資源館合同セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 高松真也・小西雅樹・羽多宏彰・山田卓実・川瀬成吾・細谷和海 (2017 年 1 月 28 日) 淀川水系木津川の魚類相とコクチバスの現状. 第 12 回外来魚除法交換会, 琵琶湖を戻す会, 草津市立まちづくりセンター (滋賀県), [口頭発表].
- 高松真也・小西雅樹・山田卓実・川瀬成吾・細谷和海 (2017 年 3 月 5 日) コクチバス侵入式段階の木津川における魚類相およびコクチバスの食性調査. 地域自然史と保全研究発表会, 関西自然保護機構, 大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区), [口頭発表].
- 川瀬成吾 (2017 年 3 月 17 日) スウェーデンの冒険船 Vega 号が収集した淡水魚標本. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2016 年 5 月, 近畿大学 3 回生, 「博物館学実習」.
- 2016 年 9 月～2017 年 1 月, 近畿大学 2、3 回生, 「博物館資料論」.

印刷物

【専門分野の著作】

- 北村美香（2016）民俗系博物館専門職員に求められる専門性について．*博物館研究*，12月号，日本博物館協会：15-17.
- 北村美香（2016）2015年度第8回研究会「来場者による大阪万博の経緯と長期記憶」報告．*学会ニュース*，116，全日本博物館学会：9-10.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 北村美香・日高昭子（2016年6月5日）人・モノ・記憶を伝える展示について．第35回日本展示学会，京都造形芸術大学（京都市），[ポスター発表].
- 北村美香（2016年9月10日）知の循環型社会におけるミュージアムリテラシーを考える．国際シンポジウム「ともに成長する博物館」，国立科学博物館（東京都），[パネルディスカッション].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎研究」（研究代表者：小川義和），研究分担者（2014～2016年度）.
- 科学研究費（基盤 C）「幼児と教員のミュージアム・リテラシーを育てる学習支援ツールの開発とその効果の検証」（研究代表者：釋知恵子），研究協力者（2015～2017年度）.
- 平成28年度花博記念協会助成事業「公園を学びの場とした学習プログラム開発と実施」（事業代表者：北村美香），代表者（2016年度）.
- 平成28年度近畿建設協会地域づくり・街づくり支援事業「環境や地域文化教育プログラムの協働企画イベント実施」（事業代表者：北村美香），代表者（2016年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 全日本博物館学会，事務局幹事.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2016年9月～2016年3月，びわこ学院大学子ども学科，「滋賀の環境」特別講師5回担当.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2016年4月9日，手のひら庭園をつくろう，滋賀県立近江富士花緑公園，桜まつり，滋賀県立近江富士花緑公園（野洲市），講師.
- 2016年4月10日，手のひら庭園をつくろう，滋賀県立近江富士花緑公園，桜まつり，滋賀県立近江富士花緑公園

- (野洲市), 講師.
- 2016年4月16日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年4月23日, そばの種まき, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～春夏の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年5月1日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, ゴールデンウィークイベント, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年5月2日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, ゴールデンウィークイベント, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年5月3日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, ゴールデンウィークイベント, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年5月4日, 手のひら庭園をつくろう, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクで遊ぼう! ゴールデンウィーク, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年5月5日, 手のひら庭園をつくろう, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクで遊ぼう! ゴールデンウィーク, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年6月11日, 水辺の生きもの下敷きをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年7月1日, 手のひら庭園をつくろう, 川瀬公民館, いきいき教室, 講師
- 2016年7月23日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 水辺の匠, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年7月24日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 水辺の匠, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年7月27日, チリモンキーホルダーを作ろう・3D琵琶湖模型を作ろう, TANAKAMI 子どもクラブ, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年7月31日, そばの収穫, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～春夏の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年7月31日, エコ缶バッジをつくろう, 大津市, 大津市エコフェスタ, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年8月20日, 水辺の生きもの下敷きをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年8月21日, そばの種まき, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～秋冬の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年8月27日, そば粉づくり, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～春夏の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年8月28日, そば打ち, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～春夏の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師.
- 2016年9月17日, チリモンキーホルダーをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年10月6日, 植物観察会, 滋賀県立近江富士花緑公園, カリヨクのそば作り～春夏の部～, 滋賀県立近江富士花緑公園 (野洲市), 講師補助.
- 2016年10月15日, チリモンキーホルダーをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.
- 2016年10月22日, アルバムディクショナリーをつくろう, 上野文化社, 数寄フェス, 上野公園内 (東京都), 講師.
- 2016年10月23日, アルバムディクショナリーをつくろう, 上野文化社, 数寄フェス, 上野公園内 (東京都), 講師.
- 2016年11月3日, うしにまつわる工作コーナー, 奥州市牛の博物館, あそんでまなぼう! うしはく探検隊, 奥州市牛の博物館 (岩手県), 講師.

2016年11月5日、ちりめんモンスターをさがせ！4、大船渡市立博物館、平成28年度大船渡市立博物館教育普及事業、大船渡市立博物館（岩手県）、講師。

2016年12月16日、そば粉づくり、滋賀県立近江富士花緑公園、カリヨクのそば作り～秋冬の部～、滋賀県立近江富士花緑公園（野洲市）、講師。

2016年12月17日、そば打ち、滋賀県立近江富士花緑公園、カリヨクのそば作り～秋冬の部～、滋賀県立近江富士花緑公園（野洲市）、講師。

2016年12月18日、アルバムディクショナリーをつくろう、公害資料館ネットワーク、公害資料館フォーラム、水俣市立公害資料館（熊本県）、講師。

2017年2月25日、子どもワークショップ見本市、大阪自然史センター、いわて県民情報センターアイーナ（盛岡市）、講師。

2017年3月20日、エコ缶バッジをつくろう、水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶、子ども水辺教室、水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市）、講師。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2016年7月1日～30日、集う 使う 創る新空間、生活写真「河川のある暮らしー河川と暮らした地域の記憶ー」、主催。

他博物館・機関の活動

明宝歴史民俗資料館、2016年8月2日、博物館デザイン学習会「伝わる展示の作り方」、講師。

京都国立博物館、2016年9月7～9日、展示論講座「そこにあるモノから考える展示づくり」、講師

Head Of The SETA (唐崎公園)、2016年11月26日、生活写真「河川のある暮らしー河川と暮らした地域の記憶ー」、主催。

水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶、2017年2月23日～3月5日、生活写真「懐かしの瀬田川写真展ー河川と暮らした地域の記憶ー」主催。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年1月7日～10日、台湾、科学研究費（基盤S）「デジタルコンテンツ活用事例」視察。

【館外の活動】

2016年4月～、公害資料館ネットワーク、ネットワーク世話人。

2016年4月～、三重県総合博物館、協議会委員。

2016年4月～、三重県総合博物館、協議会評価部会委員。

2016年4月～、博物館夏祭り実行委員会、実行委員。

2016年6月1日～2017年3月31日、第8回つなぐ人フォーラム実行委員会、実行委員。

2016年12月11日、淡海こどもエコクラブ活動交流会、選考委員。

印刷物

【一般向けの著作】

楠岡 泰 (2016) どこでもだれでもフィールド情報2 博物館からみた「マイクロアクアリウムの壁画制作」. *びわ
博* 25, 琵琶湖博物館: 3-4.

楠岡 泰 (2016) 芸術家がとらえた微小生物: 博物館と美術大学のコラボレーション. *月刊みんぱく*, 10月号:
4-5.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

楠岡 泰 (2016年10月10日) 微小生物の魅力を伝える琵琶湖博物館. 第49回日本原生生物学会, 日本原生生物
学会, 岡山大学 (岡山市), [教育賞受賞者講演].

松田征也・楠岡 泰 (2017年1月22日) 微小な生物の飼育技術開発および展示技法. 琵琶湖博物館研究報告会,
琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物を用いた交流プログラムの開発」(研究代表者: 松田征也), 研究分担者 (2016
~2018年度).

【受賞など】

日本原生生物学会教育賞, 2016年10月9日, 単細胞生物の魅力を子どもたちに伝えてきた功績によって.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2016年9月10日, マイクロアクアリウムを楽しもう, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 協力, (はしかけびわたん
共催).

2016年11月26日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 大津市仰木 (滋賀県), 協力, (はしかけ里山の会共同・カワセミ
自然の会共催).

他の博物館・機関等主催行事

2016年11月9~13日, Lake Biwa International Science Fair, 立命館守山高等学校, 琵琶湖および立命館守山
高校 (滋賀県守山市), アドバイザー.

2016年11月25日, Participation of the Local Community in Museum Activities: The Case Study of the Lake
Biwa Museum. JICA 博物館とコミュニティ開発コース, 国立民族学博物館 (大阪府吹田市), 講師.

2017年2月23日, プランクトンの模型作り, 国立科学博物館附属自然教育園職員研修, 国立科学博物館附属自然
教育園 (東京都港区), 講師.

メディアへの協力

2016年10月30日，滋賀報知新聞，琵琶湖博物館の楠岡特別研究員に「日本原生生物学会の教育賞」，取材対応．

2016年11月1日，毎日新聞，楠岡研究員に日本原生生物学会教育賞－琵琶湖博物館の企画評価，取材対応．

2016年11月18日，京都新聞，湖人彩々 単細胞生物にどっぷり，取材対応．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

黒岩啓子（2016年6月27日）博物館教育の理論と実践 1. 展示・教育プログラムの企画と運営. 明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業学芸員研修博物館教育セミナー, 南山大学人類学博物館(名古屋市), [講演].
黒岩啓子（2016年7月27日）博物館教育の理論と実践 2. 実践から評価まで. 明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業学芸員研修博物館教育セミナー, 明治大学博物館(東京都千代田区), [講演].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネジメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月～.
日本ミュージアム・マネジメント学会, 理事, 2015年6月～.
日本ミュージアム・マネジメント学会, ミッション・マネジメント研究部会 部会長, 2015年8月～.
全日本博物館学会, 役員, 2014年6月～.
日本ミュージアム・マネジメント学会第21回研究大会総会司会およびパネルディスカッション「多様化する社会とミュージアム 一人々とともにつくるミュージアムの文化的価値」のモデレーター, 北海道大学, 2016年6月17日～18日.
日本ミュージアム・マネジメント学会ミッション・マネジメント研究部会, 平成28年度第2回研究会「ミュージアムと著作権 Part2ー博物館教育事業の個人情報と著作権」, 総会司会および開催挨拶, 国立科学博物館, 2017年2月25日.
日本ミュージアム・マネジメント学会第22回研究大会実行委員会, 実行委員, 2017年2月4日～.
平成29年度科学研究費助成事業, 査読, 36件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月～, 奈良女子大学, 「博物館教育論」.
2012年9月～, 関西学院大学, 「博物館教育論」.
2013年4月～, 奈良女子大学, 「博物館情報・メディア論」.
2015年9月～, 千葉科学大学, 「博物館教育論」.
2016年9月～, 神戸女子大学, 「博物館概論」・「博物館経営論」.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他博物館・機関の活動

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館, 2013年6月～, 展示評価、来館者調査企画実施.
名古屋市教育委員会, 2017年3月～, 「歴史の里」展示基本設計事前検討支援業務.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2016年7月3日～9日、イタリア（ミラノ）、ICOM 24th General Conference, 出席.

2016年10月19日～21日、アメリカ（ハワイ）、Asia Pacific Children's Museum Conference, 出席.

【館外の活動】

2003年9月～、日本ミュージアム・マネジメント学会, 会員.

2003年9月～、全日本博物館学会, 会員.

2005年4月～、関西博物館研究会, 会員.

2006年2月～、日本国際理解教育学会, 会員.

2010年10月～、日本展示学会, 会員.

2012年3月～、文化遺産国際協力コンソーシアム, 会員.

2014年4月～、ICOM (International Council of Museums, 国際博物館会議), 会員.

2016年7月～、ICOM-ICME (International Committee for Museums and Collections of Ethnography) Board member,
ICME Conference Committee member, ICME Special Projects Committee member.

2016年12月～、東近江市博物館等運営委員会, 委員.

2016年12月～、独立行政法人日本学術振興会, 科学研究費委員会専門委員.

2016年10月24日、JICA研修 博物館とコミュニティ開発コース「Introduction of Museum Evaluation Methods」,
講師, 国立民族学博物館.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

川上将樹・篠原耕平・大塚泰介・Bosco Rusuwa・遊磨正秀・丸山 敦（2016年9月25日）マラウイ湖に生息するシクリッド魚類の摂食行動と食性分析から見えるニッチの柔軟性. 2016年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 岐阜大学（岐阜市）, [ポスター発表].

川上将樹・篠原耕平・大塚泰介・Bosco Rusuwa・丸山 敦（2017年3月15日）環境に関わらず重複するシクリッド魚類の同属種間のニッチ：胃内容の珪藻をマーカーにして. 第64回日本生態学会大会, 日本生態学会, 早稲田大学（東京都新宿区）, [ポスター発表].

印刷物

【学术论文】

- Zhu, W., Zhou, X.H., Chen, H.M., Gao L., Xiao, M. and Li, M. (2016) High nutrient concentration and temperature alleviated formation of large colonies of *Microcystis*: Evidence from field investigations and laboratory experiments. *Water Research*, 101, Elsevier: 167-175.
- Zhu, W., Chen, H.M., Guo, L.L. and Li, M. (2016) Effects of linear alkylbenzene sulfonate (LAS) on the interspecific competition between *Microcystis* and *Scenedesmus*. *Environmental Science and Pollution Research International*, 23, Springer: 16194-16200.
- Xu, F., Zhu, W., Xiao, M. and Li, M. (2016) Interspecific variation in extracellular polysaccharide content and colony formation of *Microcystis* spp. cultured under different light intensities and temperatures. *Journal of Applied Phycology*, 28: Springer: 1533-1541.
- Gong, M., Zhu, W., Zhang, H.W., Su, Y. and Fan, Y.J. (2016) Polycyclic aromatic hydrocarbon formation from gasification of sewage sludge in supercritical water: The concentration distribution and effect of sludge properties. *The Journal of Supercritical Fluids*, 113, Elsevier: 112-118.
- Xu, H.Q., Zhu, W., Qian, X.D., Wang, S.W. and Fan, X.H. (2016) Studies on hydraulic conductivity and compressibility of backfills for soil-bentonite cutoff walls. *Applied Clay Science*, 132-133, Elsevier: 326-335.
- Sun, Q.Q., Zhu, W., Li, M. and Tan, X. (2016) Morphological changes of *Microcystis aeruginosa* colonies in culture. *Journal of Limnology*, 75, PAGEPress: 14-23.
- Lv, Y.Y., Zhu, W. and Han, T.T. (2016) Mechanism Underlying Bonding Water Film Effect on Rheological Parameters. *Advances in Materials Science and Engineering*, 2016, Article ID 8451391, CRC Press: 1-8.
- Zhang, H.W., Zhu, W., Gong, M. and Rong, Z.X. (2016) Influence of alkali additions on gasification and phosphate recovery of cyanobacteria in supercritical water. *Fresenius Environmental Bulletin*, 25, Parlar Scientific Publications: 5765-5772.
- Wang, S.W., Zhu, W., Lv, Y.Y. and Zhang, H.W. (2016) An investigation into changes in phosphorus forms and phosphorus leaching from dredged sediments solidification of Taihu Lake. *Fresenius Environmental Bulletin*, 25, Parlar Scientific Publications: 5399-5405.
- Wang, S.W., Zhu, W., Qian, X.D., Xu, H.Q. and Fan, X.H. (2016) Study of threshold gradient for compacted clays based on effective aperture. *Environmental Earth Sciences*, 75, Springer: 693.
- Zhen, S.C. and Zhu, W. (2016) Analysis of isotope tracing of domestic sewage sources in Taihu Lake- A case study of Meiliang Bay and Gonghu Bay. *Ecological Indicators*, 66, Elsevier: 113-120.
- Li, M., Zhu, W., Guo, L.L., Chen, H.M. and Xiao, M. (2016) To increase size or decrease density? Different *Microcystis* species has different choice to form blooms. *Scientific Reports*, 6, Nature: 37056.
- Gong, M., Nanda, S., Romero, M. J., Zhu, W. and Kozinski, J. A. (2017) Subcritical and supercritical water gasification of humic acid as a model compound of humic substances in sewage sludge. *The Journal of Supercritical Fluids*, 119, Elsevier: 130-138.
- Wang, S.W., Zhu, W., Qian, X.D., Xu, H.Q. and Fan, X.H. (2017) Temperature effects on non-Darcy flow of compacted clay. *Applied Clay Science*, 135, Elsevier: 521-525.
- 朱伟·舒实·王升位·徐浩青·范惜辉 (2016) 垃圾填埋场渗沥液击穿防渗系统的指示污染物研究. *岩土工程学报*, 38, 中国科学技术协会: 619-626.

- 朱伟・徐浩青・王升位・范惜辉 (2016) CaCl₂溶液对不同黏土基防渗墙渗透性的影响. *岩土力学*, 37, 中国科学院 : 1224-1230.
- 朱伟 (2016) 环保疏浚及泥处理 4 大热点话题讨论. *水资源保护*, 32(1), 河海大学 : 190-194.
- 朱伟・胡黎明 (2016) 填埋场渗沥液污染地下环境及防污屏障立项报告. *科技资讯*, 4(31), 北京市科学技术研究院 : 186.
- 张亚洲・朱伟・陈健・闵凡路・史海岭 (2016) 膨胀土地层泥水盾构停机时开挖面破坏原因及防治措施研究—以扬州瘦西湖隧道工程为例. *隧道建设*, 36, 中铁隧道集团有限公司 : 549-555.
- 范惜辉・朱伟・王升位・徐浩青・舒实 (2016) 固化污泥固结渗透特性及孔隙变化试验研究. *东南大学学报*, 46(Z1), 东南大学 : 20-24.
- 甘雅雄・朱伟・吕一彦・杨琴 (2016) 从水分转化研究早强型材料固化淤泥的早强机理. *岩土工程学报*, 38, 中国科学技术协会 : 755-760.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業(基盤C)「*Microcystis*の群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」(研究代表者:朱偉), 研究代表者 (2015~2017年度).

印刷物

【専門分野の著作】

- 瀬口眞司 (2017) 西日本の縄文社会の特色とその背景—関西地方を中心に. 山田康弘・国立歴史民俗博物館 編, *縄文時代—その枠組・文化・社会をどう捉えるか?*(歴博フォーラム), 吉川弘文館, 東京: 113-135.
- 林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司 (2017) 琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて—滋賀県の遺跡における古生態学データの集成—. *紀要*, 30, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会: 97-105.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 瀬口眞司 (2016年4月29日) メソアメリカ考古学ともに学ぶ/モノ—社会論への視点. 近江貝塚研究会第270回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年5月14日) 土器から何をどう読むか. 近江貝塚研究会第271回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営・口頭発表].
- 瀬口眞司 (2016年6月25日) レンズの向うに見えるもの2016. 近江貝塚研究会第272回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年7月30日) 資料の総合的分析から我々は何を見出せるのか. 近江貝塚研究会第273回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年8月27日) 動物遺存体を通して何をどう見る. 近江貝塚研究会第274回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年9月24日) 縄文草創期研究を通して学ぶ〈人・環境〉の関係史. 近江貝塚研究会第275回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年10月29日) 縄文文化論革新への挑戦 資料に残る相違と共通を起点にして. 近江貝塚研究会第276回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営・口頭発表].
- 瀬口眞司 (2016年11月19日) 土器から領域と地域色を読む. 近江貝塚研究会第277回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2016年12月17日) 墓群形成と武力衝突から弥生社会論を見直す. 近江貝塚研究会第278回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2017年1月28日) 異型式土器の在り方から社会を問う. 近江貝塚研究会第279回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2017年2月25日) 古代の手工業生産を見直す. 近江貝塚研究会第280回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].
- 瀬口眞司 (2017年3月25日) いかにして過去の文化を読み解くか/動物考古学に学ぶ. 近江貝塚研究会第281回例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター (大津市), [座長、企画・運営].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 物質文化研究会, 物質文化, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2016年8月22日，土偶のヒミツ ―隠されたその正体を探る―，守山市教育委員会，守山市立埋蔵文化財センター
歴史入門講座，守山市立埋蔵文化財センター（滋賀県），講師。

2016年10月15日，縄文人のエコロジーとエコノミー 琵琶湖周辺の遺跡とその暮らし．野洲市教育委員会，秋期
企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺の生活史ー」記念講演会，野洲市立銅鐸博物館（滋賀県），講演。

2017年1月21日，縄文人のエコロジーとエコノミー ジョウモン・ニュータウン開発の秘密，栗東市教育委員会，
特集展示〈悠久の時のながれー湖南の縄文1万年ー〉記念講演会，栗東市立歴史民俗博物館（滋賀県），講演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年度前期，奈良大学，博物館学「博物館経営論」。

印刷物

【学術論文】

高梨純次（2016）甲賀市・櫛野、阿弥陀寺銅造誕生釈迦仏立像について. *淡海文化財論叢*, 8 : 101-106.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他博物館・機関の活動

MIHO MUSEUM, 2016年3月1日～5月15日, 「飾りー信仰と祭のエネルギー」展覧会, 企画.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年度前期, 同志社大学「博物館概論」.

2016年度後期, 同志社大学「博物館経営論」.

2016年度前期, 京都大学「博物館学Ⅰ」.

2016年度後期, 京都大学「博物館学Ⅱ」.

2016年9月, 京都女子大学集中講義, 「博物館展示論」.

2016年11月, スクーリング, 京都造形芸術大学通信教育部「美術資料調査方法論」.

印刷物

【専門分野の著作】

辻川智代 (2016) 安土・沖島. *DVD ブック 甦る民俗映像—渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った一九三〇年代の日本・アジア—*, 岩波書店.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

辻川智代 (2017 年 3 月 18 日) 滋賀県の機織り研究と地機の復元・活用. はたや記念フォーラム, はたや記念館 ゆめおーれ勝山 (福井県勝山市), [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

高島市文化遺産活用実行委員会, 朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト参加.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「近江はたおり探検隊」, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の主催行事

第 24 回企画展示「開館 20 周年記念 びわ博カルタ 見る 知る 楽しむ 新発見」, 「わ」の取り札・パネル (はしかけ「近江はたおり探検隊」), 制作協力.

印刷物

【専門分野の著作】

- 寺本憲之（2016）地域社会と野生動物被害の防除. 増補版 野生動物管理—理論と技術—, 文永堂出版, 東京: 143-151.
- 寺本憲之ら（2016）昆虫（蛾）類. 滋賀県で大切にすべき野生生物滋賀県レッドデータブック 2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 410-521.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 寺本憲之（2016年5月8日）滋賀県における落葉 *Quercus* 属を寄主とする鱗翅類の優占種. 日本鱗翅学会近畿支部第153回例会, 日本鱗翅学会近畿支部, 大阪市立自然史博物館（大阪市）, [口頭発表].
- 寺本憲之（2016年8月19日）ドングリの木はなぜイモムシ、ケムシだらけなのか?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 寺本憲之（2016年12月17日）幼生期未知のウスキボシキバガ（キバガ科）、ニッコウトガリバ（カギバガ科）などの生態. 日本昆虫学会近畿支部第53回大会・日本鱗翅学会近畿支部第154回例会, 日本昆虫学会・日本鱗翅学会近畿支部, 大阪市立自然史博物館（大阪市）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本野蚕学会, 委員（評議員）, 2003年～現在.
- 日本鱗翅学会, 近畿支部幹事, 2004年～現在（本部評議員期間を除く）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2016年6月11日, 第1回河辺林と中山間地での昆虫調査, 東近江市, 平成28年市民参加型生物多様性調査, 河辺いきものの森・甲津畑町（滋賀県東近江市）, 指導.
- 2016年9月4日, 昆虫観察会, 米原市公民館, きゃんせの森（滋賀県米原市）, 指導.
- 2016年10月22日, 将来の大中農業への提案—後継者へ期待すること—, 大中千拓地入植50周年記念式典実行委員会, ホテルニューオウミ（滋賀県近江八幡市）, 講演.
- 2016年11月19日, 第2回河辺林と中山間地での昆虫調査, 東近江市, 平成28年市民参加型生物多様性調査, 河辺いきものの森・甲津畑町（滋賀県東近江市）, 指導.
- 2016年12月2日, 新しい滋賀県農業への展望—「作る」から「創って売る」へ舵を切る!—, 滋賀バイオ産業推進機構, 平成28年度バイオ・プロジェクトサロン, 長浜バイオ大学（滋賀県長浜市）, 講演.
- 2017年1月19日～20日, 鳥獣害対策では地域ぐるみによる対策がなぜ必要なのか?・合意形成技術とリーダー育成手法について・鳥獣害対策グループ演習研修—課題の抽出・整理と対策組織体制・課題解決方法および年次・単年度実施計画の立案—. 農林水産省, 普及指導員研修 鳥獣被害防止対策支援研修（行政ニーズ対応

研修), 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市), 研修.

2017年3月28日, 衰退した養蚕業の新たな6次化への取り組みから農業ビジネス創出を探る. 滋賀バイオ産業推進機構, 平成28年度バイオ・プロジェクトサロン, 長浜バイオ大学 (滋賀県長浜市), 講演.

メディアへの協力

2016年10月24日, NHK, ニッポンの里山・ふるさとの絶景に出会う旅「和楽器の音色が守る水辺 滋賀県長浜市」, (2016年4月～6月取材対応).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年5月10日, 龍谷大学理工学部, 特別講義「里山保全と鳥獣害対策」.

2016年6月6日, 滋賀県立大学環境科学部, 環境FW2「内湖干拓地での農業の現状と問題点」.

滋賀県立大学, 客員研究員.

日本昆虫学会, 会員.

日本蛾類学会, 会員.

日本蚕糸学会, 会員.

誘蛾会, 会員.

びわ湖の森の生き物研究会, 幹事長, 2008年～現在.

農林水産省, 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー, 2016年～現在.

環境省, 鳥獣保護管理プランナー, 2010年～現在.

農林水産省, 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (シーズ創出ステージ・発達総合ステージ・実用技術開発ステージ), 審査専門評価委員, 2008年～現在.

滋賀県第二種特定鳥獣管理計画 (ニホンザル) 検討委員会, 委員, 2003年～現在.

滋賀県総合生きもの調査専門委員会, 専門委員, 2003年～現在.

印刷物

【学術論文】

Nakano, S., Kojima, S., Makino, K., Kayama, M., Mishido, H. and Akai, J. (2016) Cryptoperthitic and replacive intergrowths with iridescence in monzonitic rocks from Cerro Colorado, northern Chile. *European Journal of Mineralogy*, 28: 355–374.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野聰志 (2017年1月20日) 長石微細組織の謎. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

地球科学 (地学団体研究会), 編集エディター.

【受賞など】

地学団体研究会京都支部研究奨励賞, 2016年3月, 鹿児島県桜島産クリストバライトのフォトルミネセンスとカソードルミネセンス (地球科学, 69, 河野俊夫・鹿山雅裕共同受賞)・紫色レーザー光励起による方解石の複屈折についての教材 (地学教育, 68, 多賀 優・河野俊夫共同受賞).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「大津の岩石調査隊」, 指導補助 (顧問), 野外観察・講義等.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年6月6日, レイカディア大学, 「防災教育、減災教育について」.

2016年8月8日, 滋賀大学教育学部, 中高教員のための理系講座～地学領域～.

印刷物

【一般向けの著作】

中野正俊 (2016) 「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす資質・能力の育成. 平成 28 年度滋賀大学教育学部附属小学校短信 みずうみ, 145, 滋賀大学教育学部附属小学校: 10-11.

中野正俊 (2017) 社会教育施設、地域住民、学校の三者が協働する理科・環境学習. 近江教育, 678, 滋賀県教育会: 35-41.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携モデルの開発と汎用化」 (研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2015~2017 年度).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

廣石伸互 (2016年9月30日～10月2日) The lytic mechanism of a cyanobacteriolytic bacterium isolated in Japan. The 18th Asian Symposium on Microbial Ecology, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), [poster presentation].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水環境学会, 中部支部会, 理事.

マリンバイオロジー学会, 評議員.

沿岸環境関連学会, 連絡協議会, 運営委員.

日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.

福井県衛生環境研究センター, 調査研究等評価委員会, 委員.

小浜市環境審議会, 委員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2016年4月7日～7月29日, 白鳳短期大学, 微生物学, 非常勤講師.

2016年4月25日～7月27日, 公立若狭高等看護学院, 病態論 II, 非常勤講師.

2016年5月25日, 小浜とびうお会と奈良白鳳短期大学生との交流会, 白鳳短期大学, 企画.

2016年10月6日～2017年2月16日, 青丹学園, 病理学, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

- 藤岡康弘・岡本晴夫・石崎大介（2016）一定水温および変動水温下におけるホンモロコ卵の孵化時間. *水産増殖*, 64(1) : 97-102.
- 石崎大介・亀甲武志・藤岡康弘・水野敏明・永田貴丸・淀 太我・大久保卓也（2016）魚類の生息環境からみた琵琶湖と流入河川とのつながりの重要性. *魚類学雑誌*, 63(2) : 89-106.
- Higaki, S., Shimada, M., Kawamoto, K., Toda, T., Kawasaki, T., Tooyama, I., Fujioka, Y., Sakai, N. and Takada, T. (2017) In vitro differentiation of fertile sperm from cryopreserved spermatogonia of the endangered endemic cyprinid honmoroko (*Gnathopogon caerulescens*). *Scientific Reports*, 7: 42852, DOI: 10.1038/srep42852.

【専門分野の著作】

- 藤岡康弘（2016）現代に伝わるふなずしの多様性. 橋本道範 編, *再考「ふなずし」の歴史*. サンライズ出版, 滋賀県 : 269-293.
- 藤岡康弘（2017）サケ科魚類のプロファイルー14 ビワマス. *SALMON情報*, 10, 国立研究開発法人水産総合研究センター : 49-52.

【一般向けの著作】

- 藤岡康弘（2017）琵琶湖の魚は魅力がいっぱい. *ぼてじゃこトラスト 20周年記念誌「滋賀の魚つかみ文化を次世代に残したい！」*, ぼてじゃこトラスト : 27-28.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 藤岡康弘（2016年9月16日）ホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* の繁殖戦略. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 藤岡康弘（2017年3月3日）ホンモロコ孵化仔魚の絶食生残日数・給餌開始タイミングと水温の関係. 水産談話会, 滋賀県水産試験場（彦根市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者：橋本道範）, 共同研究者（2014～2018年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Journal of Fish Biology, 査読, 2件.
- 滋賀県東近江市環境審議会, 委員.
- 全国内水面漁業協同組合連合会, 水産多面的機能発揮対策支援事業サポート専門家.
- 日本水産資源保護協会, マリンエコラベル審査員.

博物館事業に関する業績

[交流・サービス事業]

琵琶湖博物館の主催行事

2016年10月22日、琵琶湖の漁業と人々の暮らしの変化、琵琶湖博物館開館20周年国際シンポジウム、琵琶湖博物館、講演。

他の博物館・機関等主催行事

2016年4月16日、琵琶湖の固有種ホンモロコの魅力に迫る、東近江市、能登川図書館(滋賀県東近江市)、講演。

2016年5月25日、琵琶湖の環境と魚、日野町立必佐小学校、日野町立必佐小学校(滋賀県)、講演。

2016年6月11日、東近江市のお魚観察会(夏)、東近江市およびびわ湖の森の生き物研究会、愛知川およびその支流(滋賀県東近江市)、観察会。

2016年8月27日、琵琶湖の魚たちの現状と回復への道、NPO法人・シニア自然大学校、此花会館(大阪市)、講演。

2016年8月29日、魚類漁獲量の長期変化から見た琵琶湖再生の課題と対策、水環境学会、滋賀大学大津サテライトプラザ(滋賀県大津市)、講演。

2016年9月1日、愛知川の自然、NPO法人・シニア自然大学校、自然観察会、愛知川(滋賀県東近江市)、講師。

2016年11月9日、ビワマスの生態観察会、東近江市、観察会、愛知川(滋賀県東近江市)、講師。

2016年11月14日、愛知川に人と生きものの賑わいを取り戻す、愛知川を考える会、永源寺コミュニティセンター(滋賀県東近江市)、講演。

2016年11月19日、東近江市のお魚観察会(秋)、東近江市およびびわ湖の森の生き物研究会、愛知川およびその支流(滋賀県東近江市)、観察会。

2016年11月27日、ホンモロコの資源回復に向けて未知の生態を探る、滋賀県試験研究機関連絡会講演会、琵琶湖博物館、講演。

2016年12月10日、ビワマスが産卵し稚魚が育つ川づくり、ビワマスフォーラム、野洲市、野洲図書館(滋賀県野洲市)、講演。

2017年2月8日、琵琶湖の環境と漁業・魚、宇治市、市民講座、宇治公民館(京都府)、講演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2016年12月28日～2017年1月9日、コスタリカ共和国、野生動物保護およびエコツーリズムに関する調査。

印刷物

【学術論文】

- Blakemore, R. J. (2016) Eco-taxonomic profile and mtDNA barcode of *Metaphire megascolidioides* (Goto & Hatai, 1899) – a megadrile earthworm from Japan, plus taxonomic miscellany. *VermEcology Occasional Papers*, 1, VermEcology, Japan: 1-16 (電子出版) .
- Nguyen, T. T., Nguyen, A. D., Tran, B. T. T. and Blakemore, R. J. (2016) A comprehensive checklist of earthworm species and subspecies from Vietnam (Annelida: Clitellata: Oligochaeta: Almididae, Eudrilidae, Glossoscolecidae, Lumbricidae, Megascolecidae, Moniligastridae, Ocneroдрilidae, Octochaetidae). *Zootaxa*, 4140 (1), Magnolia Press: 1-92.

【専門分野の著述】

- Blakemore, R. J. (2016) *Cosmopolitan Earthworms – an Eco-Taxonomic Guide to the Peregrine Species of the World*. VIth Edition, VermEcology, Yokohama/Zama, CD-ROM.
- Paoletti, M. G., Blakemore, R. J., Csuzdi, C., Dorigo, L., Dreon, A. L., Gavinelli, F., Lazzarini, F., Manno, N., Moretto, E., Porco, D., Ruzzier, E., Toniello, V., Squartini, A., Concheri, G., Zanardo, M. and Alba-Tercedor, J. (2016) Correction: Barcoding *Eophila crodabepis* sp. nov. (Annelida, Oligochaeta, Lumbricidae), a large stripy earthworm from alpine foothills of northeastern Italy similar to *Eophila tellinii* (Rosa, 1888). *PLoS ONE*, 11 (8), PLOS: e0160218, DOI: 10.1371/journal.pone.0160218.
- Blakemore, R. J. (2016) Acknowledged contributor to: Orgiazzi, A., Bardgett, R. D., Barrios, E., Behan-Pelletier, V., Briones, M. J. I., Chotte, J-L., De Deyn, G. B., Eggleton, P., Fierer, N., Fraser, T., Hedlund, K., Jeffery, S., Johnson, N. C., Jones, A., Kandeler, E., Kaneko, N., Lavelle, P., Lemanceau, P., Miko, L., Montanarella, L., Moreira, F. M. S., Ramirez, K. S., Scheu, S., Singh, B. K., Six, J., van der Putten, W. H. and Wall, D. H. eds., *Global Soil Biodiversity Atlas*. European Commission, Publications Office of the European Union, Luxembourg: 1-176, DOI: 10.2788/2613.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Blakemore, R. J. (2016年9月1日～10日) Earthworm biodiversity builds topsoil, increases water infiltration, provides food security and sequesters carbon for a safe global climate fix. IUCN World Conservation Congress, International Union for Conservation of Nature (Honolulu, Hawai'i), [ポスター発表].

印刷物

【一般向けの著作】

- 矢田直樹 (2016) 歴史街道をたどる 海津. *京都新聞*, 京都新聞社, 8月28日.
矢田直樹 (2016) 歴史街道をたどる 速水. *京都新聞*, 京都新聞社, 10月16日.
矢田直樹 (2016) 歴史街道をたどる 大野木. *京都新聞*, 京都新聞社, 12月18日.
矢田直樹 (2017) 親子で楽しむ文化財 ～まつりのミカタ～. *教育しが*, 4 (60), 滋賀県教育委員会: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 矢田直樹 (2016年6月30日) 太鼓踊り勉強会. 職員会館かもがわ (京都市), [企画・司会・運営].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者 (2014～2018年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2016年8月17日, 近江の奇祭—中山の芋競べ祭り—, 滋賀県教育委員会・滋賀県立琵琶湖文化館, 滋賀の文化財講座「打出のコヅチ」, コラボしが21 (滋賀県大津市), 講師.
2016年9月1日, 近江中山の芋競べ祭り探訪会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク・滋賀県教育委員会, 近江中山の芋競べ祭り探訪会, 日野町中山 (滋賀県), 司会.
2016年10月9日, 三上のずいき祭り探訪会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク・滋賀県教育委員会, 三上のずいき祭り探訪会, 野洲市三上 (滋賀県), 司会.
2016年11月26日, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク研修会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク研修会, ライズヴィル都賀山 (滋賀県守山市), 司会.
2017年1月19日, 世界遺産・日本遺産について, 文化・経済フォーラム滋賀, 第2回提言チーム研究会, 旧大津公会堂 (滋賀県大津市), 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2015年～2016年, 小浜放生祭総合調査 (福井県教育庁), 調査員.

総合研究・共同研究による印刷物

- Blakemore, R. J. (2016) Eco-taxonomic profile and mtDNA barcode of *Metaphire megascolidioides* (Goto & Hatai, 1899) - a megadrile earthworm from Japan, plus taxonomic miscellany. *VermEcology Occasional Papers*, 1, VermEcology, Japan: 1-16 (電子出版) .
- Hoshina, R. and Kusuoka, Y. (2016) DNA analysis of algal endosymbionts of ciliates reveals the state of algal integration and the surprising specificity of the symbiosis. *Protist*, 167 (2), Elsevier: 174-184.
- 高橋啓一 (2016) 隠岐諸島周辺の海底から産出したナウマンゾウ化石. *隠岐の文化財*, 33, 隠岐町教育委員会: 45-53.
- Rogers, D. C. and Olesen, J. (2016) Laevicaudata catalogus (Crustacea: Branchipoda): an overview of diversity and terminology. *Arthropod Systematics and Phylogeny*, 74 (3): Senckenberg Gesellschaft für Naturforschung: 221-240.
- 富川 光・平嶋健太郎・平井厚志・内山りゅう (2016) 伏流水から採集された三重県初記録のヨコエビ2種 (節足動物、甲殻亜門、端脚類). *南紀生物*, 58 (1), 南紀生物同好会: 19-21.
- Tomikawa, K., Nakano, T., Sato, A., Onodera, Y., and Ohtaka, A. (2016) A molecular phylogeny of *Pseudocrangonyx* from Japan, including a new subterranean species (Crustacea, Amphipoda, Pseudocrangonyctidae). *Zoosystematics and Evolution*, 92 (2), Pensoft and Museum für Naturkunde: 187-202.
- Watanabe, K. Tominaga, K., Nakajima, J., Kakiola, R. and Tabata, R. (2017) Chapter 7. Japanese freshwater fishes: biogeography and cryptic diversity. Motokawa, M. and Kajihara, H., eds., *Species Diversity of Animals in Japan*. Diversity and Commonality in Animals, Springer: 183-227.
- Yamakawa, C., Momohara, A., Saito, T. and Nunotani, T. (2017) Composition and paleoenvironment of wetland forests dominated by *Glyptostrobus* and *Metasequoia* in the latest Pliocene (2.6 Ma) in central Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 467, Elsevier: 191-210.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- Reed, S. K., Duff, R. J. and Weeks, S. C. (2015) A systematic study of the genus *Eulimnadia*. *Journal of Crustacean Biology*, 35 (3), Brill and The Crustacean Society: 379-391.
- Takahashi, K., Baba, R., Kondo, Y., Kitagawa, H. and Seki, M. (2016) Observation by X-ray computed tomography of the Usuda specimen of *Mammuthus "trogontherii"*. *Bulletin of Nojiriko Museum*, 24, Nojiri-ko Museum: 1-6.

*編集者注：著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、アルファベット順に並べた。

2016 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館は1996年4月に設立し、10月に開館してから、今年度20周年の節目を迎えた。開館直後に策定された中長期基本計画は昨年度(2015年度)で終了し、今年度は2013年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画に追加する研究活動編をまとめた。研究部では今後も研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を継続して行う。その方向性として、(1)琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究(3)「木から森へ」の博物館学の追求を掲げた。併せて2020年度までの行動計画を作成した。その創造基本計画に従って、今年度は7月に第1期展示リニューアルとして、C展示室および水族展示室が一新した。今回のリニューアル展示は、これまで20年間の当館ならではの学術的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かしたものとなっている。来年度は第2期交流空間のリニューアルの実施設計となる。

また、今後の琵琶湖博物館の研究の方向性を示すシンポジウムを開館20周年記念として企画実施した。2016年10月22日、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団から協賛を受け、開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖」と題し、博物館ホールで開催した。世界の古代湖との比較から琵琶湖の魅力を再発見してもらうため、古代湖研究に関わる海外研究者を招聘し、学術的、国際的なシンポジウムでありながらも地域の人々にもわかりやすい講演を行った。また、それに併せて、特別研究セミナー『古代湖研究最前線』を開催し、海外の古代湖における研究成果と琵琶湖地域の研究成果の情報交換やそれらの内容をインターネットによる発信を行なった。その一環として、現地で解説するフィールドエクスカージョンも実施し、今後の研究推進に必要な実質的な議論や交流を行なった。

さらに、今後の新たな研究展開として、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を進める。そのために、韓国の淡水生物を研究する専門機関である韓国洛東江生物資源館との相互協力を模索し、情報交換する合同セミナーを双方で1回ずつ(2016年11月韓国、12月滋賀)実施した。今後「古代湖」や「東アジア水系」の特徴や価値を見出す比較研究を推進するには、国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究など協力関係を密接にとっていく必要がある。

今年度の研究発信は、学術論文24件、専門分野の著述25件、一般向けの著述49件、学会発表は39件であった。研究成果の発信数は論文数において昨年度同様、低い水準に留まった。その一方で、リニューアル展示に関することや20周年記念としての一般向けの著述が増加した。研究発信の1つである企画展示では、第24回企画展示 開館20周年記念「びわ博カルタ 見る知る楽しむ 新発見」と題し、2016年9月17日から2017年1月31日まで開催した。これまでの20年間の研究成果をカルタ形式で紹介するもので、学芸員全員、特別研究員やはしかけ・フィールドレポーターなど博物館で行われた研究を網羅的に紹介することができた。研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるために、中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆のほか、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。今年度は第1期“琵琶湖の生きものの不思議”をテーマとし、第1号「ゾウやワニもいた琵琶湖」第2号「きみも寄生虫博士になろう」第3号「田んぼにいるイタチムシ」を発売し、今後も継続してその充実を図っていききたい。また、新琵琶湖学セミナーは「展示リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」と題し、昨年度に続き、リニューアルにかかわる研究成果と新展示の内容を深く理解してもらう研究発信一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、C展示・水族展示室のリニューアル展示作成にかかわった学芸員がその制作過程やこだわりなどの紹介とそれぞれの専門分野の第一線、最新の成果を交えて講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行い、合計137名の参加があった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

研究部長 山川千代美

琵琶湖博物館業績目録 第 21 号

2016 年度

平成 29 年（2017 年）7 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)